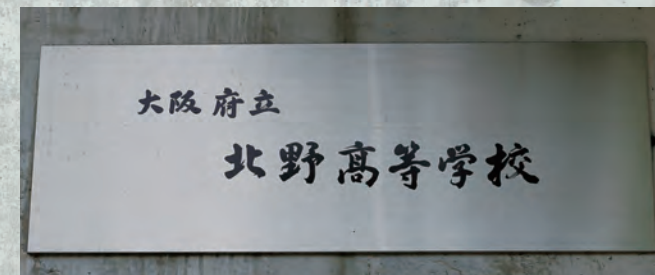


# 60年のあゆみ



2017  
東京六稜会

## 目次

### 60年のあゆみ

航空写真	2
会長挨拶・活動体制	3
東京六稜会60年の歴史	4
東京六稜会誕生物語	5
写真で見る東京六稜会	6
東京六稜会の活動-1・第60回総会レポート	8
東京六稜会の活動-2・東京六稜倶楽部	10
東京六稜会の活動-3・KITANO Cafe	12
東京六稜会の活動-4・分科会	14
東京六稜会60周年座談会-1	16
東京六稜会60周年座談会-2	19
東京六稜倶楽部 講師と演題一覧	22
思い出の母校・懐かしの北野グッズ	26
北野の記念碑と記念樹	28
<b>総会の記録(第51回～第59回)</b>	
第51回総会～第59回総会	30
<b>50年のあゆみ&lt;再録&gt;</b>	
東京六稜会発足まで	40
各回総会報告(第18回～第49回)	41
座談会「東京六稜会50年を振り返って」	61

# 60年の歩み



昭和時代



現在





# 60周年にあたって

東京六稜会は、今年60周年を迎えます。

本会は、関東に居住する北野高校卒業生がつながる「絆」としての役割を果たしています。その絆とは、同期が再会・交流する「横の絆」、世代を超えて集う「縦の絆」、そしてOBと現役を結ぶ「北野高校の絆」でもあります。

東京六稜会を未来に向かってさらに発展させていくために、私は3つのコンセプトを大切にしたいと考えています。

1つ目は、伝統の継承。60年続いて来た良き伝統を若い世代に継承してもらうことです。

2つ目は、新しい風の導入。魅力ある事業・イベントの企画に取り組み、新しい東京六稜会へと進化するという事です。

3つ目は、卓越性の追求です。さすが北野高校の同窓会だと言われるような、優れた組織・活動を実現することをめざしたいと思います。

伝統を継承し、新しいことに挑戦し、他校が感嘆するような同窓会となっていく。これこそが六稜魂の発露であると信じます。

東京六稜会では、2016年より下記の5つの委員会と3つの分科会を設置してさまざまな取り組みを始めており、今後もっと面白い、もっと参加したくなるような会をめざして積極的な活性化を図っています。これらの委員会や分科会に、一人でも多くの会員の皆様のご理解とご参加を期待しています。

また同窓会は、同窓生の親睦のための存在ではありますが、本来、母校を支援する役割もあると考えます。

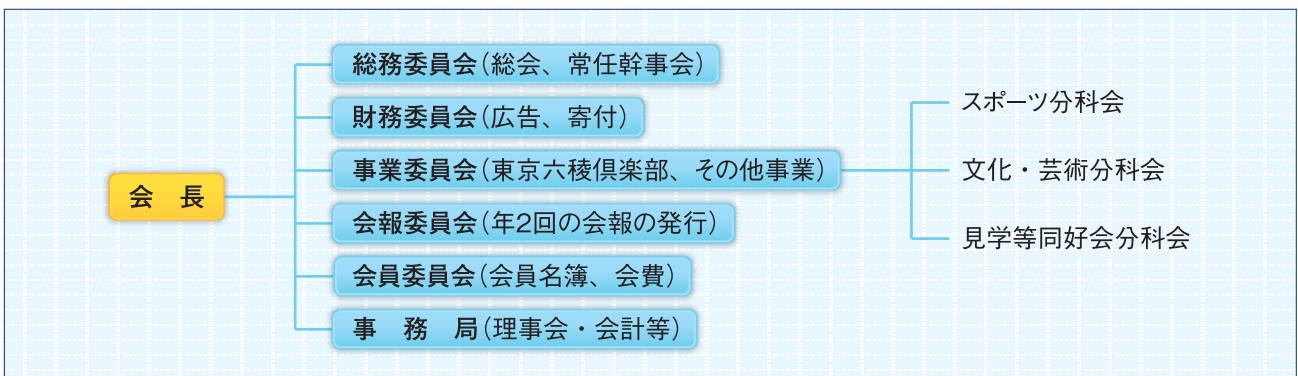
6年後には北野高校創立150周年を迎えますが、これに向けて、同窓会として何かできることがあるか、例えば、母校のクラブ活動の部室が壊れそうになっている現状に対して、大阪と東京の同窓会が共同で寄付を募って資金を集めるなど、現役生を支援することができればと考えています。

皆様と一緒に、北野の同窓会は素晴らしいと言われる活動めざして、さらに努力して参りたいと思います。

東京六稜会会長

(77期)

## 活動体制



# 東京六稜会60年の歴史

1957(昭和32)年	東京六稜会設立の動きが活発化
1958(昭和33)年	東京六稜会発足 初代会長はアサヒビール社長・山本為三郎さん(25期)
1960(昭和35)年	東京六稜総会を光輪閣(高松宮邸)にて初めて開催
1977(昭和52)年	第20回総会を開催、参加者は歴代最高の350人を数える 皆勤賞・精勤章の表彰が行われ、賞品は恩師・岡島吉郎先生による 母校の油絵と手塚治虫さん(59期)の漫画色紙が贈られた
1982(昭和57)年	第25回総会を開催 福引の賞品として森繁久彌さん(45期)の色紙 と「屋根の上のバイオリン弾き」のチケットが提供される
1987(昭和62)年	第30回総会開催 小冊子「東京六稜会30年のあゆみ」を配布
1988(昭和63)年	第31回総会において、前年府下優勝し花園出場を果たした ラグビー部のパネルやVTRを展示し、大いに盛り上がる 50歳当番期制スタート、第1回目は69期が担当
1989(平成1)年	第32回総会において、京大オーケストラ部による生演奏が披露される
1990(平成2)年	東京六稜会の名簿が電子化される
1995(平成5)年	阪神大震災で北野高校校舎に被害が発生
1997(平成9)年	第40回総会を開催 この会では校歌斉唱を応援部のリードではなく、 東京芸大の声楽部・岡田早代子さん(109期)とともに斉唱 この年より、名簿を大阪と統一して大阪で一元管理
2003(平成15)年	北野高校の新校舎竣工 六稜会館(同窓会館)竣工 東京六稜倶楽部が発足 月1回の講話とランチの会が銀座ライオンにてスタート
2007(平成19)年	第50回総会を開催 この回より開催を平日夕から土曜昼に変更 第20回総会の350人に次ぐ300人近い出席者が集う 小冊子「東京六稜会50年のあゆみ」配布
2013(平成25)年	若手を中心とした若手交流会が始まる
2016(平成26)年	若手交流会を発展させ、平日夕方に開催する「KITANO Cafe」スタート 東京六稜会報(カラー版)の年2回配布がスタート
2017(平成29)年	第60回総会を開催、東京六稜会が還暦を迎える 東京六稜倶楽部が9月で177回を重ね、のべ参加者は10,708名に達する 小冊子「東京六稜会60年のあゆみ」制作

# 東京六稜会誕生物語

1958年(昭和33年)に設立された東京六稜会が、このほど60周年を迎えました。いまでは3,700人を超える会員を抱え、活発な活動を展開している東京六稜会ですが、60年前、いったいどのような経緯で設立されたのでしょうか。諸先輩方の熱い思いが息づく、東京六稜会誕生にまつわるストーリーをご紹介します。

## 苦勞した初代会長への就任依頼

昭和32年の春頃のこと。それまで各期ごとに在京の北野高校卒業生が小さな集まりを持っていた中で、「横のつながりである同期会だけでなく、縦のつながり、すなわち、明治・大正の大先輩から新社会人までを網羅する在京卒業生の会を持つのではないか」という機運が高まってきました。旗振り役は、当時、十六銀行の亀山仁郎さん(47期)を中心に、松村一馬さん(38期)、吉田益雄さん(49期)、片岡誠さん(50期)、根岸要さん(51期)ら。この発起人メンバーが幾度も会合を重ね、会の青写真を描いていきました。

そして、会を立ち上げるからにはトップが必要ということになり、先輩の中から白羽の矢を立てたのが、当時アサヒビール社長であった山本為三郎さん(25期)でした。発起人メンバーが再三、会長就任をお願いしますが、なかなか頭を縦に振っていただけない。理由は、「会長になれば寄付と就職の斡旋を頼まれることになるのがオチ」とのこと。

困り果てたメンバーが当時日本木槽木管(株)の高垣仟二郎さん(39期)に相談したところ、朝日新聞社に勤務していた高垣さんの弟さんが山本さんと既知であり、口添えを得てようやく承諾してもらったというエピソードが残されています。ただし、寄付と

就職の斡旋は、一切発起人メンバーが責任を持つということで納得していただいたのだとか。

## 大阪に先駆けて組織された同窓会

東京を中心とした首都圏の同窓会組織の名称は「東京六稜会」に決定。昭和33年5月23日、産経会館内の新東京グリルにおいて、創立総会が開催されました。ここに、東京六稜会はめでたく産声を上げたわけです。

当日の出席者数は、500名に呼びかけのうち100名余。メールもSNSもない時代、ハガキ1枚でここまで集まったのはさすがというべきで、誰もが、懐かしい北野の同窓生と集う場を待ち望んでいたのではないのでしょうか。

ところでこの頃、大阪の同窓会はまだ組織されていませんでした。ですから東京六稜会は、全国の同窓会の中でトップを切って誕生したというわけです。

## 高松宮邸「光輪閣」を会場に

もうひとつ、「さすが北野」と思わせるエピソードをご紹介します。第3回から14回までの総会は、途中で例外はあるものの、東京高輪にある元・高松宮邸の「光輪閣」で開催されています。残念ながら当時の写真は残されていませんが、出席者の記憶によると、重厚な建物と庭園がすばらしく、同窓会でこのような会場が使用できるとはと驚いたとのことでした。この光輪閣は現在は取り壊されており、その佇まいを見ることはできませんが、往時の先輩方の心には、忘れがたい思い出として鮮やかに残っているのではないのでしょうか。

## 歴代会長

初代会長	山本為三郎氏(25期)	アサヒビール社長(1958年より)
第2代会長	八木秀次氏(16期)	昭和31年文化勲章受賞 八木アンテナ発明者(1965年)
第3代会長	前田和三郎氏(25期)	横綱審議委員会(1966年より)
第4代会長	玉置敬三氏(38期)	東芝取締役会長(1977年より)
第5代会長	河崎晃夫氏(49期)	三菱レイヨン(株)会長・社長(1987年より)
第6代会長	大山利雄氏(56期)	野村システムサービス(株)社長(1997年より)
第7代会長	志甫溥氏(66期)	TBS(株)会長(2004年より)
第8代会長	太田省三氏(77期)	東京金融取引所社長(2016年より)

# 写真で見る東京六稜会



2000年8月に集まったOB



高垣仟二郎(39期) 森繁久弥(45期) 千田稔(57期)



1979年 森繁久弥(45期) 松島みどり(87期) 大山利雄(56期)  
高垣仟二郎(39期) 山元一夫(64期)



2002年 黒岩暎一(75期) 大山利雄(56期) 山根義雄(65期)



1998年 120周年記念六稜同窓会乾杯の大山利雄(56期)

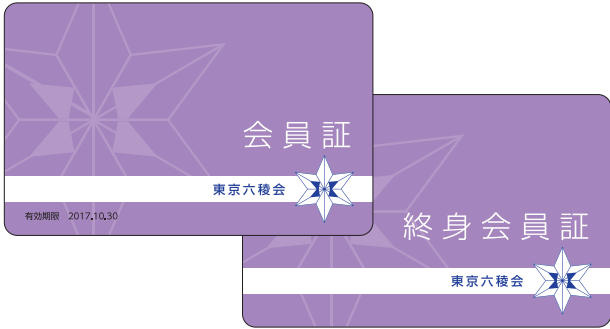


2009年 マイクロソフトカップ優勝、  
MVP受賞の廣瀬俊朗(112期) 慰労会



2010年 黒岩暎一(75期) 松本邦宏(70期) 山上芳昭(79期)  
志甫溥(66期) 橋本操(73期) 大山利雄(56期)





### 第170回 東京六稜倶楽部

**本日の卓話**

「北野高校」

神戸女学院大学文学部  
NHKアナウンサー「あさイチ」司会  
**有働 由美子氏 99期**

「私原点」

### 第121回 東京六稜倶楽部

**次回の卓話** 二〇一三年一月十六日(水)

順天堂大学教授  
**奥村 康氏 73期**

**不良**

### 第158回 東京六稜倶楽部

**本日の卓話** 二〇一六年二月十七日(水)

「1勝2分21敗から3勝1敗へ  
何が日本ラビーを変えたのか」

慶応義塾大学理工学部機工学科  
ラビイウエルカブキャプテン 志レシラル六編  
**廣瀬 俊朗氏 112期**



### RIKURYO 東京六稜会会報

春 2017 04.27

特集 東京六稜会 60周年を語る

第60回 東京六稜会総会のご案内

シーズ 庭美人訪博  
東京六稜会理事  
東京六稜会趣味人  
母からの風  
スタート

東京六稜会会報 2014年号

「東京六稜倶楽部発足の経緯と今後の課題」

東京六稜会会報 2015年号

「大阪」を想う

東京六稜会会報 2012年号

「北野と南開」

東京六稜会会報 2013年号

北野高校同意に思いを寄せて

第57回総会のご案内

6月21日(土) 13:00～(総会)  
12:00より受付開始  
総会場所 榎本 正樹氏(95期)  
「感想探査をドライブするものは何か」

第56回総会のご案内

6月15日(土) 13:00～(総会)  
12:00より受付開始  
総会場所 谷野 麗子氏(94期)  
「これからの食と農を考える  
～生活者と生産者の視点から～」

第55回総会のご案内

6月1日(金) 18:00～(総会)  
17:00より受付開始  
総会場所 奥 真由氏(93期)  
「自己決定権時代の日本人  
～放射線避難中の福島県から～」



### 懐かしさ、楽しさ、驚きも満載の総会

記念すべき第60回東京六稜会総会が、2017年6月17日、昭和の古き良き時代の面影を残す学士会館において開催され、例年を上回る242名もの同窓生が集い、ともに60周年を祝いました。

東京六稜会および当番期の98期は、この記念の会を成功させようと、1年をかけて準備を重ねてきました。母校から遠く離れた関東在住の同窓生に向け、北野高

校をベースに『昔を懐かしむ(過去)』、『今を知る(現在)』、そして『新たに繋がる(未来)』をコンセプトに、さまざまな工夫を凝らしました。それらは、北野高校建学の理念である「文武両道と社会貢献」にちなんだ「文」と「武」の2つの講演、そしてドローンによる集合写真、北野界限の取材映像の上映、自己紹介カードとファシリテータを配置した懇談の場の提供などです。幅広い世代がともに笑い、語り、大いに盛り上がった企画の数々をご紹介します。

#### 1 記念品



まず受付では、東京六稜会より「60周年記念タオル」を、当番期からは今も変わらない「六稜バッジ」と、東京六稜会の沿革や講演内容、出席者名簿など情報満載の「特製しおり」をプレゼント。

#### 2 司会進行



宮崎県を中心に、ニュースやCM、イベントなど多方面で活躍中のフリーアナウンサー、前田晶子さん(98期)の爽やかな笑顔と美声で、総会から講演会、懇親会まで華やかに、スムーズに進行。

#### 3 東京六稜会 会長挨拶



太田省三会長(77期)から、人間でいえば還暦を迎えた本同窓会が次の時代にさらに発展するための3つのコンセプト、「①伝統の継承、②新しい風、③卓越性の追求」が示され、共感を呼びました。

# 柔らかな発想とアイデアで年々進化

## 4 「文」の講演



国立感染症研究所・ウィルス第三部長の竹田誠さん(98期)が、長年の夢であった小児科医を辞めてまで麻疹ウィルスの研究に心血を注いだ理由や、将来を担う子供たちを守るために、麻疹の予防接種を2回受けることの重要性を講演。

## 5 「武」の講演



楽天野球団事業本部長であった佐野憲一さん(98期)は、何もない状態から楽天イーグルスを立ち上げ、東日本大震災を経て、地元の方々とともに優勝するまでの感動のストーリーを、笑いと涙を交えて聴かせてくれました。

## 6 ドローン撮影



集合写真撮影のため、当番期が皆さんを懇親会会場の前方に誘導。「この人数で全員ちゃんと写るの?」という声の中、忽然と現れた「ドローン」に一同大歓声!上空から笑顔あふれる冒頭の集合写真が撮影できました。サプライズ、大成功!

## 7 母校取材映像



当番期生が、ブラタモリ風に現在の十三界限と北野高校を訪問。今も変わらないもの、消えてしまったもの…。映し出される映像に、皆さんセンチメンタルな気分。

## 8 自己紹介カード



首から下げた「自己紹介カード」で、テーブルに配置した当番期のファシリテータとともににぎやかな語らいの場が広がり、新たな繋がりが生まれました。

## 9 北野グッズの販売ブース



懐かしい母校のグッズ販売ブースを設けました。関東に住んでいるとなかなか手に入らない貴重な品々は大人気。もちろん、思い出の縄跳びは完売しました。

当番期では、10回以上もの会議を重ね、総会の準備を進めてきました。そんな苦労も、当日の皆さんの笑顔とお帰りの際の労いのお言葉で喜びに変わりました。この経験は、私たち当番期にとって大変貴重なものでした。

ご協力いただいた北野高校、および六稜同窓会、東京六稜会の皆さま、そして、ご多忙の中、遠方よ

り足をお運びくださった参加者の皆さまに心よりお礼を申し上げます。また、この会を盛り上げるために集まってくれた、70名もの98期同級生を誇りに思います。

このような催しを通じ、東京六稜会がますます発展していくことを心から願っております。

(報告: 98期 原田佳子・大鐘卓也)



### 大阪の六稜会館のような集いの場を

2002年、母校に六稜会館が建設中であった頃、当時の東京六稜会会長・大山利雄さん(56期)の「東京でも六稜会館のように気軽に集まれる場所があるといいですね」という発案から始まったのが、東京六稜倶楽部です。当時サッポロライオン社長であった山根義夫さん(65期)の協力を得ることができ、会場は銀座ライオン6階の「クラシックホール」に決定。2003年1月から、毎月第3水曜日の11:30~14:00に開催される講話とランチの会がスタートしました。

講師は北野同窓生に依頼、専門分野の話題を拝聴し、その後バイキング形式で食事を楽しむというスタイルで、銀座ライオンならではの生ビールも別料金で用意されています。第1回の講師は、免疫学の重鎮である奥村康・順天堂大学教授(73期)で、テーマは「不老と長寿」という興味深いものでした。

以来、今日まで14年にわたり177回を数えています。その間、開催されなかったのは2回だけで、東日本大震災直後と、大型台風襲来のための中止でした。

東京六稜倶楽部は、世代を超えた親睦・交流という、同窓会本来の主旨に合った集いの場となっており、講師の多彩ぶりもさすが北野といえるでしょう。

### 運営を支えるボランティア

東京六稜倶楽部の講演録は、初回から峯和男さん(65期)が、ずっと継続して担ってくださっています。その内容は東京六稜倶楽部ホームページに収録してありますので、ぜひご覧ください。

また、受付などの業務は、ボランティアによる輪番制で行っています。お時間のある方、興味のある方は、ぜひスタッフとしての参加をお待ちしています。

東京六稜倶楽部運営の中でも特に大変なのが、講師選定です。これを、松本邦宏さん(70期)が12年以上も務めてくださり、2015年に牧武志さん(73期)が2代目として引き継がれました。

発足当時はハガキで全会員に通知していましたが、現在は各種メーリングリストやホームページ、フェイスブックなどで告知を行っています。今後は若い世代の講師にどんどん登場していただき、いっそう活性化していくことを願っています。

お開きの後は、同期で、同好の士で、あるいは新しい出会いのグループで、それぞれ次の集いを楽しんでいらっしゃることを書き添えておきます。

予告・講演録はHP [東京六稜倶楽部](#) で検索

# を重ねた、銀座での講話とビールとランチの会

## 免疫の話をわかりやすく

1回、2回、121回講師 奥村康さん(73期)  
順天堂大学医学部教授

記念すべき第1回の講師である奥村康さんは、第2回、第121回にも登場。第1回目のテーマは「不老と長寿」で、若返りホルモンやコレステロールの話などをわかりやすく解説。2回目は「癌と免疫」をテーマとした話題で、インフルエンザウイルスや脳神経の話題から花粉症、アトピー性皮膚炎など幅広い話題に参加者も真剣な眼差し。「アドレナリンが多く出る人は花粉症になりにくい」というお話には会場にざわめきが広がりました。



## チームのために、勝利のために

158回 廣瀬俊朗さん(112期)  
元ラグビー日本代表キャプテン

2015年、ラグビーワールドカップでジャパンが強豪・南アフリカに歴史的勝利を果たしました。このとき日本代表選手として参加したラグーマンが、なぜ日本は強くなったのか、何のために勝つのか、などを力強く講演。また長年、日本代表のキャプテンを務めてきた経験からのリーダー論も、参加者に強く訴えかけました。



## リチウムイオン電池の開発物語

157回 吉野彰さん(78期)  
リチウムイオン電池材料評価研究センター理事長

北野時代の思い出から始まり、授業に出ずに好きなことをやっても許された人生で最も有意義な時代、京大の教養課程の2年間のこと、また京大時代に檜原廃寺の発掘をした経験などを紹介。本題である「リチウムイオン電池の過去・現在・未来」の話題へと移り、リチウムイオン電池開発に携わり、2013年に「グローバルエナジープライズ」を受賞された話題をスピーチされました。



## アナウンサーの知られざる苦勞とは

170回 有働由美子さん(99期)  
NHKアナウンサー あさイチ司会者

講話のタイトルは「北野高校倫理の時間に学んだ私の原点」。足立時司先生から薫陶を受けたという話題からスタート、NHK入社以来のさまざまな経験を、軽やかな口調と豊かな身振りで話す姿に、聴衆もぐっと引きつけられます。シドニーオリンピックで高橋尚子さんの金メダルを中継した感動、阪神淡路大震災で現地中継をし、「これをどう伝えられるのか」と自問自答したことなど、時にユーモアを交え、時に涙をこらえながらの講話に、胸を熱くした方も多かったことでしょう。





### 仕事帰りに立ち寄れる平日夜の開催

2016年5月20日、若手交流会幹事の主催による北野同窓生の交流の場、KITANO Cafeがスタートしました。

すでに2003年1月から、「講話とランチの会」として東京六稜倶楽部が毎月第3水曜日の午後で開催されていますが、平日昼間となると現役世代には時間の制約があり、参加しづらいものがありました。

現役世代の北野同窓生が集まりやすい、仕事終わりに気軽にほっと一息つけるような交流の場を作りたい、というのがKITANO Cafeのはじまりでした。2017年10月時点で、これまで3回開催しており、勤め帰りの社会人や、これから社会に出る大学生のほか、東京六稜倶楽部のご常連も参加し、約20~30名程度の参加者で賑わっています。開催場所は、東京八重洲にある東京金融取引所の会議室をお借りしています。

これまでKITANO Cafeでは、さまざまな職業の実際を語っていただく講演会を実施してきました。同年代の同窓生はこんな仕事をしているんだという新たな発見や、就職活動中の学生には、今後の職業選択に大いに参考になったようです。

### 二次会は活発な他業種交流会

講演の後には、会場近くの居酒屋で二次会を開催し、仕事の話やプライベートな話題などが飛び交う活発な交流の場となっています。先輩後輩に関係なく気さくに話ができる雰囲気の中、わいわいがやがやと話の輪が広がります。話をしてみると、実は共通の知り合いが自分の会社の上司だった、ということがわかったりと、大いに盛り上がっています。

参加した皆さんからの感想をいくつかご紹介すると、「日常の仕事の中では得られない考えや視点の発見があった」「同世代の北野同窓生はこんな仕事や活動をしているんだと知って視野が広がった」「実は同じ業種だったり、仕事上の共通点のある人と知り合った」などの声が寄せられています。KITANO Cafeでの交流が、今後の仕事につながるかもしれないね、という声もそこそこから聞こえます。

今後は、仕事内容の紹介にとどまらず、いろんなイベントに挑戦していこうと思っています。皆さんもぜひ参加してみたいはいかがでしょうか？

Facebookグループ 「東京六稜会」で検索

# やすく、気軽にアットホームな交流の場をつくりたい



## パイロットになる夢を実現した道

第1回開催 2016.5.22

講演者 佐竹宏昭さん(111期)航空会社勤務

小さい頃からの夢だったパイロットになるまでの数々の試練を突破した足跡や、徹底した健康管理と訓練が欠かせない、そして乗客の命を預かるパイロットという重責について語っていただきました。「北野高校に通っていたという事実そのものが、今に役立っている」という言葉がとても印象的でした。



## 日本の情報インテリジェンスとは

第2回開催 2016.11.25

講演者 三谷秀史さん(82期) 元内閣情報官

警察庁入庁後、さまざまな経歴を経て内閣情報官を務め、日本の情報インテリジェンスの中核を担われた三谷さんの講演内容は、「スパイになる方法、ならない方法」。情報専門用語の解説にはじまり、関係者しか知らないようなディープな内容に参加者は釘付け。シリアスな話題かと思えば軽快なジョークで会場に笑いがあふれるなど、三谷さんの人柄があらわれた講演でした。



## PR業務をわかりやすく解説

第1回開催 2016.5.22

講演者 浅見晃子さん(114期)PR会社勤務

世界最大の外資系PR会社で勤務する浅見さんは、いくつものプロジェクトを担当。PR業務という日本ではまだ馴染みがない業務を、多彩な写真と資料を交え、楽しくそしてわかりやすくご紹介いただきました。浅見さんの忙しくもエネルギッシュな1日の紹介は、会場の参加者を惹きつけていました。



## PRを通じて、あらゆる社会課題に取り組む

第3回開催 2017.5.18

講演者 尾上玲円奈さん(111期) PR会社勤務

第1回講演者の浅見さんと同じく、PR業界で働く尾上さん。株式会社井之上パブリックリレーションズで執行役員を務める傍ら、早稲田大学非常勤講師もされており、幅広いフィールドで活躍されています。選挙戦はもとより、企業の不祥事、M&A、外資系企業の日本市場参入やベンチャー企業の支援業務など、多様な業務内容を語っていただきました。





### 同窓生の交流の輪をさらに広げるために

2015年の太田会長新体制の発足に伴い、事業委員会が東京六稜倶楽部を担当することになりましたが、従来の路線を引き継ぐことは当然として、同窓生の交流をさらに広げるため新たな取り組みもはじめました。これまであまり東京六稜倶楽部の講師を出していない期の常任幹事に働きかけ、講師を推薦してもらい、さらに比較的若い期の方に講師を依頼する、そしてそれらの講師による講演の日に、同期に広く参加を呼びかけてもらう。そうすることでフレッシュな参加者を増やすとともに、これを機会にその期の交流も盛んになればと期待しています。

また事業委員会では、太田会長からの示唆もあり、東京六稜倶楽部の活動だけにとどまらず、さまざまな分野で世代を超えて交流する機会を増やそうと、事業委員会のもとに3つの分科会、すなわち「スポーツ分科会」「文化・芸術分科会」「見学等同好会分科会」が設けられました。

### イベントのアイデアをお寄せください!

2016年4月に拡大事業委員会を開催、各分科会の委員長を選出するとともに活動方針などを定め、体制を整えました。2017年10月までに、「スポーツ分科会」では5回のゴルフ大会とラグビー観戦会、「文化・芸術分科会」では3回の美術館の展覧会鑑賞会、「見学等同好会分科会」では2回のハイキングとワイン鑑賞会といったイベントが開催されています。

参加者はまだ限られていますが、当初の狙いであった世代間の交流拡大へ、確実につながっていると感じています。今後も多彩なイベントを企画し、参加者を増やしていきたいと考えていますが、それには分科会の委員だけでなく、東京六稜会の会員の皆さんからもどんどんイベントをご提案いただきたいと思います。アイデアをお持ちの方は、東京六稜会事務局のメールアドレスへご連絡ください。お待ちしております!

事務局アドレス E-mail : [tokyo@rikuryo.or.jp](mailto:tokyo@rikuryo.or.jp)  
詳しくは東京六稜会WEB [rikuryo.or.jp/tokyo](http://rikuryo.or.jp/tokyo)



# ワイン会などの多彩なイベントを開催



**古社参詣とビール工場見学会** 2017.5.13  
雨の中、府中大國魂神社を参詣、国衙跡を見学してサントリー武蔵野工場へ。できたてのビールで乾杯しました。見学会はほかに「御嶽渓谷清流散歩と小澤酒造、川合玉堂美術館見学」も開催しています。



**プラド美術館展** 2015.11.20・25  
美術鑑賞会第1弾は「プラド美術館展」を鑑賞。20日(金)昼の部・25日(木)夜の部の2部制で多くの参加者を集めました。



**長谷川等伯と雪舟展**  
2017.7.11  
出光美術館で開催された「水墨の風—長谷川等伯と雪舟」の鑑賞会を実施。参加者は10名、日本の水墨画の流れを伝える展示を楽しんだあと、新丸ビルの懇親会場に移動して歓談のひとときを過ごしました。



**ガラコンサート・合唱** 2016.7.20  
東京芸術劇場で公演された「ガラコンサート・合唱」に、一般公募で参加。北野同窓生が参加し、美声を披露しました。

**ワインの会** 2015.9.25  
「フランス文化とワイン・フレンチ薬膳」のイベントに14名が参加。講師の山崎吉朗さん(84期)による産地やブドウ品種の違い、ワインの特徴などの説明を聞き、ワインの飲み比べと薬膳フレンチを楽しみました。



**ゴルフコンペ**  
2015年の秋から東京六稜会ゴルフコンペが始まり、2017年10月で5回を数えています。同期でのコンペとはひと味違い、大先輩とラウンドしながら予期せぬ教をいただいたり。年齢差を忘れての一喜一憂は、貴重な交流のチャンスです。



東京六稜倶楽部の例会の後に行われる事業委員会・分科会の打ち合わせ風景

## 東京六稜会をもっともっと盛り上げていくために

### いまできることは? すべきことは?

2017年に60周年を迎えた東京六稜会は、年に1度の総会と月に1度の東京六稜倶楽部の開催が活動の中心となっています。しかし若手世代が参加できる機会が少なく、そのため若手の動員が果たせていないなど、課題も少なくありません。そこで実際に会の運営に携わっている皆さんにお集まりいただき、忌憚のないご意見を伺いました。

#### 参加者

牧 武志(73期・牧エネルギー工学研究所代表)  
細見裕子(77期・横浜市青葉区地域健康づくり教室主催)  
坂田東一(79期・元文部科学省事務次官、(一財)日本宇宙フォーラム理事長)  
三谷秀史(82期・元内閣情報官、三井住友銀行顧問)  
伊豆原孝(94期・SOMPOホールディングス勤務)  
2017年7月27日 銀座・みゆきガーデンビルにて



#### こんなことなら現役時代から 東京六稜会に関わっていたらよかった…

— まずお聞きしたいのですが、東京六稜会とどのように関わっていらっしゃいますか? また、皆さまにとって、東京六稜会とはどんな存在なのでしょう?



**伊豆原:** 私にとっては、94期の当番期に総会の幹事をして、それ以来5年ほどの関わりです。現在、理事と総務委員を務めていますが、会の運営に参加しているのは、東京六稜会はだ

れもがいつでも来られる場所、行っても行かなくてもいい場所、そういう存在でありたいということです。

**牧:** 東京六稜会と関わりが深くなったのは、やはり6年ほど前に退職してからですね。誘われて常任幹事になり、そのうち東京六稜倶楽部の講師を引き受けたり。そうこうしているうちに、倶楽部を第1回からからお世話



してくださっていた松本邦宏さん(70期)が、「もう13年も続けてきたから誰か代わってほしい」ということで、その後を引き受けて倶楽部の運営に携わっています。というように、積極的に関わってきたわけではないのですが、倶楽部の運営を通じて自分

とは別の世界の方々と知り合う機会が増えて新鮮です。こんなことなら、現役の頃から関わっていたらよかったなあと思いますね。

**細見:** 私は、会の常任幹事をお引き受けして6年くらいになります。もともとは、学年幹事に男女が参加しなければならないということで、やむなく…(笑)。今では、牧さんに代って東京六稜倶楽部の案内をメールしたり、受付を担当しています。東京六稜倶楽部はいつでも門戸が開かれていて、ホッとできる場所を提供できたらいいかなと思っています。

**坂田:** 東京六稜会に関して思い出すのは、大学を卒業した頃、総会に森繁久彌さん(45期)が出席されていて強烈なインパクトがあったこと。北野卒業生のすごさの一端を感じました。その後仕事が



忙しくて出席できず、講師を何度か務めた程度ですが、2015年に太田省三会長(77期)から誘いの電話を受け、広告や寄付を集める財務委員会の委員長を引き受けることになりました。私にとって東京六稜会は、優れた多くの同窓生との交流を通じて刺激をもらえる場所。また、大阪出身だということを強く感じる場でもありますね。  
**三谷:** 私は剣道部だった父と二代続いたの六稜生。北野で所属していたラグビー部は絆が強く、素晴らしい仲間恵まれました。さらにはうちのワイフも北野。北野がなければ今日の私はいないというくらい(笑)、北野に

はお世話になっておまして。私にとっては、東京六稜会の業務はある種の恩返しですね。現役時代は仕事が忙しく、いろいろ声をかけられてもずっと断らざるを得なかったんですが、半リタイア組となってからは、東京・大阪での講演をきっかけに会員委員長に引っ張り出され、そこからはどっぷりと。

## 大先輩から若手まで 幅広い世代の社交場にしていくには

— 東京六稜会も60周年を迎え、ご多分に漏れず会員の高齢化が課題となっています。もちろん大先輩の皆さまの交流の場であることはとても大切ですが、一方で、若手をいかに勧誘し、幅広い世代の社交場にしていくかが問われていますね。

**牧:** 総会でも東京六稜倶楽部でも、とにかく一度来てもらうのが大事で、来ればよさが分かると思うんですよ。そのためにどうするかですが、倶楽部でいうとフェイスブックやホームページで数ヵ月先の予定まで告知しています。若い世代が講演するとその期の同期が出席し、会への参加のきっかけとなるので、若手の講演者探しに全力を上げているところです。



**細見:** まだ同期会ができていない世代だと、倶楽部での講演が同期会のきっかけにもなりますね。

**坂田:** 同期の横のつながりにプラスして、世代間の縦のつながりのよさがあるのが

同窓会なので、縦の交流の敷居を低くするような工夫が必要でしょうね。にわかになこんな方法があるとは思いつきませんが、いつもそういうことを考えながら運営していきたいですね。

— ここ数年、若手会員を引きつけるための企画がいくつか始まっていますね。

**伊豆原:** 東京六稜倶楽部はすでに177回を数え、すっかり定着していますが、平日の昼間開催なので現役世代には出席しづらいという面があります。そこで2年前から、平日夜に開催する「KITANO Cafe」という若手主体の交流会をスタートしました。このKITANO Cafeでは、111期の若手ががんばってくれています。まだ不定期ではありますが、この活動が若手勧誘のひとつのカギになりそうですね。

**牧:** もうひとつ新しい試みとしては、事業委員会に3つ

の分科会を設けていろんなイベントを仕掛けています。スポーツ、美術、見学などのイベントを企画して皆さんの参加を呼びかけるもので、これまでゴルフコンペ、美術館巡り、ラグビー観戦、ワイ



ンの会、ハイキングなどを企画してきました。どの回も参加者多数で、楽しんでいただけたと思っています。

**三谷:** ラグビーの早慶戦観戦では30枚用意したチケットが瞬間に捌けてしまって、参加できなかった方からお叱りを受けるほどの人気でしたね。

**伊豆原:** 1回ごとのイベントもいいですが、定期的・継続的にやっていけるものがあると運営が楽になりますよね。定期的に開催されていて、行けば誰かがいるような場。東京六稜倶楽部がそうですが、ほかにもうひとつあるといいですね。



— 三谷さんは、KITANO Cafeで講師を務められましたよね。若手の会でお話をされて、どのような印象を持たれたのでしょうか？

**三谷:** テーマは「スパイになる方法、ならない方法」(笑)。若い皆さんが興味を持ってくれて、二次会の会場に入りきれないくらい集まってくれました。講演の後、質問を受けたのですが、



若い女性たちの質問が素朴で面白かったですね。KITANO Cafeでは、講演の後、場所を移して二次会がありますが、これがいい。見事に異業種交流や異世代交流の場になっているんですよ。

**坂田:** 東京六稜会に参加しようと思うには、比較的若い年代から“つながっている”という思いを持ってもらう必要がありますが、そういう意味でもKITANO Cafeは意味が大きいですね。

**三谷:** 東京六稜倶楽部とKITANO Cafeのコラボな

どができたら面白いのでは。年に数回、倶楽部を夜に開催して、そのときは講演料を支払ってでもピカイチの講師に依頼する。例えば、以前に倶楽部で大人気を博した有働由美子さんとか。

**坂田：**若い世代は普段、東京六稜倶楽部に出席できないから、1回そういった形で参加すればその後の敷居が低くなりますね。そんな会が実現したら、若い人から年上に声をかけるのは難しいから、年上の我々から声をかけるように心がけたいですね。

## 世代を超えて、六稜魂を 100年先に伝えていかなければ

— 六稜魂をいかに若い世代に継承していくか、アイデアはございますか？

**伊豆原：**「若い世代」と一括りにしてしまいがちですが、若い世代とはどの世代なのでしょう？ 私は94期で50代ですが、同窓会の中では若手と呼ばれています（笑）。自分の経験からいっても、卒業してすぐの20代、30代はまだまだ同窓会の方へ意識が向かないかもしれない。40代から50代にかかるような年代をターゲットとして考えてみるのも一つの手ではありませんか？



**細見：**総会の当番期の方たち、つまり50歳になる期の皆さんと話していて、若手とは私たちのことですか？と聞かれることがあります。私たちは確かに、それくらいの年代の方を“若手”と言っている

かもしれませんね。

**坂田：**今、70期代から80期代が主に理事や幹事をしていますが、まずはこれを、90期代にバトンタッチしていきたいですね。そのためにその世代の人材を発掘するのが今後の大きな課題のひとつです。

**細見：**簡単なことからお願いしていいのでしょうか？ たとえば東京六稜倶楽部の受付など。今は主に常任幹事さんが回り持ちで担当していますが、できればもっと広く皆さんにお手伝いいただき、いまも自発的にボランティアをしてくださっている女性がいらっしますが、今後、もっと女性の皆さんのボランティアを募っ

ていきたいですね。

**伊豆原：**北野高校にいたのはたったの3年です。なのに今もこういう会があることは、それ自体がすばらしいこと。60周年を超えて、70年、80年、…100年へと大切につなげていきたいですね。

**三谷：**60歳以上の世代にとって大切なのは、キョウイク、キョウヨウ、キョウカイだといわれていて、つまり、「今日行くところがある」「今日用事がある」「今日会う人がいる」（笑）。そういう意味で、東京六稜倶楽部はすごく意味があるわけです。



でもそこにはばかり焦点を当てていると若い世代が離れていく。バランスが大事ですね。

**細見：**若い世代の講演者にできるだけ来ていただいて、それがまた先輩世代の刺激になるという循環ができればすごくいいですね。

**坂田：**講演者はほぼ100%北野出身者で、北野の知的アセットがこんなにもたくさんあるということですね。そこへ自由にアクセスできるということを認識してもらおうと、若い世代もたまには倶楽部やKITANO Cafeへ顔を出そうということになるのではないのでしょうか。

**牧：**世代を超えてお互いに刺激し合える場であれば、若い世代向け、年配向けと考える必要はないのかもしれないですね。

— これからますます充実した会をめざしていきたいですね。皆さま、本日はありがとうございました。



銀座みゆき通りにある沖見勝也さん(74期)の自社ビル「みゆきガーデンビル」屋上庭園にて。2回の座談会に社長室をご提供いただきました。ありがとうございました。

## 東京六稜会「明日への提案」

150年近い歴史を持つ北野高校だけに、大先輩の姿が目立つ東京六稜会。現役世代はややもすれば影が薄い…?という心配はご無用。今年50歳の98期、来年50歳を迎える99期が、111期の後輩と明日の東京六稜会について語り合いました。

### 参加者

祐谷昌彦(98期・日産自動車勤務)

原田佳子(98期・ANAキャビンアテンダント)

神宅謙一郎(99期・ツナグ働き方研究所研究員)

塚本 渉(111期・大成建設勤務)

小山真澄(111期・東急コミュニティ勤務)

2017年7月28日 銀座・みゆきガーデンビルにて

北野の先輩って、そうそうたる方でも  
気さくに話して下さるんですね

— さっそくですが、高校を卒業してから「北野  
でよかった」と感じたことってありますか?

塚本:あ、あります。就活の面接の時、すごく緊張していたら、面接官から「俺も北野や。がんばれよ」と声をかけてもらった(笑)。



祐谷:日産自動車に勤務しているんですが、著名なデザイナーの中村史郎さん(81期)をはじめ、多くの同窓生がいるので、北野のネームバリューが高くてやりやすい部分がありました。

神宅:北野でよかったと思うのは、やはりそうそうたる先輩方がキラ星のようにいらっしゃり、そんな方と少し気後れしながらも、親しくお話しさせていただけるということではないでしょうか。気軽にことばを交わしていた方が、あとで聞いたらすごく偉い人だったりして、焦ったことってないですか?

一同:あるある!



小山:私は、特に総会のとときに「北野でよかった」と感じますね。すごい先輩たちがたくさんいらして、それなのに堅苦しい雰囲気はまるでなくて、楽しい時間を過ごすことができ。でも、各界の



(左から)後列 神宅・祐谷・塚本 前列 原田・小山 各氏

すばらしい先輩が大勢いるといわれても、どんな方がいらっしゃるのかわからなくて…。そういう意味では、この間の第60回総会で、プロフィールを書き込んだ大きな名札をぶら下げるアイデアはステキでしたね。

神宅:知らない人にも声をかけやすかったし、何度も会っている人でも名札を見て「そうだったんだ」と話が弾みました。交流のきっかけをうまく作れましたね。

### どの世代からも評価の高かった 第60回総会成功のカギとは?

— 先日開催された60周年の記念総会は、今お話に出た名札やドローンによる写真撮影、懐かしの北野グッズ販売などさまざまなアイデアが凝らされていて、大成功でしたね。大先輩から若手まで全年代の方から評価が高かったのでは?

原田:今年50歳になった私たち98期が、1年かけて準備・運営しました。その中で、同期だけでなく幅広い方々との交流ができたことは何よりの収穫でした。50歳という年齢で、このように同期が一堂に会して一つのことを成し遂げるというのは、人生の中でも意味のあることだと改めて



感じています。

**祐谷**：私たちには60周年というお題目があったので、かえって遠慮せずに自由に企画できました。メンバーからあれもやりたい、これもやりたいという発想がどんどん生まれて、普通なら「こんなの無理だよ」「やりすぎかな」というところも、どうやったらできるだろうとアイデアを出し合いました。参加者242人の集合写真をドローンで撮影しましたが、これも最初は学士会館の担当者からやめてほしいと言われたのです。でも、実際にドローンを持ち込んでテストを重ね、最終的には了解してもらいました。

**原田**：ウェルカムドリンクも提案したんですが、こぼしたりするリスクがある上、持ち込み料がかかるといわれて断念。でもそこであきらめず、「それならキャンディはどうですか?」と食い下がり、ウェルカムキャンディになりました。とにかく、準備委員会のメンバーがすごくポジティブでしたね。

**祐谷**：あのでっかい名札も、皆さんせっかくおしゃれして来られるのに、本当にかけてくれるのだろうか、と不安もありました。ところが、大先輩も喜々としてかけてくださり、逆にこちらがびっくりしたくらいです。



**神宅**：私は来年、総会を担当する99期です。ここまで盛り上がった総会を、これ以上どうやって盛り上げようか…と遠い目をしています(笑)。大阪から東京に越してきて6年になるのですが、実は私、これまで東京六稜会の存在すら知らず、当然、総会にも出席したことはありませんでした。そんな状態でしたから、次回総会の幹事メンバーに選ばれたときは、正直「困ったな…」というのが本音でした。

— **神宅さんをはじめ99期の皆さんは、すでに98期からの総会の引き継ぎを終えられたそうですね。**

**神宅**：はい。先日の総会に出席してみて、引き継ぎを終えた今は、「困ったな…」から「やるからには楽しもう!」という気持ちに切り替わりました。



総会全体の盛り上がり感激しましたし、大阪で北野同窓会役員をしている父親(67期)と同じ世代の大先輩方が談笑されているのを見て、皆さん、年に一

度のこの会を楽しみにしていच्छるのだなと、温度感が伝わってきました。この伝統は、ぜったいに受け継いでいかなあかん!と、がぜんやる気になっています。

## 若い世代から始まった新しい試み

### KITANO Cafeをもっと知ってもらいたい

— 2016年5月20日から、若い世代向けの新しい試み、KITANO Cafeがスタートしましたね。その活動の中心になっていच्छるのが、111期のお2人です。どんな活動をされていますか?

**小山**：私たちは総務委員会に所属していて、その中で若手を対象に何かできないだろうか、ということから始まった活動で、私たち自身の発想ではないんです。先輩の黒岩さん(75期)からアイデアを出してと依頼され、若い世代が求めているのはどんなことか、何ができるかを考えて、KITANO Cafeという形になりました。

**塚本**：総会以外の活動に、毎月開催されている講演とバイキングの東京六稜倶楽部がありますが、平日の昼間の開催なので現役世代はなかなか出席できませんよね。それで、仕事帰りに出席できる平日夜に、講演と食事の会を開くことにしたんです。2017年9月時点で、これまで3回開催しています。



**小山**：苦勞するのは、やはり講演者の選定ですね。皆さんお忙しいのでなかなかOKが出なくて。第1回目はお2人の講演としたのですが、万一ご都合が悪くなったら…と心配だったから不測の事態に備えて2人をスタンバイしたわけなんです。

**原田**：実は、今年の総会でも講演者をお2人にしたんですが、これは急な海外出張などが入ってもなんとかなるようというリスク分散だったんですよ。

— KITANO Cafeでは、講演のあとに居酒屋などでの二次会がありますね。これにはどのような狙いがあるのでしょうか?



**塚本**：現役世代が求めているのは、仕事のつながりや人脈を広げることだと思うんです。同期はどんな仕事をしているのか、とか、自分の仕事とつながっている先輩はいるのか、とか。そういうつ

ながり探しを提供できる場として、二次会は大きな役割を果たしていると思います。狙いどおり、二次会は活発な名刺交換の場となっていますね。

**小山**：皆さん名刺交換をして、「えっ、この会社なの?」「同じ業界だったんだ」と、仕事上の意外な関係やつながりを発見されていますよ。私たちが何もしなくても、異業種・同業種交流的なものは、参加者同士、勝手にやっておられます(笑)。



**塚本**：KITANO Cafeは若手を意識はしていますが、できるだけ幅広い世代の皆さんに参加していただきたいと思っています。いまはフェイスブックを中心に告知していますが、大先輩の皆さんにはフェイスブックを使っていらない方も多く、どういう方法で広くお知らせできるか悩んでいるところです。会報やホームページもうまく活用していきたいですね。

### 東京六稜倶楽部に求めることは？ 若手を呼び込むためのアイデアは？

— 東京六稜会では、それでもまだ若い世代の参加が進まないことが課題となっています。皆さんよりさらに若い世代をもっと呼び込んでいくにはどうすればいいと思いますか？

**原田**：今回、98期として総会の幹事をして思ったこと



があります。総会の幹事はその年50歳になる期でいいんですが、サブ幹事として10歳下、20歳下の期から数人ずつ参加してもらってはどうか。98期でいえば、108期、118期からも参加してもら

うんです。そうすれば30歳のとき、40歳のときに少しずつ関わることで、50歳のメインのときもやりやすくなると思うんですね。

— 確かに、いまは、それまでまったく関りがなかったのに50歳になったらいきなり100%担当になります。

**原田**：そうなんです。私たちもそうでしたが、総会の幹事は、毎年ゼロからのスタートで、1年間大変ですよ。でもその前からお手伝いで参加して少しでも準備の過程や当日の雰囲気を知っていれば、余裕もできるし、よりよい企画もできるのでは。それになにより、10歳ずつ違うメンバーが同じ目的に向かって活動することで世代間交流ができますよね。こういった期を超えた交流ができる場って、すごく貴重だと思うんです。

**一同**：大きくなぞく。

— それはグッドアイデアですね！

**神宅**：若い世代は忙しい半面、ネットやSNSで積極的に情報収集していますので、より具体的で興味を持てる企画ならば、参加すると思います。



KITANO Cafeなら、例えば「楽天・佐野さんに学ぶ新規ビジネスの立ち上げセミナー」とか、「〇〇の社長と直に話して知識を深める食事会」なんていかがでしょうか。

— 50歳になるまで東京六稜会とはまったく無関係、というのは、本当にもったいないですね。本日いただいたご意見を活かしつつ、若い皆さんにも参加しやすい会をご一緒にめざしていきたいですね。本日はありがとうございました。



## 177回を数える六稜倶楽部 講師と演題一覧

回	開催日	参加	氏名(期)お仕事	☆は外部の方	演 題
1	2003.01.15	110	奥村康(73)(順天堂大学教授)		不老と長寿
2	2003.02.19	82	奥村康(73)(順天堂大学教授)		癌と免疫
3	2003.03.19	64	☆牟田悌三(大山会長と同町内の縁で)		私の人生
4	2003.04.16	62	渥美和彦(59)(日本統合医療学会代表、東京大学名誉教授)		将来の医療について
5	2003.05.21	58	☆嶋中雄二(UFJ 総合研究所投資調査部長)		どうなる日本経済
6	2003.06.18	63	袁島紘一(75)(プリハード株式会社社長)		絵画の岩波文庫
7	2003.07.16	82	国定浩一(71)(りそな総合研究所前会長)		阪神ファンの経済効果
8	2003.08.20	66	松本徹三(70)(ファルコムジャパン(株)代表取締役社長)		日本のケータイ文化が世界を変える
9	2003.09.17	76	坂本幸弘(70)(株エス・イー・シー代表取締役)		頭のいいヤツ 悪いヤツ
10	2003.10.15	44	生田章一(83)(助日本情報処理開発協会常務理事)		有田焼(古伊万里)とヨーロッパ文明の出会い
11	2003.11.19	48	☆毎日新聞論説委員松田喬和		総選挙終って今後の展望
12	2003.12.17	46	和太守卑良(74)(陶芸家・東北芸術工科大学教授)		陶芸の世界
13	2004.01.21	57	中西実(41)(元労働事務次官)・広江勲(53)(元丸紅副社長)		年頭にあたり日本の政治、教育など
14	2004.02.18	60	☆財務コンサルタント北沢一男		安心した老後のための相続を考える
15	2004.03.17	78	山本雅弘(71)(毎日放送(株)社長)		放送とは何か テレビ放送開始50年に当たっての新たな構想
16	2004.04.21	51	☆厚生年金基金連合会専務理事増田勝		年金の話…あなたの年金は正しいか点検
17	2004.05.19	51	長谷川秀夫(69)(兼松・飼料・農産物に従事)		日本の卵の黄身はなぜ黄色か～畜産業界裏話
18	2004.06.16	58	大隅徳保(65)(元住友シチックス米国社副社長)		俳句の楽しみ～私と俳句
19	2004.07.21	74	畑田耕司(68)(はただ診療所長)		痴呆と不安と性格と
20	2004.08.18	47	鈴木宏(53)(元国鉄監査委員)		日本国憲法第9条 不戦の誓い
21	2004.09.15	61	林久男(59)(産業能率大学経営開発本部講師)		手塚治虫と昆虫
22	2004.10.20	34	国政恒裕(65)(読売新聞社元論説委員)		新内閣と今後の経済政策の課題
23	2004.11.17	44	山岸勝也(68)(森ビル参与)		不動産証券化の種あかし
24	2004.12.15	53	三原康博(68)(テレビ日本美術家協会理事長)		歌を絵にする(歌謡大賞の舞台裏)
25	2005.01.19	74	尾形仁士(75)(三菱電機上席常務執行役開発本部長)		薄型テレビについて
26	2005.02.16	72	榎坪多鶴子(71)(映画制作パオ(有)代表取締役・映画監督)		映画とともに生きて～夢です希望です
27	2005.03.16	77	☆元ペルー大使 青木盛久		ペルー大使公邸占拠事件
28	2005.04.20	76	森本昌義(69)(ベネッセコーポレーション社長)		最近の生徒は勉強しているか?
29	2005.05.18	73	泉祐彰(68)(I&F CORPORATION 社長)		ラスベガスを楽しむ～カジノ経営の面白さ
30	2005.06.15	61	谷川達夫(75)(立命館大学講師、愛知県企業庁アドバイザー)		カリブ海から世界を見る
31	2005.07.20	55	漆戸啓二(70)(発酵ウコン(株)社長)		ウコンの効用
32	2005.08.17	59	坂本知美(109)(株ニッコントラベル営業企画部)		海外旅行をしませんか!シニア海外旅行泣き笑い添乗記
33	2005.09.21	48	野口藤三郎(53)(六稜楽友会の会長)		正しく歌おう北野の校歌
34	2005.10.19	60	杉浦澄(75)(日本産業ガス協会常務理事)		安全のパラダイム変換
35	2005.11.16	66	竹山聖(85)(建築家、京都大学助教授)		建築の喜びについて
36	2005.12.21	53	松島みどり(87)(衆議院議員)		小泉改革の総仕上げ
37	2006.01.18	54	千田稔(57)(せんだ医院院長)		東洋医学=漢方とは如何なるものか
38	2006.02.15	55	西尾大次郎(66)		ブラジル、ユーカリ、ティッシュペーパー
39	2006.03.15	53	佐藤達男(75)(富士エアロベーステクノロジー(株)常務)		航空機の安全性～ハイテク機におけるヒューマンファクタ
40	2006.04.19	87	中江要介(53)(駐中国大使)		この外交不在はどこから来たのか
41	2006.05.17	49	砂田健次(92)(株損保ジャパン営業開発第二部第一課長)		個人情報保護法1周年～あなたの個人情報は大丈夫ですか
42	2006.06.21	45	宇津木紀子(91)(絵本作家&ヒーリングフードクリエイター)		クリエイターはいかが?
43	2006.07.19	64	田中昭(75)(住友重機械工業(株)営業統括室部長)		中国を知る
44	2006.08.16	70	松本善明(57)(元衆議院議員、弁護士)		戦争と平和
45	2006.09.20	65	雲石潔(75)(JSR(株)生産技術部ライセンスマネジャー)		今なゼインド?!!(20年通ったビジネスマンの雑感)
46	2006.10.18	59	土井陽子(64)(劇作家)		芝居っ気 ドラマ作りを通じて思うこと
47	2006.11.15	54	八木啓代(92)(音楽家・作家)		歌は世につれ、世は歌につれ
48	2006.12.20	51	武正雄(80)(BWアセットマネジメント(株)代表取締役)		株式市場の明日を読む～村上ファンドの功罪と日本再生の鍵“長期投資”





回	開催日	参加	氏名(期)お仕事 ☆は外部の方	演 題
49	2007.01.17	65	笠原健治(106) (㈱ミクシ代表取締役社長)	mixiのこれまでと今後
50	2007.02.21	46	☆林巧(92) (作家)	妖怪へのいざない
51	2007.03.21	62	多田宏行(78) (三井不動産㈱S&E総合研究所長)	これからの東京の町づくり
52	2007.04.18	50	向井保(73) (財医療情報システム開発センター理事長)	医療情報の電子化の現状と将来
53	2007.05.16	66	小松彦三郎(66) (東京大学名誉教授)	関孝和と京阪の数学者たち
54	2007.06.20	45	前田達郎(56) (新潟大学名誉教授)	大正時代あれこれ
55	2007.07.18	59	広瀬俊一郎(80) (日本郵政株式会社 監査役)	郵政民営化
56	2007.08.15	51	吉川清美(80) (都立北多摩看護学校非常勤講師)	硫黄島の兵隊
57	2007.09.19	56	大野和基(85) (ジャーナリスト)	表現の自由
58	2007.10.17	52	藤原良雄(79) (㈱藤原書店代表取締役)	私の歩んだ道～出版家業35年
59	2007.11.21	50	檜川哲次(67) (日本コントラクトブリッジ連盟元事務局長)	雑談コントラクトブリッジ
60	2007.12.19	72	岡崎俊雄(74) (日本原子力研究開発機構理事長)	原子力の課題
61	2008.01.16	47	☆最高検察庁検事 鶴田小夜子	あなたは裁判員に指名されたらどうしますか
62	2008.02.20	62	中山行輝(80) (ギャブリング・ゲーミング学会理事)	地域活性化とカジノ
63	2008.03.19	52	植田敦(64) (前名城大学経済学部教授)	CO2温暖化説は間違っている
64	2004.04.16	55	坂田東一(79) (文部科学省官房長)	これからの日本の教育
65	2008.05.21	48	松田憲幸(96) (ソースネクスト社長)	ソースネクストの創工夫
66	2008.06.18	61	川条しか(100) (衆議院議員)	少子高齢化時代の対策と社会保障について
67	2008.07.16	68	田中裕(87) (順天堂大学医学部教授(救急・災害医学))	救急医療は社会を映す
68	2008.08.20	59	☆畠信彦(ジャーナリスト)	シルクロードの日本人伝説～ナボイ劇場を造った抑留者たち
69	2008.09.17	50	藤江俊彦(77) (千葉商科大学政策情報学部教授)	安全・安心と組織のリスクマネジメント
70	2008.10.15	43	島本慈子(82) (ノンフィクション・ライター)	戦後生まれが考える戦争のこと
71	2008.11.19	58	坂田雅裕(74) (アンダーソン・毛利・友常法律事務所顧問)	政府の憲法9条解釈について
72	2008.12.17	72	杉尾伸太郎(67) (㈱プレックス研究所代表取締役社長)	フランス・フォーマルガーデンの成立
73	2009.01.21	40	辻孝夫(80)	新技術とビジネスモデルの変貌
74	2009.02.18	54	清谷哲朗(89) (関東労災病院副院長)	日本の医療を考える
75	2009.03.18	47	西尾大次郎(66)	四国のお遍路1200キロ
76	2009.04.15	41	大谷明裕(85) (作曲家)	歌で明るく元気になるか?
77	2009.05.20	48	松原鐵男(68)	阿主南寺と日本仏教の成り立ち
78	2009.06.17	48	☆赤松良子(日本ユニセフ協会会長)	世界の子どもは、今
79	2009.07.15	44	大江匡(85) (建築家・プランティックアソシエイツ社長)	解放の速度～社会の情報化と建築の設計のあり方
80	2009.08.19	52	村井正親(96) (農林水産省総合食料局食糧部計画課長)	どうなる日本の食卓～お米を中心に日本の食生活の未来を考える
81	2009.09.16	53	横山文博(81) (野村総研理事・元防衛省装備施設本部長)	防衛を巡る諸問題
82	2009.10.21	69	見市泰男(81)	古面修復の現状
83	2009.11.18	48	五味和彦(71) (弁護士)	裁判員制度が始まって～70歳を超えても裁判員を
84	2009.12.16	48	野尻知里(83) (テルモ㈱上席執行役員)	人工心臓の歴史と現状
85	2010.01.20	68	佐々木三郎(77) (電力中央研究所特別顧問)	地球環境問題とグリーンニューディール
86	2010.02.17	63	森本昌義(69) (英国国立ウェールズ大学経営大学院講師)	CSR、企業の社会的責任
87	2010.03.17	80	羽田壽夫(70) (横浜黒船研究会)	横浜開港150周年～横浜浮世絵に・・・
88	2010.04.21	54	釜江尚彦(69) (元ヒューレットパカード日本研究所所長)	アナログからデジタルへ
89	2010.05.19	68	☆川島良彰(コーヒーハンター)	コーヒーの多様性を求めて～コーヒーハンターの旅
90	2010.06.16	59	米沢崑(76)	温暖化と哲学
91	2010.07.21	68	田中昭(75) (青山学院大/関西学院大非常勤講師)	名指揮者フルトヴェングラー
92	2010.08.18	42	☆加藤日出男(若い根っこの会会長)	生涯青春 いのちよ、ありがとう
93	2010.09.15	57	杉浦澄(75) (AMHEA ラボ代表)	間違いだらけのアカウンタビリティ
94	2010.10.20	55	坂本純一(79) (野村総合研究所主席研究員)	年金を政争の具にしてはならない
95	2010.11.17	57	瀬島俊介(80) (元メルシャン㈱代表取締役専務執行役員)	ワインと共に
96	2010.12.15	66	安田宏志(77)	「日本航空」が民営化された日



回	開催日	参加	氏名(期)お仕事 ☆は外部の方	演 題
97	2011.01.19	70	松田道男(77) (ケー・エム・シーコンサルティング㈱代表取締役・法政大学ビジネススクール客員教授)	英語と日本人
98	2011.02.16	63	田中壽(67) (元鉄道総合技術研究所)	リニアモーターカーの開発
99	2011.03.16	0	東日本大震災直後のため中止	
100	2011.04.20	92	☆岡村喬生(オペラ歌手)	翔け世界へ、正しい蝶々さん
101	2011.05.18	65	賀好弘志(78) (前三井農林㈱代表取締役社長)	お茶百話
102	2011.06.15	51	佐藤公紀(87) (㈱フジクラ情報通信海外事業部副本部長)	ブロードバンドを支える光ファイバーの歴史
103	2011.07.20	49	堤興亞(71) (元住友建設常務取締役)	海外工事こぼれ話
104	2011.08.17	53	木下健(79) (東京大学教授)	海洋エネルギー利用の世界と日本の現状
105	2011.09.21	35	松本邦宏(70) (元労働省役人)	役人生活30年
106	2011.10.19	51	家正則(80) (国立天文台教授・研究連携主幹)	すばる望遠鏡で見る宇宙の一番星
107	2011.11.16	51	高橋澄子(91) (㈱MOMO代表、コーチ&コンサルタント&産業カウンセラー)	いきいき生きる ー中年~老年期の心理学ー
108	2011.12.21	60	増田忠義(73) (㈱サンコー・マーケティング・モンゴリア、キャン販売㈱元販売推進部長)	現代モンゴル事情 ー日本とのかかわり
109	2012.01.18	68	高端正直(68) (カルチャー日吉他の講師)	書作品の創作・揮毫
110	2012.02.15	71	☆八尾隆(大阪工業大学特任教授、前北野高校校長)	北野の今・昔 そして六稜にまつわる数を楽しむ
111	2012.03.21	65	藤圭之介(65) (元商社メキシコ駐在員)	メキシコとアメリカ滞在通算37年の思い出
112	2012.04.18	64	渡辺豊徳(73) (渡辺船舶技術士事務所長)	船舶のODAに従事して、二南太平洋の我が十隻の娘達 そして南太平洋の島々、サモア、ツバル、ソロモン、トンガ、マーシャル
113	2012.05.16	71	江見俊彦(65) (江蘇沙鋼鉄研究院)	草の髄から覗いた中国事情
114	2012.06.20	56	山岸勝也(68)	医療ミス裁判を弁護士なしで、5年間闘い抜いて
115	2012.07.18	67	正岡徹(63) (大阪府立成人病センター顧問、正岡会会長)	白血病と正岡会
116	2012.08.15	55	釜江常好(70) (東京大学名誉教授、スタンフォード大学名誉教授)	専門知識が生かされる社会：大学と社会の連携の強化
117	2012.09.19	47	菱谷拓也(91) (カシオ計算機㈱海外営業統轄部企画管理部 GM)	意外と知らない貨幣の話
118	2012.10.17	54	佐藤勝昭(72) (東京農工大学名誉教授、科学技術振興機構さきかけ「次世代デバイス」研究総括)	スケッチで綴る世界の旅
119	2012.11.21	75	牧武志(73) (元帝国石油㈱代表取締役副社長)	シェールガス革命：その実態とインパクト
120	2012.12.19	48	金森利至(79) (元持田製薬バイオサイエンス研究所長、製剤研究所長)	ネパールライフ ~シニア海外ボランティアに応募して~
121	2013.01.16	83	奥村康(73) (順天堂大学教授)	不良長寿
122	2013.02.20	53	大森秀二(85) (㈱インターボイス・ディレクター)	本物の音と食を伝える
123	2013.03.20	47	大門孝一(79) (元IHI Philippines 社長)	フィリピン諸々
124	2013.04.17	84	中井加明三(81) (野村不動産㈱社長)	2013年最新のマンション事情
125	2013.05.15	63	江口直美(89) (ソムノクエスト㈱社長、日本睡眠学会評議員)	快眠術でストレス社会を乗り切ろう!
126	2013.06.19	55	安岡健(79) (元フジクラ・タイランド副社長)	タイに関わり四半世紀を超えて
127	2013.07.17	72	伊藤誠三(68) (伊藤誠三建築設計企画代表)	高松塚、キトラ古墳石槨墓壁画の新視点
128	2013.08.21	48	川島正英(64) (NPO スローライフ・ジャパン代表)	いまこそスローライフを
129	2013.09.18	59	飯田毅(77) (飯田技術士事務所所長、大阪産業大学元教授)	耐震・制震に関わるプチ開発例
130	2013.10.16	0	台風のため2014年1月15日へ延期	
131	2013.11.20	56	辻孝夫(80) (元双日㈱顧問、㈱JVCケンウッド社外取締役)	スマート・コミュニティの光と影
132	2013.12.18	40	熊野裕(67) (東京銀行出身、北川工業㈱元常勤監査役)	西アフリカの実情
133	2014.01.15	49	永井司(77) (元日本食品化工社長)	甘くない砂糖の話
134	2014.02.19	76	木島弼倫(73) (京都工芸繊維大学名誉教授、世界セラミックスアカデミー会員、米国セラミックス学会フェロー)	ダイヤモンドの話
135	2014.03.19	49	☆吉田栄夫(公財日本極地研究振興会理事長、国立極地研究所名誉教授、立正大学名誉教授)	南極に魅せられて半世紀ーその自然と人の素晴らしさー
136	2014.04.16	71	清原祥恵(69) (中国・長春中医药大学客員教授)	ガマの油はほんまに効いたのか ー漢方あれこれ、生薬、漢方の科学性ー
137	2014.05.21	63	松原鉄男(68) (桜上水マンション建て替え組合理事)	マンション建て替えの苦労話
138	2014.06.18	56	三宅将充(72)	ニュージーランドでのロングスティ生活経験談
139	2014.07.16	58	山田和彦(72) (日伊協会専務理事)	ヴェネツィアのトリヴィア
140	2014.08.20	54	稲村宏史(66) (霞が関通信社代表)	琉球 私の故郷 復古と独立を願う!
141	2014.09.17	63	津田信一(94) (虎ノ門法律経済事務所弁護士)	五十にして弁護士となった訳
142	2014.10.15	40	田中和明(87) (新日鐵住金㈱君津製鐵所一貫品質企画室長)	金属の基本
143	2014.11.19	67	佐藤勝昭(72) (東京農工大学名誉教授、科学技術振興機構研究広報主監)	太陽電池のキホン
144	2014.12.17	52	山本英司(77) (元セイコーインスツル㈱半導体海外企画部長)	江戸の生活と“時” 時の流れに身をまかせ



回	開催日	参加	氏名(期)お仕事 ☆は外部の方	演 題
145	2015.01.21	69	阪田雅裕(74) (アンダーソン・毛利・友常法律事務所顧問、元内閣法制局長官)	政府の憲法解釈と集団的自衛権
146	2015.02.18	58	塩山弘(68) (住友電気工業(株)を経て(株)OCC元専務取締役)	世界を結ぶ光海底ケーブル通信網
147	2015.03.18	75	三谷秀史(82) (拉致対策特命担当内閣府参与)	日本のインテリジェンス ―その光と影
148	2015.04.15	57	角田修一(74) (UDP都市再開発企画(株)、海流エネルギー活用推進機構共同代表幹事)	物づくりに於ける談合文化と事づくりにけるプロデュース文化
149	2015.05.20	91	坂田東一(79) (前ウクライナ大使)	ウクライナ危機について
150	2015.06.17	104	☆澤地久江(作家)	北野高校との縁
151	2015.07.15	56	加藤直日子(70) (元全日空ワールド(株)常務取締役)	70期の海外旅行と旅行会社の舞台裏
152	2015.08.19	65	寺岡加代(79) (東京医科歯科大学名誉教授)	高齢期にこそ知っておきたい口腔ケア
153	2015.09.16	61	樋口徹雄(75) (元関西ペイント(株)取締役色彩研究所長)	色彩のおはなし
154	2015.10.21	62	釜江尚彦(69)	歩くのは楽しい 一山歩き、街道歩き、里歩きの楽しさ
155	2015.11.18	53	谷島由希子(91) (つくば学園都市オーケストラ柏交響楽団)	普通の主婦が映画に出ちゃった!? 映画「マエストロ」の舞台裏
156	2015.12.16	78	松田卓也(73) (神戸大名誉教授NPO法人あいんしゅたいん副理事長)	日本から超知能を作りシンギュラティを起こそう
157	2016.01.20	89	吉野彰(78) (リチウムイオン電池材料評価研究センター理事長)	リチウムイオン電池 現在・過去・未来
158	2016.02.17	114	廣瀬俊朗(112) (ワールドカップラグビー日本代表、東芝プレイブルーパス)	1勝2分21敗から3勝1敗へ ～何が日本ラグビーを変えたのか～
159	2016.03.16	98	西水佳代(94) (ピアニスト)	なぜ日本人はそんなにショパンが好きなのですか?
160	2016.04.20	71	山崎吉朗(84) (一般社団法人日本外国語教育推進機構理事長)	ワインを楽しむための基礎知識 ～好きこそものの上手なれ～
161	2016.05.18	73	佐藤秀丸(84) (ピートラックスジャパンシニアアドバイザー)	ビジネスに必要なデザインシフト ～シリコンバレーで今起っていること～
162	2016.06.15	66	麻野純生(79) (株)IHI インフラシステム顧問、元社長)	トルコ共和国の大型橋梁建設に携わって40余年
163	2016.07.20	72	勝村義和(71) (作家・画家)	パリの佐伯祐三を追って
164	2016.08.17	47	竹林征三(74) (風土工学デザイン研究所理事長、富士常葉大学名誉教授)	風土工学誕生物語 ～風土文化の地域づくり～
165	2016.09.21	61	堀野定男(71) (神奈川大学工学部人間工学研究室)	ドライブレコーダーの人間工学的活用による交通事故防止
166	2016.10.19	67	坂田陽子(97) (フリーアナウンサー)	フリーアナウンサーの生き方 誰か 仕事の方 7年間のNHK「ニュースワッチ」時代を振り返って
167	2016.11.16	64	江見俊彦(65) (元東北大学教授)	世界と日本、そして人 ―研究者の立場から―
168	2016.12.21	57	八木啓代(92) (歌手、作家、エッセイスト)	リアルタイムメディアはなにができるか
169	2017.01.18	73	若林三弥子(88) (料理研究家、サロンアドバイザー、エッセイスト、料理教室boa mesa [ボアメザ] 主宰)	50歳目前でスタートした自宅料理教室を日本一のサロンに成長させるまで
170	2017.02.15	131	有働由美子(99) (NHKアナウンサー)	北野高校倫理の時間に学んだ私の原点
171	2017.03.15	54	☆名知仁子(NPO ミャンマーファミリー・クリニックと菜園の会代表理事)	人生一度きりだからこそ ～ミャンマーの無医村でクリニックと菜園を運営して～
172	2017.04.19	54	嶋和彦(86) (浜松市楽器博物館館長)	日本初の公立楽器博物館の20年 ～生きている博物館への挑戦～
173	2017.05.17	78	中村豊四郎(81) (アール・イー・アイ(株)代表取締役)	公共交通のわかりやすい案内
174	2017.06.21	58	佐藤達男(75) (富士エアロベーステクノロジー(株)元常務取締役、経済学博士)	六十の手習いで経済学博士に ―私の生涯学習―
175	2017.07.19	58	中山行輝(80) (IR*ゲーミング学会監事)	カジノを含むIR(統合型リゾート)施設は日本でどう実現する?
176	2017.08.16	55	☆恩知忠司(北野高校校長)	北野高校の現在と近未来像
177	2017.09.20	73	竹山聖(85) (建築家、京都大学教授)	<空っぽ>の想像力

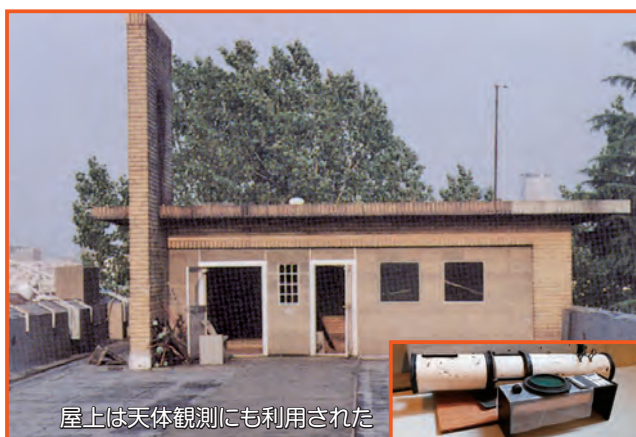
計(名) 10,708



東京六稜倶楽部 で検索 講演録が閲覧できます。

# 思い出の母校

憶えていますか？レンガ造りの校舎、ほの暗い廊下、講堂、50mプール。そしてもうご覧になりましたか？モダンな新校舎と六稜会館。懐かしい母校と新しい母校を、写真で紹介します。





コンクリートの壁が美しい新校舎



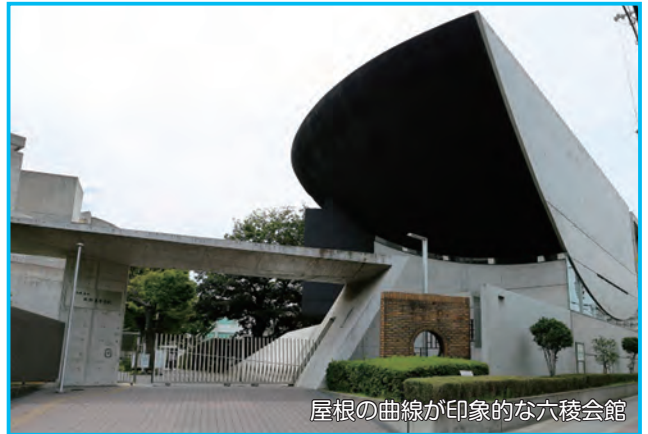
教室棟廊下



屋上には天文台も



教室棟外観



屋根の曲線が印象的な六稜会館

## 懐かしの北野グッズ

生徒手帳や校章からロッカーのカギ、記念のタオル…。物持ちのいい有志の皆さまに現物を提供いただきました。体育祭で配られた手ぬぐい、卒業式でもらったキーホルダーなど、思い出が蘇りますね。



グッズ提供：  
志賀啓成さん(84期)  
平田倫子さん(96期)

# 北野の記念碑と記念樹

ご存知ですか？北野高校の校庭にある記念碑や記念樹の数々。それぞれが北野の歴史的一幕を物語っています。



モニュメント(「北中」記念碑)

正面玄関横に設置された昭和校舎の屋上部分を移設したモニュメント。現在では十三公園側が正面玄関となっている。



阿部醒石先生 墨跡碑

屈指の書道家であり武道家であった阿部醒石(本名：俊一)教諭の遺徳を偲び、その教えを北野生に永く伝え励ますため、2012年に建立された。碑文は、植芝盛平翁による道歌「合気とは よろづ和合のちからなり たゆまずみがけ 道の人々」。



笹部桜

桜をこよなく愛し、水上勉の『櫻守』のモデルともなった北野17期生の笹部新太郎さんにちなみ、2003年に約20本が校内に植えられた。日本古来の山桜の清楚な美しさを残すこの桜は、笹部さんが苦心の末に品種改良に成功し、1985年に新品種として認定されたもの。正門左手の芝生広場と会議室前、また南門近くで、春になると可憐な花を咲かせる。



メモリアル・ウォール(弾痕の壁)

1945年7月の大阪空襲による28個の弾痕を残す昭和校舎の西壁は、平成校舎に建て替えられた今も教室棟西側の壁に保存されている。弾痕の直径は30cmほどもあり、機銃掃射の激しさを物語っている。



殉難の碑

1945年6月、アメリカ軍による大阪大空襲の際、泊まり込みで校舎防衛にあっていた2人の2年生が焼夷弾を受けて死亡。その死を悼み、後世にその惨禍と平和への願いを語り伝えるために同期生によって建てられた。



ラグビー部員の碑

1955年、天王寺高校とのラグビー定期戦の試合中、頭部を強打し不慮の死を遂げた野本武さん(68期)を悼み、建立された。これ以来、北野ラグビー部では彼がつけていた背番号『1』を永久欠番としている。

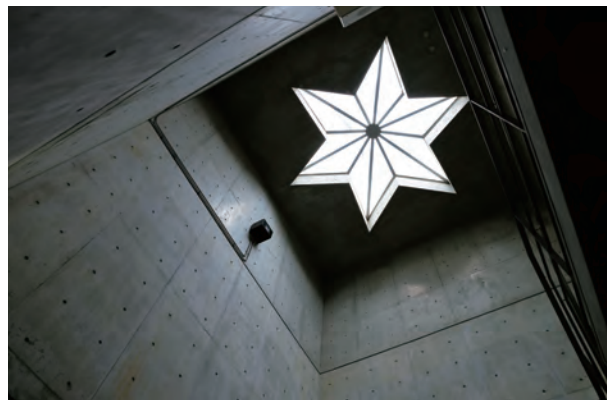


73期卒業記念樹

昭和52年に73期卒業生の有志により金木犀を植樹。毎年、秋になると小さな黄色い花を咲かせ、かぐわしい香りを漂わせる。

# 総会の記録

〈第51回～第59回〉



## 第51回総会



平成20(2008)年6月7日(土) ■於：学士会館 ■出席者：210名 ■担当期：89期

### 【第一部 総会】

総会は、西山則子さん(89期)の司会進行で行われ、まずは、東京六稜会・志甫溥会長(66期)から今年4月に母校の入学式に招かれた時のお話と、東京も大阪に倣って若い人の参加増員をはかり活性化したいとの挨拶がありました。

来賓の石本正明校長は、母校出身の橋下徹知事(100期)が進める公立高校復権構想には積極的に応えていきたいと述べられ、今年着任された竹内教頭の紹介の後、ご本人からも挨拶がありました。富田昌宏・六稜同窓会常任理事(78期)からは、山本雅弘会長(71期)のメッセージが代読され、135年記念総会への参加要請などが伝えられました。

### 【第二部 講演】

総会に続いては、山田五郎さん(89期・本名武田正彦・文芸部・美術部)の講演です。TVの情報番組でコメンテーターを務める彼が選んだ演題は「経度の発見～時計が変えた世界史～」。大航海時代、国王名で莫大な懸賞金をかけて募集しても、永年実用に供する精度を上げられなかった経度測定技術のお話です。

雑誌編集で培ったテーマの掘下げとTVで鍛えた話術を駆使しての講演に、皆さん熱心に聞き入っておられました。

時を刻む仕掛けに脱進機(エスケープメント)を使った機械式時計は、13世紀中頃の欧州で、おそらくは修道院の夜間の祈祷時間を告げるために発明されたのだそうです。また、大航海時代、洋上で経度を正確に測定するカギは、月と特定の星との角度差分析、または精度の高い時計による時差測定と考えられています。16世紀には、ガリレオも木星の衛星発見につながる天体観測や「振り子の等時性」の発見を通してこの難題に挑んだのだとか。

18世紀の英国で、英国-西インド諸島間の航海で

経度誤差が1/2度以内なら2万ポンド(現在の貨幣価値で12億円とも)の賞金がかけられた経度法が制定され、大工のJohn Harrisonが生涯をかけて改良を重ね、天体観測派学者たちからの異議申立てや賞金差止めにも屈せず精度を実証し、ついに賞金を全額手にした経緯が紹介され、興味尽きない話が終わりました。

### 【第三部 懇親会】

懇親会は15時より開催され、六稜同窓会寄贈の清酒「六稜」の鏡開きが、北野高校の出口学先生(94期)、徳岡浩二・六稜同窓会常任理事(92期)、東京六稜同窓会の志甫会長、松本邦宏さん(70期)、89期代表の多賀淳子さんにより執り行われました。

続いて出席者中の最高齢者で応援団に所属されていた中村典

美さん(49期)より乾杯のご発声をいただき、その後はしばし期ごとのテーブルで歓談となりました。

新会員120期の青山学院大学の益岡咲百合さん、早稲田大学の下山真司さん2名からの自己紹介の後、いよいよお待ちかねの抽選会です。BODY SHOP社のボディケア商品(岩田松雄さん提供)、山田五郎さんの新刊本(同氏提供)、ジャム詰め合わせ(無添加パン工房パパシュ経営・小山邦子さん提供)各数点ずつを景品とし、運試しを楽しんでもらいました。

終盤を迎え、次期幹事90期の河野次郎代表に89期代表の山本俊雄さんからタスキが掛けられ、来年に向けた決意表明が行われました。最後に、乾杯のご発声をいただいた元応援団・中村さんも登場、全員で校歌斉唱し、山本さんによりエールが送られお披露喜となりました。(松本 幹・89期)





## 第52回総会



平成21(2009)年6月6日(土) ■於：学士会館 ■出席者：180名 ■担当期：90期

### 【第一部 総会】

第52回総会は6月6日(土)に昨年と同じ神保町の学士会館で開催され、あいにくの雨にもかかわらず180名にも及ぶ同窓生が集結。第一部は竹内順子さん(90期)の司会進行で始まり、東京六稜会・志甫博会長(66期)から「今日の出席は最年長が49期、最年少が121期ですが、世代を超えたこのつながりを今後とも続けていきましょう」との挨拶で幕を開けました。

来賓の名誉会長の八尾隆・北野高校校長は、平成7年まで北野高校で教鞭をとられ、14年振りに北野高校へ戻られたとのこと。規律正しく自主性の高い北野ならではのエピソードを披露され、「今後は北野高校のアピールを先頭に立って行っていきます」と述べられました。木村市三・六稜同窓会事務局長(73期)は当日欠席となった山本雅弘・六稜同窓会会長(71期)からのメッセージを披露され、「他の同窓会から、六稜同窓会の活動は一目置かれています。同窓会は人生にプラスをもたらします。今後も“六稜ワールド”を守り育ててください」と述べられました。

### 【第二部 講演】

講演はガラス工芸作家である渡邊明さん(90期)。渡邊さんは、昨年紫綬褒章を受章され、さらに今年は「京都市無形文化財保持者」に認定されておられます。

演題は『日本の伝統工芸とガラス』。スライドを使いながら素晴らしい作品を紹介、ビデオで実際の製造工程の説明をいただきました。後半で、皇居での紫綬褒章伝達式でのエピソードをコミカルに話された際には、会場の笑いも誘い、和やかな雰囲気となりました。最後は文化財保護法に触れ、文化を受け継ぎ発展させていく重要性を述べ、「工芸も特別なものとしてではなく、生活に潤いを与えるため、日常の中でまず身近な工芸品に触れることから始めて、楽しみとして感じてほしい」との持論を力強く語り、盛大な拍手の中、講演

を締めくくりました。

### 【第三部 懇親会】

会場を移しての懇親会は、野口要さん(90期)の進行で和やかに始まりました。昨年の懇親会でも好評だった清酒「六稜」の鏡開きが、東京六稜会の志甫会長、北野高校八尾校長、富田昌宏・六稜同窓会総務委員長(78期)、若手代表・尾上琢允生さん(112期)、そして当番の90期代表・北野妙子さんにより、威勢よく執り行われました。

続いて出席者中の最高齢者で応援団に所属されていた中村典美さん(49期)より、会場全体に響き渡る大きな乾杯のご発声をいただきました。

歓談が続いた後、新会員の三谷雅之さん(120期・早稲田大)、長尾健太さん(120期・中央大)、窪田大さん(121期・東京大)の3名の方より自己紹介、さらに簡単なインタビューに応じていただきました。

続いてお楽しみの抽選会では、講演した渡邊さんの作品の写真セットを20名、十三周辺を特集した雑誌『大阪人』を10名の方にお持ち帰りいただきました。

飛び入りで牧野嘉宏さん(56期)が自慢の喉で謡曲を披露するという一幕も。恒例の校歌斉唱では、元応援団・増田昭雄さん(90期)によりエールが切られ、懐かしい校歌にみんなで声を合えました。その後、次期幹事となる91期代表の三浦泰夫さんに90期代表の河野次郎さんよりタスキが掛けられました。

三浦さんの来年に向けた力強い決意表明の後、懇親会はお開きとなりました。次回は平成22年6月19日(土)、学士会館にて開催される予定です。

最後に、東京六稜会の志甫会長をはじめ、常任幹事や事務局の方々のご指導、ご支援、また六稜会会員の皆様方からの多くのご支援に対して深く感謝申し上げます。

(早瀬ヨネ子、小糸恵、島崎裕子、平野嘉一・90期)

## 第53回総会



平成22(2010)年6月19日(土) ■於：学士会館 ■出席者：220名 ■担当期：91期

### 【第一部 総会】

梅雨入り宣言がなされたばかりの当日、幸い雨は上がり、220名の同窓生が一堂に会しました。

総会の司会は、岩下智昭さん(91期)。最初に志甫溥・東京六稜会会長(66期)から、「今年度は最年長(49期)から最年少(122期)まで、三世代を超えて相互理解を深めてほしい」との挨拶がありました。

来賓の八尾隆・北野高校校長からは、来年度から普通科に加えて文理学科が併設されるとの報告と、教師は生徒に対してある時は振動を和らげ、ある時は増幅させる「バネ」のような存在でありたいというお話をされ、山本雅弘・六稜同窓会会長(71期)は、委員会拡充について述べられました。最後に、黒岩暎一・東京六稜会事務局長(75期)から、役員体制、会計、常任幹事増員などの報告と志甫会長再任の提案がなされ、一同の拍手をもって承認されました。

### 【第二部 講演】

第二部は、小澤一雅さん(91期)による講演「変貌する社会基盤整備と大学における人材育成～インフラチームジャパンを世界へ～」です。小澤さんは高校時代サッカー部に所属、卒業後、東京大学工学部へ進学し、土木工学科コンクリート研究室で研究を始め、現在は同大学工学系研究科教授。社会基盤の移り変わり、大学の研究と教育の変遷について語りました。

小澤さんは、熟練技術者による「締め固め作業」の必要のない「自己充填コンクリート」の開発に成功しますが、技術的に良いものでも国内ではなかなか普及しないという課題に突き当たります。新技術の活用のため公共事業のマネジメントや、明治時代から続く法令・諸制度の研究に転換しますが、最終的に最も重要なのは人材育成だと考え、現在は「ケースメソッド」を用いた国際的に通用する人材育成に注力されているそうです。小澤さんは、講演の最後を、南アフリカW杯で

のサムライジャパンのゴールシーンと、「がんばれ日本、誇りと自信を持って、新たな挑戦を!」とのメッセージで、サッカー部らしく締めくくりました。

### 【第三部 懇親会】

懇親会の司会は宇津木紀子さん(91期)、大阪からの8名を含む幹事46名の合言葉は「全員でおもてなし」です。まず、来賓の八尾校長、山本会長、黒田真樹・北野高校教諭(94期)、富田昌宏・常任理事(78期)、木村市三・事務局長(73期)、久保田静・事務局次長(73期)を紹介。次いで「ヨイショ、ヨイショ、ヨイショ」の掛け声で「こも樽「六稜」」の鏡開き、そして、最年長の中村典美さん(49期)による力強い乾杯のご発声。なお、料理の盛付けにあしらわれた「東京六稜会」の文字と「六稜の星」は、学士会館ご担当者の粋な計らいによるものです。

さらに、小澤さんの講演にもつながりますが、今年度は若手に発信の機会をということで、新入会員112期の末澤貴大さん、若松佑輝さんの紹介のあと、91期の篠田真美さんと岡本元さんの司会進行による「若手アワー」を初めて実施、102期から120期までの若手に、興味を持つ分野について話してもらいました。

若手アワーのあとは、米国から帰国したシンガーソングライター吉田昌代さん(91期)の登場です。自作曲“OSAKA”の「それでも大阪、やっぱり大阪、大好き大阪…」のフレーズは同窓生の琴線に触れました。「翼をください」の合唱で盛り上がりは最高潮に達し、91期代表の三浦泰夫さんから92期代表の羽田野達夫さんにタスキが引き継がれました。最後は、竹村二郎さん(73期)、佐々木功さん(91期・応援団長)のエール、吉田さんのピアノ伴奏で、全員が肩を組んで北野高校校歌を斉唱、会場が一体感に包まれたところで、お開きとなりました。(造力由美、原田雅己・91期)

## 第54回総会



平成23(2011)年6月3日(金) ■於：学士会館 ■出席者：209名 ■担当期：92期

### 【第一部 総会】

総会は18時から、中川恵子さん(92期)の司会進行でスタート。最初に、3月の東日本大震災でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りし、黙祷が捧げられました。続いて、東京六稜会・志甫博会長(66期)からも、お見舞いの言葉と、「同窓会は年代を超えた絆を強くする機会である」との言葉をいただきました。

続いて本年度から就任された楠野宣孝・北野高校校長・同窓会名誉会長から、在校生の活躍について、近年で最高レベルになった国公立大学合格実績や、部活動、体育祭への想像以上の熱中ぶり、六稜祭への集中具合などのエピソードとともに、受け継がれた「六稜魂」の印象を語られました。山本雅弘・六稜同窓会会長(71期)からは「同窓会は人生のプラスアルファの場」であるというお話と、この度いただいた多額の寄付、手塚治虫さんの在校時代の作品の寄贈などを紹介され、今後も「寄ってたかって」現役在校生への支援をしていきたいという力強い宣言がありました。

最後に東京六稜会事務局・黒岩暎一さん(75期)から当期会計報告が行われました。

### 【第二部 講演会】

「生物多様性って何?」というタイトルで、中井克樹さん(92期)の講演が行われました。中井さんは、滋賀県立琵琶湖博物館研究部の専門学芸員として活躍中で、昨年10月に名古屋で開催された「生物多様性条約締約国会議(COP10)」の中でも「多様な主体による防除、産業との調和、非意図的導入との戦い、多様な主体の参画による防除の事例」というテーマで、ユニークなワークショップを行っています。

中井さん自身の虫好きだった少年時代、水泳部だった北野高校時代の思い出から始まった講演は会場の笑いを誘いながらも、次第に「生物多様性の危機」という、人間にとっても重要で緊急性の高い話題へと移っ

ていきます。一貫して語られたのは「自然や生物とのつきあい方を考え直してみよう」という身近な主題であり、時に人類という「種」も例えに用いながら、人間が気づかないうちに生物の地域性や多様性に影響を及ぼし、種の絶滅に関わってしまったという状況が、わかりやすく伝えられました。

### 【第三部 懇親会】

第三部からは、隣の広間に場所を移し、懇親会が催されました。最初に笹川忠士・事務局長(74期)から開会にあたり、コミュニケーション・コンセンサス・コラボレーションの3つのCを大切にして、今後の同窓会運営を行っていくとの挨拶がありました。

続いて、今回ご出席の同窓最高齢者である小林富美彌さん(59期)から高らかに乾杯のご発声をいただきました。会場のあちらこちらで久しぶりの再会を喜ぶ歓談で盛り上がる中、懇親会のメインイベントとして、ラテン歌手・作家・ジャーナリストとして多方面で活躍されている八木啓代さん(92期)のミニコンサートが始まりました。八木さんは、現在メキシコと東京に居を構えて、日本と中南米を往復しながら歌手活動を展開されています。今回もその美しい歌声で、懇親会会場を沸かせてくれました。

再びの歓談の後、新たに加わった122期の新会員、浅上陽平さん、小川泰子さん、木下祐輝さん、福井恵莉薫さんたち4人の紹介と近況の報告、恒例の若手アワーとして、7名からのスピーチがありました。

次に今回幹事を担当した92期代表・羽田野達夫さんから、次の幹事となる93期への引継ぎ式が行われ、93期の面々がステージに上がり、代表の小國敏和さんがタスキを受け継ぎ次年度への決意を語りました。

最後は、元応援団・粉川保啓さん(92期)のリードによる全員の校歌合唱で、第54回東京六稜会は無事締めくくられました。(林 純一・92期)

## 第55回総会



平成24(2012)年6月1日(金) ■於：学会館 ■出席者：約200名 ■担当期：93期

### 【第一部 総会】

川尻和子さん(93期)が司会を担当。志甫博・東京六稜会会長(66期)からの挨拶では、人と人との繋がりとということについても一度考え直してみてもどうかとの趣旨の発言がありました。続いて来賓の楠野宣孝・北野高校校長から、現役生が国体や科学甲子園で活躍しており、文武両道の伝統は今も活着ているとお話がありました。また、山本雅弘・六稜同窓会会長(71期)からは、日本人が持つ「絆 — 利害を超えた心の繋がり」の中で六稜同窓会として何をなすべきかを考えていくべきとお話がありました。

### 【第二部 講演】

講演では、奥真也さん(93期・高校時代はテニス部に所属、東京大学医学部に進学、総会当時は会津大学先端情報科学研究センター教授)が、「自己決定権時代の日本人～放射線問題渦中の福島県から～」というタイトルで、福島県内で勤務する科学者としての視点から、福島原発の被災地の現実を語りました。

2011年の東日本震災直後、自らの専門性を生かしてできることとして、福島県内各所での放射線の健康への影響に関する講演をはじめ、放射線積算線量や内部被曝線量評価を表示するアプリの開発、日本医学放射線学会の放射線に関する声明文の草稿委員などの活動を行われたとのこと。自らの経験を基に、福島や日本の本質的復興のために、我々が何をなすべきかについての考えを語られました。地元では、原発の問題について楽観が許されないという空気が続いており、強い被害者感情が感じられるとのこと。放射線被曝の厳格な管理が必要である一方、「危険神話」とでも呼ぶべき過度な排除活動は軌道修正されるべきという話や、福島に留まるかどうかは、結局は各自が自分で決めるべきとの提言もありました。締めくりに、福島、ひいては日本全体の問題が国際的に正しく理解される

ために、日本人が今後、もっと海外に出ることが必要であり、次世代がグローバルな舞台に立てるように礎をつくりたいとまとめられました。

### 【第三部 懇親会】

懇親会の司会は植田久子さん(93期)が担当。来賓の黒田真樹・北野高校教諭(94期)、千種康一・常任理事(88期)、徳岡浩二・常任理事(92期)、笹川忠士・事務局長(74期)、久保田静・事務局次長(73期)のご紹介の後、今年から復活した鏡割りが行われ、続いて最年長出席者の江川隣之介さん(56期)の力強いご発声により、乾杯が行われました。

しばらくの歓談後、広告クリエイターの小霜和也さん(93期)が、自身が制作したCMを趣向を凝らして編集し上映。小霜さんは高校卒業後、東大法学部で法曹界を目指したはずが、ふとしたはずみで広告界に入ったとのこと。数々の作品を観てみると「これも彼が作ったの?」と驚かされるばかりでした。

新入会員紹介では、清水洗一さん(123期)と安達将太さん(124期)が元気よく挨拶をされました。

続く若手アワーでは、122期の若松佑輝さんと田中啓介さんに高校時代の楽しいエピソードや若い世代としての意気込み等について語っていただきました。

懇親会も無事終盤を迎え、93期代表の小國敏和から94期代表の大鐘美明さんへタスキの引継が行われました。最後に、応援部OBの中村雅一さん(93期)の力強いリードで出席者全員が一つとなって、それぞれの想いを胸に北野高校校歌を斉唱して懇親会はお開きとなりました。

大震災からおよそ1年が経過した時期であり、同窓会の成功により、同窓生や東北・全国の皆様にとって僅かでも希望の架け橋となろうと準備してきましたが、一緒に総会を盛り上げていただきましたご出席者の皆様等に心より御礼申し上げます。(小國敏和・93期)

## 第56回総会



平成25(2013)年6月15日(土) ■於：学士会館 ■出席者：約180名 ■担当期：94期

### 【第一部 総会】

総会は、伊豆原孝さん(94期)の司会でスタート。まず、志甫溥・東京六稜会会長(66期)から、史上初の女性校長の誕生はまさに快事と、来賓の原田恵子・北野高等学校校長の紹介がありました。原田校長からは、「教えたことがこれほど大きく返ってくる学校はない、しっかりと生徒を教育し、成長させていきます」との頼もしいお言葉をいただきました。次に、山本雅弘・六稜同窓会会長(71期)から、11月2日(土)中之島中央公会堂で開催予定の140周年記念式典と総会への協力依頼と案内がありました。最後に、黒岩暎一・東京六稜会事務局長(75期)から、会計報告他と、若手の参加促進のため、学生の年会費・参加費を無料としたことなどの報告がなされました。

### 【第二部 記念講演】

第二部は、長野県佐久市で産直農業に従事する谷野賀津代さん(94期)の「これからの食と農を考えると～生活者と生産者の視点から～」と題する講演です。

学生時代から難民問題、砂漠化、子どもの困窮などの問題に関心を寄せていた谷野さんは、大学卒業後はNGO職員に。その後結婚、1990年から5年間、夫婦で72カ国を巡る旅を敢行、井戸掘りや診療所建設事業に関わるなど、現地の人々と働き、食べ物を分け合う日々を過ごされました。帰国後いったんは大阪へ戻るも「物質的な豊かさよりも自然と仲間と囲まれた暮らし」への思いから、1998年に佐久へ移住、無農薬・無化学肥料栽培農業を開始。当初は失敗続きで、「食べるとピリピリするキャベツ」「レースのように虫食いだらけの小松菜」などを大阪の友人が「とにかく送って」と買ってくれたそうです。今では80種類ほどの季節の野菜・米・味噌などを主に東京や大阪の消費者に届けています。谷野さんは、“We are what we eat.” だからこそ、だれもが「食と農」に関心をもって

ほしい、と講演を締めくくりました。

### 【第三部 懇親会】

懇親会の司会は、大谷智子さん(94期)。まず、来賓の六稜同窓会の田中浩作さん(71期)、徳岡浩二さん(92期)の両常任理事、笹川忠士・事務局長(74期)、久保田静・事務局次長(73期)、北野高校教諭の黒田真樹さん(94期)、出口学さん(94期)の紹介がありました。

続く鏡開きでは、原田校長、松本邦宏・東京六稜会副会長(70期)、田中理事、大鐘大明・94期代表幹事、安藤裕二・若手交流会幹事(115期)が登場、幸田秀樹さん(94期)寄贈の菰樽に、「よいしょ」の掛け声で木槌をふり下ろしました。乾杯のご発声は、最年長の江川隣之介さん(56期)。その後、新会員の中山佳菜さん(118期)、中野泰輔さん(123期)、加藤奏さん、横井健汰さん(以上124期)、川崎誠さん、久保朱莉さん、空元香安莉さん、和久正義さん(以上125期)が、檀上から元気に挨拶されました。

ここでマイクは安芸真博さん(94期)に手渡され、10チーム対抗「北野高校クイズ大会」へ。それぞれ、祖父母から孫の代までの世代混成チームです。『「喜八洲総本舗」の一番人気商品は?」「断郊競走が始まったのはいつ?」などの難問続出、正解発表のたびに「おおーっ」という歓声と「えー」という落胆の声、終わり頃にはどのチームもすっかり打ち解けた様子です。優勝チームには北野高校写真入り菓が贈呈されました。

懇親会も終盤を迎え、大鐘代表幹事が「やっぱり、北野高校ってエエなあ」と挨拶。万雷の拍手の中、95期代表幹事の谷垣建有さんへとタスキが引継がれました。最後は、梅田正太さん(94期)指揮、鈴木美佐子さん(94期)のピアノ伴奏による校歌斉唱、安藤裕二さんのエールでめでたくお開きとなりました。

(田中敏朗・94期)

## 第57回総会



平成26(2014)年6月21日(土) ■於：学士会館 ■出席者：約200名 ■担当期：95期

### 【第一部 総会】

山根仁志さん(95期)が司会進行を担当。初めに、志甫溥・東京六稜会会長(66期)からの挨拶のあと、来賓の原田恵子・北野高等学校校長からは、文理学科に続き普通科も学区撤廃となり、旧第1学区以外の大阪府全域からの受験生が増加したこと、文部科学省より「スーパーグローバルハイスクール」の指定を受けたことの報告が、また、野村正朗・六稜同窓会副会長(82期)から、140周年記念式典と総会について報告がありました。

### 【第二部 記念講演】

第二部は、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の宇宙科学研究所教授の藤本正樹さん(95期)による「惑星探査をドライブするものは何か」というタイトルでの講演です。藤本さんは高校卒業後、東京大学理学部で地球惑星科学を専攻、同大学院で理学博士号を取得した後、東京工業大学准教授などを経て、2006年より現職に就かれています。

講演ではまず、惑星探査の分野では、少し前までSFの世界とされていたものがどんどん現実のものとなっているが、惑星探査をドライブしているものは実は難しいことではなく、人間として根本的に持っている好奇心であるとの説明がありました。子供のころ持っていた好奇心をベースに、「太陽系の形はどうやってでき上がったのか?」「地球に生命がいる理由、さらに一般的な生命居住可能性」という、惑星科学の二大テーマについて探求しているとのことでした。

次に、惑星探査機「はやぶさ」による成果の紹介がありました。「はやぶさ」が小惑星から採取してきたサンプルは、太陽系の衝突による進化の解明につながる非常に貴重なものであるとのこと。また、「はやぶさ2」による水星・木星・火星探査など日本が参加しようとしている計画の紹介もあり、終始好奇心をそそる講演でした。

最後に、惑星探査は人類として為すべきことである一方、時間と経済的コストがかかるものであり、かつ、観測されたものから知りたいことが直接わかるわけではないという面もあるが、その点を理解した上で、今後も応援していただきたいと締めくくられました。

### 【第三部 懇親会】

懇親会の司会進行は大間栄美さん(95期)が担当。まず、来賓の紹介があり、来賓を代表して六稜同窓会常任理事・田中浩作さん(71期)からの挨拶に始まり、続いて鏡開きを行った後、最年長の大山利雄さん(56期)のご発声で、乾杯を行いました。

しばしの歓談の後は、昨年に引き続き、「北野クイズ大会」です。「十三の地名の由来は?」「喜八州総本舗のみたらし団子はつぎのうちどれ?」など、北野高校に関係するちょっとディープな問題に、各チームとも世代を越えて意見を交わし盛り上がりました。若手アワーでは、小山真澄さん(111期)と安藤裕二さん(115期)により、125期の勝俣晴日さん、芦崎友里絵さん、空元香安莉さん、橋本有加さん、126期の田村真琴さん、藤田剛さんの6名の会員の紹介がありました。新会員の皆さんの挨拶に、会場からは歓迎の大きな拍手が起りました。

懇親会も終わりに近づき、来年の幹事である96期のメンバーが壇上に上がり、95期代表の谷垣建有から96期代表の村井正親さんへタスキが引き継がれました。そして、安藤裕二さんのエールに続いて、高橋誠さん(95期)指揮、川口真理さん(95期)のピアノ伴奏による校歌斉唱で会場が一体感に包まれたところで、めでたくお開きとなりました。

今回は、56期の大先輩から126期の新会員まで幅広い年代の方にご参加いただき、北野で青春を過ごしたという繋がりを強く感じた会となりました。

(谷垣建有・95期)

## 第58回総会



平成27(2015)年6月6日(土) ■於：学士会館 ■出席者：約170名 ■担当期：96期

### 【第一部 総会】

司会進行は、野村恭史さん(96期)が担当。志甫溥・東京六稜会会長(66期)からは、自然災害などの平常心を失うような出来事が起こっても同窓会という輪の中で助け合っていくことが大切との挨拶がありました。

次に来賓の向畦地昭雄・北野高等学校校長から、大阪府全域から生徒が集まるようになった校内の雰囲気やスーパーグローバルハイスクールの取組、文理学科への一本化、さらには、陸上部員の近畿大会出場や山岳部のインターハイ出場などについて報告がありました。

六稜同窓会の上田成之助会長(80期)からは、大阪と東京の連携強化についての提言が、続いて、黒岩暎一・東京六稜会事務局長(75期)から、会計報告とあわせて、志甫会長からの会長職勇退の申し出を受けて、新会長は太田省三さん(77期)にお願いしたいとの提案があり、総会で承認されました。

太田新会長からは、同窓会組織として、会員相互の親睦と母校の発展への支援の二つの役割を果たすため、財政基盤の確立と会員の積極的な参加について決意表明がありました。

### 【第二部 記念講演】

次に、京都大学大学院工学研究科教授の神吉紀世子さん(96期)による「文化的景観(Cultural Landscape)の保全と都市・農村計画」をテーマとした講演が行われました。

講演の中で、「文化的景観」とは、見た目の美観ではなく、「環境」と「人の営為の影響」により形成される「地域の成り立ち」であることが、熊本県の通潤用水を例として説明されました。また、文化的景観の保全は、都市計画・農村計画制度だけでできるものではなく、地域社会とともに、保全と発展を両立するプログラムを作成・実践し、推移を評価する、永続的な取り組みが重要とのことでした。

そして、国際協力による実践プログラムの策定の例として、インドネシア・ボロブドゥール地域の文化的景観保全と地域づくりの取組み、さらには、大阪府泉佐野市の日根荘大木地区において実践している取組についても紹介がありました。

### 【第三部 懇親会】

さて、懇親会の司会は、96期の平田倫子さんと山内活也さんが担当。

来賓の紹介のあと、来賓を代表して、出口学・北野高校教諭(94期)と笹川忠士・六稜同窓会事務局長(74期)より挨拶をいただきました。その後は鏡開き、東京六稜会顧問で最年長の大山利雄さん(56期)のご発声による乾杯と続き、懇親会が始まりました。

しばしの歓談の後、「北野の常識多数決ゲーム」を実施。最後のお題は「十三名物といえど?」ということで、最多数の回答は十三・喜八洲総本舗の酒まんじゅうでしたが、優勝チームには、当日の朝、大阪から駆けつけた96期生が調達してくれた酒まんじゅうが賞品として贈呈され、大いに盛り上がりました。

続いて、111期の小山真澄さん、塚本渉さんによる125期、126期のフレッシュな顔ぶれの紹介。それぞれが現役時代の所属部などについて発言したところ、各部のOBを中心に歓声が上がりました。

さらに、87期の田中和明さん創作の東京六稜会の歌のお披露目があり、東京六稜会への熱い思いが会場全体にひびくと伝わりました。

懇親会もいよいよフィナーレを迎え、96期代表の村井正親から97期代表の坂口誠さんへ当番幹事のタスキが引き継がれました。最後は、田中さんのエール、箕原律子さん(96期)のピアノ伴奏で、出席者全員で校歌を力強く歌い、六稜魂を学んだ者同士が世代を超えた絆を確かめ合いながら、無事お開きとなりました。

(村井正親・96期)

## 第59回総会



平成28(2016)年6月18日(土) ■於：学士会館 ■出席者：約200名 ■担当期：97期

### 【第一部 総会】

司会進行は、フリーアナウンサー阪田陽子さん(97期)が務め、太田省三会長(77期)より参加者への感謝の挨拶の後、向畦地昭雄校長からは、平成26年度から「スーパーグローバルハイスクール」に指定されたこと、ラグビー部に4名の新入生が入部したこと、山岳部が2年連続でインターハイ出場を決めたこと、また科学の甲子園では帝人賞受賞、地学オリンピックでは日本代表として活躍といった、文武両道の母校の近況が伝えられました。野村正朗・六稜同窓会副会長(82期)より東京六稜会への期待と六稜同窓会の活動概況について報告があり、東京六稜会事務局の伊豆原孝さん(94期)からは、会規の改正、年会費の改定、組織運営見直しの事業報告、会計報告がありました。会報のリニューアル(カラー冊子化・年2回発行)への取り組み、Facebookグループの立ち上げ、若手主催の東京六稜倶楽部(KITANO Cafe)についても紹介されました。三谷秀史・会員委員長(82期)より、催しへの参加会員数の増加をめざした会員アンケート実施についての説明がありました。

### 【第二部 講演】

東証一部上場・総合アパレル大手のTSIホールディングス代表取締役社長・齋藤匡司さん(97期)により「ハーバードビジネススクール留学体験記と実践ROE経営」との演題で講演が行われました。高校時代のエピソード、化学の尾野先生から受けた影響、ハーバードビジネススクールに留学しようと強く思った動機やMBA留学の備えについて述べた後、具体的なハーバードでの体験の日々を熱く語り、その経験がその後の経営者としての厳しい戦いの日々の糧、支えになっているとお話で講演は結びとなりました。

### 【第三部 懇親会】

総合司会の阪田陽子さん(97期)と藤井康広さん

(97期)の進行のもと、今年度は、従来のスタイルを変え、総会会場から懇親会会場に移動された方から、まず料理を取り、受付時に抽選で割り当てられたテーブルで飲食を始め、落ち着いたところで改めて乾杯を行うという段取りで行いました。今春大学に入学し上京して初参加の新人2名の紹介の後、乾杯は当日の参加者で最年長の大山利雄さん(56期)にご発声をいただきました。今回の懇親会では、「タテのつながりとヨコのつながりを深めよう」というコンセプトで、懇親会前半は、各テーブルに大先輩から若手までが混ざるようにして、幹事期である97期が世代間の「タテ」のつながりを深める場の盛り上げ隊長になりました。後半は、テーブルを移動して近い世代ごとに集まり、「ヨコ」のつながりも深めていただきました。各テーブルでは、大いに会話がはずみ、「いつもは話すことのない若い世代といろいろ話せて楽しかった」など先輩の方々からうれしい感想をいただきました。

盛況の中、懇親会も終盤を迎え、まず、97期代表の坂口誠から皆様へのお礼の挨拶をさせていただいた後、稲本望さん(97期)から大阪で開催される六稜同窓会総会の開催の案内と東京方面からの参加への呼びかけがされました。続いて、東京六稜会総会当番幹事の引継ぎ式があり、97期代表から、98期代表の大鐘卓也さんへ幹事の印となるタスキが引き継がれました。締めくくりとして、羽石彩子さん(97期)のピアノ伴奏、小松雄爾さん(97期)の指揮で、出席者全員で校歌を斉唱しました。若手を代表して塚本涉さん(111期)の閉会のことばでお開きとなりました。

従来の枠にとらわれずに、集まれた多くの同窓生同士が、限られた時間で、できるだけ密度の濃いつながりを感じられる場になったのではないかと、当番幹事として感じております。(坂口 誠・97期)



# 東京六稜会50年のあゆみ

## 〈再 録〉



# 「東京六稜会50年のあゆみ」再録

このページ以降の内容は、2007年6月9日に発行された「東京六稜会50年のあゆみ」の内容を再録したものです。

あきらかな誤植は修正していますが、漢字仮名遣いなどは当時の編集のまま掲載しています。

## 東京六稜会発足まで

—「六稜会報No.10 1977・9・15」所載の  
「東京六稜会満19年の歩みを……」

常任幹事 高垣仟二郎(39回)

より抜粋 —

昭和32年の春頃、亀山仁郎氏(47回、当時十六銀行東京支店長)を中心として、松村一馬氏(38回)吉田益雄氏(49回)片岡誠氏(50回)根岸要氏(51回)の諸君が、横の線である同期生会も良いが、縦の線、即ち、明治大正の古き先輩から、毎年卒業してくる新入会員にいたる迄を網羅する、在京会員による同窓の会を持つてではないかということで、亀山氏のところで度々会合がもたれた。

そうして、会を作る以上はシャッポが必要だということで、古き先輩の中から白羽の矢を立てたのが、当時アサヒビールの社長であった山本為三郎氏(25回)であった。そこで以上の諸君が山本さんに面会、お願いしたところ、同窓会に関係すると、寄付と就職の斡旋を頼まれるのがオチで、私は受けない、と再三の要請にも拘らず、なかなか承諾が取り付けられないということで、松村氏より私に呼び出しがかかった。松村氏の話では、大体の目安はついたが、肝腎の山本さんが承諾してくれないので、何とかウンと云ってもらう手はないか、とのことであった。

私は何とか考えてみると答えて、当時朝日新聞東京本社経済部長の弟に相談してみたら、自分は若い記者時代から山本さんをよく知っているの、私の名前を出してみたら、とのチエを授かった。

そこで、私たち一同揃って、山本さんに面会したら、ああ、そうか、ということで、早速会長就任のご快諾を得た。ただし、山本さんの最も嫌いな寄付と就職の斡旋等、会長への要請については、一切私が責任をもって処理することを確約して、納得してもらった。

さて、本来ならば、六稜同窓会東京支部というべきところだろうが、当時の六稜同窓会理事諸公と学校側との間がうまくなく、少しもまとまっていなかったように、

この際、大阪を刺激して、六稜同窓会をしっかりとものにさせるためには、東京は東京で独立の方がよいと、山本会長と私たち幹事の意見が偶々一致したので、東京六稜会と命名、ということになった。

かくて東京六稜会と名前が決まり、会長に山本為三郎氏推戴、ということで、創立総会を昭和33年5月23日 新東京グリル(産経会館内)に於て開催、ここに、東京六稜会はめでたく呱呱の声を上げたのである。

当日の出席者約100余名(呼びかけた者、約500名)、最初にはよく集ったほうだろう。

## 第17回総会までの経過

- 第1回 33・5・23 新東京グリル(産経会館内)
- 第2回 34・5・13 新東京グリル  
(34・8・6アサヒビール吾妻橋工場屋上にて、ビヤーパーティ)
- 第3回 35・5・13 光輪閣(高輪)
- 第4回 36・5・19 光輪閣
- 第5回 37・6・6 新設されたアサヒビール大森工場に於て
- 第6回 38・5・17 日本工業倶楽部(丸の内)
- 第7回 39・5・22 光輪閣
- 第8回 40・6・9 光輪閣
- 第9回 41・5・27 光輪閣
- 第10回 42・5・30 日本工業倶楽部
- 第11回 43・6・7 光輪閣
- 第12回 44・6・5 光輪閣
- 第13回 45・6・4 光輪閣
- 第14回 46・4・27 光輪閣  
(高松宮邸がこの秋から改築されることになり、その敷地内にある光輪閣での開催は、この年で終ることになった)
- 第15回 47・6・8 日本工業倶楽部
- 第16回 48・4・25 日本工業倶楽部  
(大阪では六稜同窓会100周年記念総会があるということで、その前夜祭として東京でも盛大にやった)
- 第17回 49・6・14 日本工業倶楽部

# 各回総会報告

(第18回 ~ 第49回)

## 第18回

昭和50年6月6日(1975年)

■於：日本工業倶楽部

多数会員(200名)の出席があり、会場は立錐の余地もない程の盛況。数年来、北野高校を卒業され新しく東京の大学等に進学された新会員の歓迎会を併せ行っていることもあって、若き諸兄姉の参加も多数あり、焼きとり、おでん、そば等の模擬店もまたたく間に売り切れ。他方では何十年ぶりに顔を合わず旧友が、手とり盃をかわす光景も見られ、いかにも同窓会らしい総会の目的が果たせられた感のするものであった。

①前田和三郎東京六稜会長挨拶 ②六稜同窓会名誉会長代理 佐々木教頭先生挨拶(母校の近況を詳しくご報告さる) ③六稜同窓会常任理事代表丸野豊子氏挨拶(秋の六稜同窓会の予告及び同窓会全般の状況の報告)④講演「地震のはなし」日本地震予知研究会 宮本真夫氏(48回)：中国の地震予知体制と日本のその比較をされながら、未だ不十分な予地研究への支援を要請さる ⑤柏尾英三郎氏(32回)の音頭によって乾杯を行い、懇親会に入る ⑥新入会員(当日参加された24名)の紹介のあと、小谷雅延氏(高25回)をソングリーダーとして全員で校歌の合唱を行う ⑦高垣仟二郎氏(39回)の(毎年お世話になっているアサヒビールさんへの感謝の意を含めた)閉会の挨拶を以て総会を終了した。

[常任幹事 大山利雄記] より

## 第19回

昭和51年6月4日(1976年)

■於：日本工業倶楽部

昨年に引続き今回も参加者200余名という盛況裡に行われた。午後6時の定刻には大方の会員の参集があり、幹事役も一安心。これまでは、総会の場と懇親会の会場を同じ場所に設営してあったために、来会者には立ちっ放しで総会の議事を進めさせていただくというご不便をおかけしていたが、今回よりはこれを改善。総会の会場と懇親会の会場を分離し、総会の席には

椅子を用意して、ゆっくりとくつろいでいただきながら議事を進めるようにしたために、好評の声が高かったようである。

①前田東京六稜会長の相変らずお元気なご挨拶 ②学校側を代表して、65回生でもあり、同窓会の面倒をみて下さる溝脇先生の学校近況報告 ③毎年ご多忙のなかを上京して下さる丸野豊子常任理事の六稜同窓会報告及び11月3日開催予定の同窓会(大阪の母校で行われる)の案内。巧みな話術で、東京会員の多数参加を勧誘される ④講演「最近の制ガン剤の状況について」呉羽化学工業(株)開発本部副本部長・東京研究所長・工学博士 堀田鉄也氏(60回)：時節柄万人が等しく関心を持っているテーマについて、約20分間詳しくご報告いただけたのは有難いことであった ⑤懇親会は隣の宴会場に準備された立食・模擬店形式のパーティで、梶原茂嘉氏(30回・元参議院議員・全糖連会長)の乾杯の音頭に始まり、8時までの約1時間余、談論風発、哄笑あちこち、青春の一時期に戻っての楽しい一刻であった ⑤新入会員(22名)の紹介、歓迎の拍手に答えて、今年東大進学の松島みどりさんがソプラノで応援歌を独唱するなど、若い人もハッスルして会場の雰囲気盛り上げてくれたためか、十分に用意した筈の焼きとり、おでん、そば等が早くも20分くらいで売切れ、いささか幹事諸氏を悩ましたハプニングも。 ⑦小谷雅延氏(高25回)をソングリーダーとして、全員で校歌合唱 ⑧高垣仟二郎氏(39回)より、格別のご配慮をいただいているアサヒビールの中小路茂次常務(58回)への感謝の辞と、会員のドリンク・アサヒの要請があり、続いて、明年の20回東京六稜会総会において、これまでの総会に皆勤、精勤された会員諸氏への些かの記念品贈呈を考えたい旨の挨拶があって、盛況のうちに無事終了。

[大山利雄記] より

## 第20回

昭和52年6月8日(1977年)

■於：日本工業倶楽部

350名もの参加があり、6時開会というのに5時頃より来会される方が多く、準備中の委員たちを周章さす一幕もあった。

①前田和三郎会長挨拶に続き ②当日のメイン・イベント『東京六稜会皆勤、精勤者に対する記念品の贈呈』—— 東京六稜会が20回を数えるまでに発展して

きたのは、歴代の幹事諸氏が、自己の職業に従事しながら、貴重な労力と時間を同窓会に奉仕して、会の運営に努めてきたことによるものである。

そうではあるが、幹事諸氏をして、情熱を以て奉仕にかりたてるものは、毎回熱心に参会される会員諸氏の出席である。会員諸氏の熱心なる参加、年々数の多くなっていく会員諸氏の出席こそが、東京六稜会の20回を招いた主因であるとの観点から、会員への皆勤、精勤の記念品の贈呈となった訳である。なお、幹事役の方々の中に、皆勤、精勤の方がおられるのであるが、上記の趣旨によって、記念品の受領はご遠慮を願った。

皆勤賞を受領された方は、昭和5年ご卒業、慶應義塾大学教授の森八郎氏。

精勤賞については、詳細なる記録が事務局に残っていないので、一応、出欠の返答の、はがきに申告していただいたことをベースにして、卒業年次のお古い順に決めさせていただいた。

さて皆勤賞は恩師岡島吉郎先生が描かれた、北野の旧校舎の油絵。そうして精勤賞は、手塚治虫氏の漫画色紙。ご両氏の心からのご厚意を頂いたことを、改めて紙上を借りて御礼申し上げたい。手塚氏の色紙は、彩色美しく、恐らく大変な時間を費やされたであろう力作10枚で、その受領者は次の方々である。

岸本 亮氏 大正3年ご卒業  
中谷 孫一氏 大正15年ご卒業  
青山 祐一氏 昭和3年ご卒業  
森内 昌彦氏 昭和5年ご卒業  
菅 邦夫氏 昭和5年ご卒業  
弓削 隆一氏 昭和6年ご卒業  
浅岡 三郎氏 昭和6年ご卒業  
中塚 一氏 昭和6年ご卒業  
上村 五郎氏 昭和10年ご卒業  
北村誠三郎氏 昭和10年ご卒業

③会則の変更と、東京六稜会の新会長の件の諮問 ——

前田会長より第20回総会を機に勇退したい旨のお申し出があったため、総会で、そのご承認と、新たに顧問にご就任いただくよう、会則の変更のご承認を願った。

現行の会則第3条“本会に次の役員を置く。役員任期は2ケ年とする”の次に“また顧問を置くことができる”を挿入することを満場一致でご承認願ひ、前田会長には顧問にご就任いただいた。

この間の趣旨の説明には、高垣常任幹事が当たられたが、東京六稜会の新会長には、東芝会長 玉置敬三氏(38回)にご就任をお願いすることの提案があり、満場の拍手の轟くなかで、総会に於ける新会長のご承認が得られた。④続いて新会長のご挨拶、新会長より前会長への感謝の記念品贈呈が行われた。玉置新会長よりは、20回にも発展してきた東京六稜会のますます繁栄してゆくよう会長として努めたい旨のご発言があり、また記念品贈呈に当って、前会長のこれまでのご苦勞に深く感謝の意を表明されたのであった。前田前会長よりは感謝の答辞があった。⑤大山常任幹事の決算報告及び事務報告 ⑥六稜同窓会名誉会長・母校々長 泉先生のご挨拶 ⑦同窓会代表・田村常任理事のご挨拶 ⑧祝電の披露 —— 大阪府知事 黒田了一氏、衆議院議員 中馬弘毅氏、十六銀行 亀山専務(東京六稜会創設の頃、幹事としてご活躍)から夫々、総会の盛会を祝し、今後のますますの発展を祈る旨の祝電を頂戴した ⑨最後に、この総会に際して油絵数点のご寄付を頂くなど、物心両面に多大のご配慮を願った恩師岡島吉郎先生に、東京六稜会として感謝の意を表すべく、玉置新会長より感謝状及び記念品の贈呈があり、岡島先生からは、いかにも画伯らしい詩情溢れるやさしい答辞があって、総会は終わった。

記念総会ということもあって、日本工業倶楽部の講堂での総会であったが、懇親祝賀パーティは席を移しての3階宴会場で行われた。なにせ350人という参加者のため、宴会場は特に立錐の余地なし。また、昨年の例に勉強した幹事は、宴会のメニューにも趣向をこらし、今年は大人数の割には十分にご馳走も回るようになった筈。アサヒビールも大奮発して、皆様にご心ゆくまで味わって頂いたと思う。

多忙のスケジュールを調整して出席いただいた森繁久弥氏の歌と楽団(特に安田伸氏も)の演奏に、シビれた会員も多数おられたのではなかろうか。とにかく、会が終わったあと、出席者から幹事のもとに届けられた“会は大成功であった。幹事のご苦勞ありがとう”というメッセージは例年になく多数あり、幹事としてホッとすると共に、成功が確認できたことを自祝した次第である。森繁さん、本当に有難うございます。

懇親会の余興として、岡島先生の油絵、手塚治虫氏の色紙1点ずつの抽せんもあり、森繁さんと昭和50年卒の年度幹事松島みどりさんによって、当せん番号の決定が行われた。

恒例の新人紹介のあと、昭和48年卒の幹事小谷氏のリードで新人にエールを送り、全員で校歌の大合唱を行って散会したのが、かれこれ9時近くになっていた。なお、出席者全員に六稜同窓会寄贈による六稜魂の手拭いが配布されたことを付記しておく。また、前田和三郎、玉置敬三、高垣仟二郎、北村誠三郎の各氏より多額のご寄付を賜ったことを報告させていただく。

## 第21回

昭和53年6月2日(1978年)

■於：日本工業倶楽部

総会報告の前に —— 高垣先輩に多くの依存をして運営されてきたのが、東京六稜会の実際の歴史である。4月8日に先輩は他界され、亡くなる寸前まで六稜同窓会のことを気にされていたという。

ここ数年、高垣さんのお手伝い役として東京六稜会のお世話をして参ったが、高垣さんは、今年の第20回東京六稜会総会が大成功に終わったことを、本当に喜んでおられた。お気持ちとしては、一つの区切りをつけて、あとを若い世代にバトンタッチしたいと思われておったようであったが、昨年より玉置さんに新会長をお願いしたいきさつもあって、なお暫くは、面倒をみてゆかねばと思い直されていた筈である。年末に、東京六稜会の幹事会が行われた際には、元気なお姿で、東大の松島嬢と仲よくコーヒーを飲みに行かれるのをみて、幹事一同、喜んでいたものである。ところが、その直後、入院された結果になったのであるが、病院に私がお見舞いに参ったのが2月15日で、「今月末には退院するが、東京六稜会の準備を頼むヨ。もし出席者が200名を割るようであったら、問題だヨ」といつものように云っておられた。毎年、総会の直前になると出欠の返事を大変に気にされ、ご自分の読みと違つと、御自ら、年度幹事に、或いはご本人に電話され、出席を要請されたものである。そういうご努力を知っているだけに、今回もし200人を割るとすれば、それは、そういう努力をしなかったことの結果だと評価するヨと云われたものと、私は理解したのである。

さて総会の出席者は約250名で、幹事としての責任はひとまず果たされたことになった。6月2日の日取りは、既に今年の総会の折に、高垣さんが工業倶楽部と取り決めておられた。これは、岡島先生の個展を東京で開くので、総会の場で全員の諸氏に大いに個展のPRをすること等、高垣さんの岡島先生に対する温かいお気持ちがあって、そういう段取りになったのである。それというのも、昨年20回記念総会の時に、皆勤賞として岡島先生の絵を贈呈する計画を立て、その旨先生にご相談されたところ、快く先生は受けて下され、剩え油絵2点を会にご寄贈下さった。そのご厚意にお報いすべく尽力されたのが、高垣さんだったのである。

①総会は玉置会長のご挨拶(高垣さんのこれ迄のご苦勞に改めて謝意を述べられ、ご冥福を祈られた)のあと

### 53・4・8 高垣仟二郎氏(東京六稜会常任幹事)逝去

\*\*\* 高垣兄と東京六稜会 根岸要(50回)

昭和32年、日本橋本町の十六銀行で亀山兄等と東京六稜会を発足させる相談の席に、松山先輩が幹事役に最適な方だと同行されたのが、高垣先輩との初対面で、開口一番「俺は千万や」と自己紹介、我々の主旨に賛同され、その後は、昨年ご本人が会誌に東京六稜会が第20回にいたる迄を回顧録として載せられたので、今更重ねて述べることもありません。その間、東京六稜会を軌道に乗せ、同窓会の目的に沿って盛り上げるために、山本会長共々回を重ねる程に熱の入れ方が加って来、山本会長ご他界後はその分まで一手に引き受け東奔西走、日本木槽木管の専務の要職にありながら時間を割いては、時には夜遅く迄打合せを行い、時には往時の江崎校長指名による応援団長を髣髴させ、ある時は大雷を落とされたことも、又、よく「先輩は我儘だ」と逆に云って互いに笑ったこともありますが、それ程会の事で接触する機会が多く、熱心に今後のあり方に意見を求められることも間々ありました。

昨年暮に突然東大病院に入院され、1月5日に連絡を受け、早速病床へ伺ったのですが、皆に心配をかけぬようと臆口令を布かれ、ご本人に気疲れがあつてはとの両面より、不本意ながら親しい人々にも連絡を差し控えましたか、呼ばれて伺つと、終始会の運営に関する事で長時間話すこととなり、呼ばれた時以外は却って行きづらくなり、早く回復していただいてそれからと、時々家の方に電話で病状をうかがう有様。

4月8日朝、電話で訃報を受け、動転しながら関係各位に連絡した次第です。お蔭で遺体が帰宅された時、森繁兄の弔花が真先に届けられておりました。告別式で令弟金三郎氏が「兄は会社の仕事以上に中学の同窓会の方に精力的だった」と、その通りだったと思います。御通夜・告別式と再度、同窓参列者によって六稜の校歌を涙と共に斉唱し、ご冥福を祈りました。

今後共、六稜会並びに東京六稜会は私利私欲の場から離れた清々しい会として益々発展させることが、高垣先輩はじめ物故諸先輩に対する何よりの手向けと存じます。合掌(『六稜会報No.11 1978・9・15』所載)

#### 高垣仟二郎氏略歴

明治45年5月21日 尾道で生まれる  
大正15年3月 大阪府立北野中学校卒業  
昭和5年3月 大阪商科大学卒業  
同年4月 日本木槽木管株式会社入社  
支配人を経て、専務取締役をながく勤めたあと  
昭和53年3月 相談役となり、同年4月8日 肝硬変のため死去

## 第22回

昭和54年6月8日(1979年)

■於：日本工業倶楽部

母校代表佐々木教頭、六稜同窓会丸野常任理事の夫々のご挨拶(丸野氏の話には、高垣さんを偲ばしめる涙を誘うものがあった) ②講演「不況とはどこの国のお話」日本マクドナルド社長 藤田田氏(57回)：約25分のご熱弁は期待以上の面白さ(?)で、終わったあとやはりよかったという声が多かった(出欠の返事のなかに、今回の[講演]企画よし、という声が相当あり、多くの会員から期待されていたものだった)藤田氏に改めて御礼申し上げたい。③懇親会はいつもの如く、朝日ビール(58回・中小路茂次同社常務)のご厚配を受けて、ふんだんに用意されたビール、その他模擬店の食べもので、腹の方にはこと欠かなかった筈。大阪から岡田喜雄氏が突然ご出席下さり、応援団の三三七拍子。或いは、大仲先輩の独唱。更に、野球部・ラグビー部の先輩の近況報告等の飛入りがあったのが、いつもと違ったことだった。新人紹介後、校歌を合唱して閉会したのは8時半。外務省の山崎官房長もご多忙の中を出席して下さいましたが、年1回の六稜会が終って、特に高垣さん亡きあと1回目の総会ということで、幹事一同、終ってホッとしたというのが本当だろう。

※総会の出欠の返信がソ連やアムステルダムから、はるばる回送されて届いたのも嬉しいことだった。同窓会の裏役として、総会通知の発送、出欠の整理等をやっていると、ご返事のなかに何か一言書かれているのを拝読することに、楽しみをおぼえるものである。また逆に、昨年までお元気で、総会にご出席になり、或いはご返信を賜っていた方のご家族から、永久に欠席するというご返信を頂くと、寂しくなってしまう。

本年の総会出欠のご返信のなかで、お亡くなりになられたことが判明した方のご氏名を次に記して、ご冥福をお祈りする次第である。

[大山利雄記] より

- |     |        |       |          |     |
|-----|--------|-------|----------|-----|
| 14回 | 明治34年卒 | 岸本 肇氏 | 51・11・25 | ご逝去 |
| 20回 | 明治40年卒 | 安川豊三氏 | 51年夏     | ご逝去 |
| 23回 | 明治43年卒 | 大山広貞氏 | 53・3・19  | ご逝去 |
| 32回 | 大正8年卒  | 大前敏一氏 | 53・3・30  | ご逝去 |
| 38回 | 大正14年卒 | 鈴木才蔵氏 | 52年11月   | ご逝去 |
| 48回 | 昭和10年卒 | 山本 正氏 | 52・6・20  | ご逝去 |
| 52回 | 昭和14年卒 | 武内峯雄氏 | 53・6・8   | ご逝去 |

年々来会者の増加をみるのは嬉しい限りで、今回も約250名の方々が集って下さった。①まず、玉置会長の任期が規約上2年ということで、今年がその時期に当るため、引き続き玉置会長にお願いすることを満場一致で決議したあと、玉置会長よりご挨拶 ②続いて久し振りに大阪からお見えになった上野淳一六稜同窓会副会長より、六稜同窓会全般についての近況報告並びに母校創立110周年記念総会への準備に進むこと等のご挨拶 ③母校の近況説明は、同窓会名誉会長泉校長からあり、東大・京大・阪大等を始めとして、大学進学のみで公立校として大変立派な実績をあげておられる旨の報告があり、一同心から喜んだ次第 ④幹事の会計報告 ⑤講演「最近の労働問題について」労働省事務次官：北川俊夫氏(55回・その後次官を勇退される)：各企業或いは各単位が対応せねばならぬ高年化社会の問題点を指摘され、経営を行う立場の者にとって甚だ有益なお話であった。⑥懇親パーティに入って、乾杯の音頭は、当日出席者中の最先輩である日野光雄氏(大正7年卒)にとって頂き、1年ぶりに健康で再会したことの喜びと、会の発展を祝す ⑦いつもながらお世話になっている朝日麦酒の中小路茂次常務(58回)と、ちょうど見えられた衆議院議員中馬弘毅氏(高7)より夫々ご挨拶 ⑧作陶家和田守弘氏(74回)——茨城県で笠間焼の創作にご精進中——を紹介。夫々、年次グループ毎の食卓で飲みながら、また味を楽しみながら懐旧の情に耽ける折、昭和15年以降、北野の体育の先生として今年まで令名高かったピント(失礼)こと平石亮三先生が退官の挨拶にわざわざ上京、来会され、マイクで皆に話されたが、さすが人気者の先生だけに誠に盛大な拍手と声援があった。⑨新入会員の紹介は松島みどり氏(高27年度幹事)が行い、造力全史君の答礼の辞に対して、先輩諸氏が拍手で激励 ⑩校歌の合唱を以て散会\*ただ、宴なれば、同窓会常任理事山本次郎氏(62回)がわざわざ大阪より見えて下さったのに、ご挨拶をして頂く機会がなく残念だった。また、北野の先生で六稜同窓会の事務局を勤めて下さっている寺井あかね先生にも、ご挨拶を頂けず残念だった。

## 第23回

昭和55年6月5日(1780年)

■於：日本工業倶楽部

出席者は昨年を更に上回り250名を少しオーバー①玉置敬三会長のご挨拶 —— 80年代の危機の時代の中にあつて、歳を召された会員も多数おられる同窓会ではあるが、先ず健康で生き抜こう。こういう場で、若い時代のことを憶い出して、活力のもととして頂きたい。②大阪からご出席の六稜同窓会常任理事代表田村博孝氏のご報告 —— 5月23日、大阪での六稜同窓会理事会で、会長に新たに朝日新聞社主・上野淳一氏のご就任になったこと。また、若い会員の方のご出席によって、会が若がり、益々発展することを期待される旨のご挨拶 ③昨年に引続きご出席の泉悌二校長の母校現状報告：学力は日本一。素晴らしい体育館は出来たが、体育の面は横這い。従来1学年10学級(1学級47名)編成のところ、今度12学級となり、定員が94名増になったため、春の入試時に開校以来の珍事が出来て、受験者全員が合格と決った旨のお話は、新聞報道のない東京地区の同窓にとっては大変なBIG NEWSのようだった。④講演「日本人の国際感覚」毎日新聞編集委員 徳岡孝夫氏(60回)：日常会話の便などより真に大切なのは、異なる考えの人々の認識であり、同時に我の認識である ⑤森田穰二氏(常任幹事・58回)の司会で懇親パーティが進められ、大谷滉志郎氏(39回・北野中学旧師)の元気あるユーモラスなご挨拶を含めた乾杯の音頭で宴会が始まる。毎年朝日麦酒のご配慮(同社専務・中小路茂次氏)によってビールもふんだんに頂くことが出来、感謝の至りである。宴なかば、衆議院議員松本善明氏(57回)からのご祝電が披露された。⑥新入会員(21名)の紹介、1年先輩の造力全史君(東大)の激励の辞、それに対する神吉伸幸君(一橋大)の答辞のあと、出席者一同の応援歌と拍手(指揮は49回中村典美氏)で、彼らの前途を祝福する。⑦多くの余韻を残しながら、森田氏のリードで校歌を合唱して会を閉じたのは、8時すぎであった。

## 第24回

昭和56年6月5日(1981年)

■於：日本工業倶楽部

出席者220名。大阪より、名誉会長泉校長と溝脇先生が、同窓会を代表して鴻池副会長がご出席下さつ

た。①規約にもとづき玉置東京六稜会長に引続き会長をお願いすることを、総会で決議 ②講演「スポーツよもやま話」産経スポーツ新聞社会長東川一郎氏(49回)：一線を退かれて10年ということだが、スポーツ紙の誕生から今日の発展までの30分余りのお話は興味尽きないものだった。例えばスポーツ紙の誕生は昭和21年で、戦後すぐのスポーツといえば米軍管理下の早慶戦(神宮球場)とプロ野球の東西戦であつて、青バットの天下や藤村、別所等が活躍したこと。その頃のスポーツ紙は現在の半分の大きさだったが、内容はいまと何ら遜色がない。また、日刊のスポーツ紙というのは日本にだけしかなく、これは日本人特有の芸のこまかさがなければ作れないからだと思う。更に大鵬の引退にまつわるスクープの話では、他社の記者たちが皆引退は時間の問題、と名古屋から打電した時に、産経スポーツの記者ひとり、大鵬から本音を打ち明けられて、大鵬は引退せずというスクープをとることが出来た。その記者は力士の力を見抜くのがうまく、将来ものになると思う力士に対しては手厚く面倒を見てきたものだが、力士というのは下積み時代に受けた恩は忘れないので、大鵬もその記者にだけ打ち明けたのに違いない。これは、平生の人とのつながりが大切だということを痛感した出来事であつた。など、楽しくて中身の濃い講演のあと ③7時から懇親パーティに移り、まず、今回出席された方の中での最長老であられる日野光雄氏に音頭をとっていただいて乾杯が行われた。皆さん久し振りに顔を合わされた方が多いとみえて、あちこちに歓談の輪が出来、いかにもなごやかな雰囲気だった。会が盛り上ってきたところで、衆議院議員中馬弘毅氏のご挨拶、新人諸君(今春の大学入学者)の自己紹介があり、最後に、出席者全員で校歌と応援歌を歌って、盛会のうちに今回の幕は閉じられた。

[幹事 大島正行(86回)記]より

## 第25回

昭和57年6月3日(1982年)

■於：日本工業倶楽部

定刻の6時には総会場はほぼ満席となる。約230名。①大山代表幹事(56回)の司会で開会し、まず玉置会長のご挨拶 —— 母校馬淵先生(88回)、六稜同窓会副会長鴻池氏(43回)のご紹介と両氏へのお礼の言葉、そして若い人の入会歓迎の提案と、我々も老化をぶっ飛ばそう、そのためにも今宵は大いに楽しもう。

②鴻池氏のご挨拶とご報告は、本会が地元より熱心なのに感嘆しているというお話のあと、大阪では来年の110周年記念の行事を計画し、名簿の発行準備を進めていること。更に、六稜会で一番古い石津先輩(18回)が昨年亡くなられ、ご冥福をお祈りする。他に旧校舎の思い出話など。③急な予定変更(泉校長が急用のため欠席されて、ご挨拶ができなくなった)で、森繁久弥氏(45回)のご挨拶。その前に、25回ということで懇親会での福引を目論見、景品として森繁久弥氏の色紙と『屋根上のヴァイオリン弾き』の切符10枚を予定しているとの報告があり、あわせて森繁氏への御礼が述べられた。——昔は記者に、俺はあの名門北野の出身だと云っても全く信用してくれなかった。で笑わせ、北野時代、10銭のパンが昼食、白いゲートルの厳しい教官には皆でバカヘイというあだ名をつけた等の思い出から、最近の風潮を嘆かれる一幕も。“自分たちの頃は、先生や親父を殴るような奴はいなかった”と。最後に、この歳で飛んだり跳ねたりする屋根上の舞台は大変な労力……だから福引で券が当たったなら、是非見に来てほしい。④講演「弁護士からみたフランスビジネス事情」古木睦美氏(75回)：仏法曹界の摩擦事情および日本企業の仏への進出などの際に生じるビジネスローの事例紹介と、実務者ならではの生きた話の数々。⑤懇親会は常任幹事福井澄男氏(55回)の司会で始まり、乾杯の音頭は出席者中最長老の三木元三郎氏(27回)賑やかな談笑の頃合いを待って、福引きとなる。幸運の番号が読み上げられる度に場内騒然。福引の興奮がおさまったところで、国会議員松本善明氏(57回)、朝日麦酒・中小路茂次氏(58回)等の挨拶。⑥新人会員の紹介(92回住山真一郎氏の司会で)に続き、応援歌の合唱と手拍子 リーダーは応援団OBの若手会員だったが、元応援団長・中村典美氏(49回)も飛び入りでその仲間に。最高潮のうちに校歌の大合唱で閉会となる。

[幹事 黒岩暎一(75回)記]より

## 第26回

昭和58年6月3日(1983年)  
■於：日本工業倶楽部

出席者約240名

常任幹事大山氏の司会で定刻午後6時に開始され、①玉置会長のご挨拶と、母校よりの方々(村田校長、65回溝脇先生、78回高岡先生)のご紹介など ②村

田義人六稜同窓会名誉会長ご挨拶 ③大山氏の幹事報告 —— 110周年記念総会(11月23日ホリディン南海)の案内、来年の東京六稜会総会(6月1日開催予定)の案内、今回より総会費6千円にさせて頂いたが、ご了承をお願いしたい、に加えて会計報告があり、満場の拍手で承認された。④講演「最近のアメリカ事情あれこれ」外務省北米局長北村汎氏(59回)：日米は経済・食料・安全など全ての面で密接な関係にあることを実例をあげて詳しく述べられ、その厳しさ、重要性を認識してある程度の譲歩をし、全体として得を取る。そういう関係が日米関係だ、と結ばれた。⑤懇親パーティは、福井澄男氏(55回)の司会で、まず当日の最長老三木元三郎氏(27回)が乾杯の音頭、86歳と思えぬお元気で。各テーブルの周りに談笑渦巻くなか、例年ビールの寄贈を頂いている朝日麦酒の中小路茂次専務のご挨拶があり、続いて祝電の披露となった。上野淳一六稜会会長(41回)松本善明氏(57回)亀山仁郎氏(47回、岐阜在住、本会創立者のおひとり)等からである。⑥昨年入会した安田達央君による新人会員(30人)の紹介のあと、彼らを代表して中村仁美さんが挨拶、“今日、この会に出て初めて北野の有難さが分かりました”に大きな拍手。お開き近く、かつてラグビー天中戦での応援団長であられた中村典美氏(49回)の音頭で、校歌と応援歌の大合唱。“フレーフレー北野”の大エールを潮に、名残りを惜しみながらのお開きとなった。 [幹事 黒岩暎一(75回)記]より

## 第27回

昭和59年6月1日(1984年)  
■於：日本工業倶楽部

出席者約220名。大山常任幹事の司会で定刻(午後6時)に総会が始まり、①玉置会長のご挨拶 —— 昨年の母校創立110周年記念総会で、東京代表として述べられた祝辞の内容の一部を紹介された。“北野の名前は我々の心のより所であり、ふるさとである。阪神のよき地にある北野が永遠に不滅であることを望む” ②村田義人六稜会名誉会長のご挨拶と、110周年記念行事のご報告、母校の近況報告 ③大山常任幹事の報告 —— 今回は、昨年発行された六稜会会員名簿にもとづき、2500余名に案内を発送して、220名の会員が本日出席予定であり、内30名が新入会員。④講演「健康ニーズのシステム化」(株)システムニューライフ代表取締役菊池三郎氏(56回)：日本の行き過ぎた



健康食品ブームを指摘されたあと、1億人全てに効く健康食品はあり得ない。そもそも、健康ニーズは個人により違うものだから。⑤懇親パーティは今回も福井澄男氏(55回)の司会、最長老三木元三郎氏(27回)の乾杯の音頭で始まった。なお、三木氏は総会に毎年出席されているということで、今回、東京六稜会より記念として、六稜マーク入りのベストが贈られた。大山常任幹事より手渡されると、87歳とは思えぬお元気な三木氏に、万雷の拍手が湧いた。その後は各テーブルを囲み、ビールや食べ物をつまみながら談笑の時を過ごすうち、司会者から祝電(松本善明氏・57回、中馬弘毅氏・67回、いずれも衆議院議員より)の披露があった。続いて、毎年ビールの寄贈を頂いている朝日麦酒の中小路茂次専務(58回)のご挨拶。⑤中村仁美嬢(95回)による新人会員の紹介と、彼らを代表して村井正親君(東大)の挨拶。お開きの時刻も近づいて、中村典美氏(49回)の音頭のもとに恒例の校歌と応援歌の大合唱となり、“フレーフレー北野”の大エールの響きを残しながら、夫々帰途についた。

[幹事 藤村吉男(84回)記]より

## 第28回 昭和60年6月7日(1985年) ■於：日本工業倶楽部

出席者200余名

①冒頭、会則により任期満了となる玉置会長に、会長を引き続きお願いすることを、満場一致の拍手のもとに承認頂き、挨拶を願う——世の中の景気は沈滞しているが、早く雲の中から光が出るようになってほしい。しかし、今日はゆっくりと同窓会を楽しんで頂きたい。②大阪から見えられた新校長の松下先生のご挨拶と母校の近況報告 ③やはり大阪からご上京の阪田先生と、同窓会常任理事山本次郎氏(62回)のご紹介。次いで、会計報告 ④講演「仏教と日本人」国立気象大学教授 増原良彦氏(67回・仏教関係の筆名ひろさちや)：キリスト教と仏教の違いをお話し下さって、絶対というものは無い、相対的なものであるというのが仏教の教えであり、これが即ち空であり縁起であると説かれた。講演は30分。ピッタリと講演を終えられる手際よさ。内容も勿論充実したものであった。⑤懇親会は、福井澄男幹事(55回)の司会で7時より始まる。乾杯の音頭は日野光雄先輩(31回・大正7年ご卒業)で、若い者を凌ぐお元気で音吐朗々という感

じ。六稜同窓会会長上野淳一氏がお見え下さり、大阪中津の済生会病院前に北野の旧校舎記念碑が建てられ、盛大にそのセレモニーが行われたことのご挨拶があった。次いで、中馬弘毅代議士(67回)のご挨拶、松本善明代議士(57回)の祝電披露、いつもご配慮を賜っているアサヒビールの中小路茂次氏(58回)にご登壇を願う。⑥時間の経つのが早く、あっという間に新会員を紹介する時間になってしまう。今年の新人紹介は、昨年新会員を代表して答辞を述べた村井正親君(東大)にやってもらおう。今回の答辞は中村成己君が行った。最後に、中村典美氏(49回)の指揮によって応援歌、校歌の大合唱の下に、8時20分閉会となった。  
[常任幹事 大山利雄記]より

## 第29回 昭和61年6月5日(1986年) ■於：日本工業倶楽部

出席187名で昨年よりやや減少したが盛況だった。

①玉置会長ご挨拶——その昔(?)芦屋から北野中学へ通った当時の思い出や、阪神タイガースの熱烈なファンである旨のユーモラスなお話 ②大阪よりみえた阪田先生の母校近況報告 ③所用のため6時15分に退席される松本善明議員(57回)の簡単なご挨拶 ④たまたまご帰国中で出席して下さった在中華人民共和国特命全権大使 中江要介氏(53回)に、短い時間で申し訳なかったが、中国についての大使の所感を述べて頂いた——日本では、水に流してとか小異を捨てて大同につくと云うが、そのようなことの意味がなされない中国との関係の難しさを、一例として話された。⑤幹事報告 ⑥講演「暴れん坊将軍 吉宗の反面」関西大学教授 大庭脩氏(57回・『江戸時代における中国文化受容の研究』に対して学士院賞が贈られることが3月に決って、今日(5日)東京六稜会での講演にわざわざ上京され、一旦大阪に帰られたあと、9日に天皇陛下より受賞の栄を担われた)——江戸時代、いちばん本を買ったのは吉宗将軍であったとか、象を輸入して、長崎から京都まで曳きつれて来、御所で天皇に見てもらうため、位を貰って御所に入ったとか、新知識と面白いお話に魅了された30分であった。⑦懇親会は福井澄男幹事(55回)の司会で7時に開始。乾杯の音頭は三宅利雄氏(大正15年ご卒業)。大阪よりお見え下さった上野淳一六稜同窓会会長のご挨拶。約1時間、会員同士の懇談がなされたあと、中村成己君(東大)に

よる新会員(20人)の紹介。新会員を代表しての答辞は土井純二君。最後に、中村典美氏(49回)の指揮により校歌・応援歌を合唱して、8時20分閉会となった。  
\*付記 今年、常任幹事である小生が多忙を極めていたため、十分な準備が出来ず、受付等のボランティア活動も、ぶっつけ本番でやらざるを得なかった。にも拘らず、年度幹事の有志の方の心からなるご協力とご奉仕によって、無事に終わったことを心から御礼申し上げます。  
【常任幹事 大山利雄記】より

#### <編集後記>

- 東京六稜会第30回の総会を迎えるにあたって、その準備のための幹事会を開いた節、30年の歴史をまとめておく必要があるという意見が、若い世代の幹事さん方から出ました。30年という、短いようでもあり、また長くもあります。東京六稜会設立当初の資料が残っていないので、編集には苦勞されたことと思いますが、63回生の上田弘子さんのご努力で、この小冊子が出来上がりました。上田さんに御礼を申し上げます。今後いずれの時期にか、30回総会以降の歴史が、まとめられ、東京六稜会の50年の歴史或いは、100年の歴史が語り継ぎ、受け継がれていけば、大変有難いことだと思います。
- この30年間、同窓の有志の方々のボランティア活動で、東京六稜会は運営、維持されて来ました。併せて会員各位のご協力によって、東京六稜会も立派に育って来たと思います。終戦時に北野を卒業された方々の年齢は、還暦を迎えられる頃です。終戦以前に卒業された方々を主として運営されて来た東京六稜会もぼつぼつ、北野高校卒の諸氏、諸姉に運営を委ねる時期に来たように思います。
- それはそれとして、紙面の都合で御氏名を掲載することが出来ませんが、設立以来、東京六稜会運営に奉仕して下さいました皆様、またお世話になったアサヒビール、日本工業倶楽部の関係者に御礼を申し上げ、併せて、東京六稜会が、末永く発展することを祈って、この冊子の後記と致します。

(大山利雄記)

東京六稜会 昭和62年6月5日発行  
制作・編集 上田弘子(63回生)  
代表幹事 大山利雄(56回生)  
印刷 白洋印刷(株)

## 第30回 昭和62年6月5日(1987年) ■於：日本工業倶楽部

東京六稜会第30回記念総会盛會裡に終る

新会長に河崎晃夫氏(49回)

東京六稜会幹事 藤田勝彦(90回)

東京六稜会第30回記念総会が恒例の如く日本工業

倶楽部にて6月5日(金)午後6時より盛大に開催された。30回の記念総会であるから、通常総会とは違ったアクセントをつけた総会にしようと、幹事諸氏が、準備段階でいろいろとアイデアを出し合った。東京六稜会も30年の歴史を経たのであるから、この際、設立以来の事情を纏めておこうということで、63回年度幹事上田弘子さんをお願いして、東京六稜会30年のあゆみ、なる小冊子を編集、発行した。設立当初の資料が残っていないので、上田さんには苦勞をおかけしたが、立派な小冊子が出来上り、これを受付で来会者にお渡しした。

また今回は、ご高齢の来会者には記念品を贈呈致すこととして、第40回卒業生及びそれ以前の卒業された方を対象とさせて頂いたところ、六名の方が見えられ、夫々、記念品をお持ち帰り頂いた。

総会に入り、先ず大山代表幹事より、かねて玉置会長より東京六稜会会長を後進の方に譲りたきご意向を伺っておりましたが、30回という機会に是非実現したいという強いご要望で、今回、49回の河崎晃夫氏(三菱レイヨン社長)にバトンタッチされることになりました。多くの先輩方とご相談の上、5月27日の幹事会で全員一致で互選させて頂いたので、本総会でご承認をお願い致し度、旨の発言があり、全員賛成の拍手の下に、河崎氏が東京六稜会の会長に、玉置氏は会則3条による東京六稜会の顧問に御就任頂いた。

玉置前会長より、20回総会以来会長としての10年間の速き年月、の思い出を語られ、新会長河崎氏よりは、伝統のある北野の東京の同窓会長として、先輩も多数おられるけれど、盡力致し度き、旨のご挨拶があった。

10年間、会長として東京六稜会の面倒を見てこられた玉置氏に感謝の記念品を贈呈致すところであるが、玉置氏は固辞されたので、幹事会では、併せて30回を記念して、東京六稜会より母校に記念品を送ることを決め、玉置前会長より松下校長に、トレーニング機器の目録を贈呈された。

ついで松下校長より、御礼の御挨拶と母校の近況報告をして頂いた。1学年14学級で全校生徒1823名のマンモス学校となっていること、体育活動として、ラグビー部が春の大会で6試合全勝優勝を遂げたこと等を述べられた。冬の全国大会に出場出来て、健闘している様子をテレビで見たいものである。

大山代表幹事は、決算報告のあと、常任幹事交替

## 第31回

昭和63年6月2日(1988年)

■於：日本工業倶楽部

の件を報告された。現在44回生から61回生の方々に常任幹事をして頂いている。今年は30周年という節目であるので東京六稜会もこの機に若返りを計って、63回以降の方々、つまり全員北野高校卒の方々に常任幹事をお願いすることを幹事会で決めたことの報告。そして、新常任幹事として、63回の岩木俊氏、龍居道子さん、67回の檜川哲次氏、68回の加藤周子さん、69回の大谷昌平氏が選ばれたことが発表された。

又、来年からは、東京六稜会総会の世話役を当番制とし、第31回総会は、69回生を中心に進めていくことになった旨を説明された。

以上で総会の議事を終え、記念講演にうつった。今回は(株)日建設計の取締役東京第二事務所長の平井堯氏(67回)にお願いした。東京再開発を東京ルネッサンスとして、陸・海・空の三方面から考察された東京再構造論で、興味あるお話であった。再開発といっても、杓子ばったやり方で無理やりビルを建てるのではなく、守るべき箇所は守り、開発すべきところは開発する。そして文化のある魅力ある都市にするというのが、私の考える「東京ルネッサンス」であるというお話であった。

懇親パーティは、福井澄男常任幹事(55回)の司会で、大柰一郎氏(40回)の乾杯の音頭で始まった。東京六稜会生みの親のお一人である亀山仁郎氏(47回)が、わざわざ岐阜市から駆けつけて下さり、お祝辞と東京六稜会設立当時の苦勞話をして頂いた。アサヒビールの中小路茂次前専務(58回)の御好意で、いつもより、アルコール類も多く、賑やかに会は進行、宴もたけなわとなり、土井純二君(97回)による新会員28人の紹介があり、新会員を代表して宿里明弘君の「北野を誇りにしています」という若々しい挨拶があった。

更に30周年ということで、余興として福引を行なった。賑やかな談笑の中、幸運の番号が呼び上げられる度に場内は盛り上がった。

小菅宇八郎氏(53回)、檜川哲次氏(67回)両氏から寄贈された賞品や、準備された賞品、計20点が市野優子さん(95回)から当選者に手渡された。

お開きも近くなり、元応援団長中村典美氏(49回)の音頭で応援歌と校歌の大合唱となり、その後、来年の世話役である69回の方々の紹介があり、最後に大山代表幹事の手締めによって第30回総会は最高潮の中に閉会となったのである。因みに、今回の来会者は260名であった。

東京六稜会第31回総会は恒例のごとく日本工業倶楽部において6月2日(木)午後6時より開催されました。

あいにくの雨の中、それでも250名を越す来席を得、まず常任幹事代表の岩木俊氏(63回)の司会で総会が始められました。昨年、玉置前会長より引継いだ河崎晃夫会長のご挨拶、藤枝校長よりの母校近況報告、檜川常任幹事の会計報告などにつづき、今回の記念講演は、東京大学医学部整形外科教授 黒川高秀氏(69回)によって行なわれました。



広い年代層に渉る六稜会にふさわしいテーマを、ということで、「腰痛の見分け方」と題したこの講演、人間だけでなく、牛や馬など動物にもあるという腰痛の種類や原因、症状への対応など、スライド映写という視覚的なわかりやすさと、そのユーモラスな語り口が、聴講された方々にも大変好評とお見受けしました。

懇親パーティは東京六稜会としては始めてという、女性司会者、石垣(杲田)具子さん(69回)の進行で行なわれました。というのは、総会の企画等を年度別の当番制で行なうことになり、69回生としては、トップバッターの印象度をより強めるための企画の一環であったわけです。そしてもうひとつ、昨年度の全国大会への出場を果たした母校ラグビー部の活躍ぶりを東京にも伝えようと、会場壁面に、「北野花園出場!」と一面に報じたスポーツ紙をパネルして飾り、コーナーにはTVモニターを設置し、ラグビー部の奮闘を伝えたVTRを放映するなど懇親パーティを盛り上げるための様々な催しを取り入れられていました。そして圧巻は、所用のためご来席いただけなかったラグビー部自見監督(70回)にかわり上京された同期で元応援団長の大谷健二氏の熱気あふれる観戦報告でした。

北野、いや大阪あげての数々のフィーバーぶりを聞くたびに会場は爆笑と拍手、拍手。

川島武宣氏(39回)の乾杯の音頭で会は賑やかに進行、宿里明弘君による新会員の紹介、眼目大一君の

挨拶なども例年の通りなごやかな雰囲気の中で行われ、最後に校歌の大合唱と来年の世話役にあたられる70回の諸氏の紹介と御挨拶で第31回の総会の幕となりました。 第69期幹事 辻 剛

## 第32回

平成元年6月9日(1989年)

■於：日本工業倶楽部

東京六稜会第32回総会は、平成元年6月9日午後6時から、日本工業倶楽部であいにくの雨にもかかわらず200人余の方が出席され開かれました。東京六稜会は昨年度から、開催の企画を各年度幹事が順番で受持つこととなり、本年度は第70期(昭和33年卒業)が担当しました。

総会は、岩木俊さん(第63期)の総会司会で始まり、先ず会長の河崎晃夫さん(第49期)が挨拶され、次いで校長代理としてわざわざ大阪から出席された原田彰教頭から、学校の近況が報告されました。会計報告が承認された後、司会を村井恒子さん(第70期)にバトンタッチし、記念講演に入りました。本年度の講師は、第70期の門良一さんで、演題は「天上の音を求めて——モーツァルトと私——」でした。門さんのことは関西方面の方のほうがよくご存知だと思いますが、現職は京都産業大学の物理学の教授ですが、趣味の音楽好きが嵩じて、昭和45年モーツァルト室内管弦楽団を結成、以来その指揮者として活躍され、2年前には藤堂音楽賞を受賞、また昨年は、東ドイツ民主共和国文化省の招きで、楽団を引きつれて演奏旅行をし、大成功を収められている人です。講演は、門さんの音楽遍歴とモーツァルトの魅力について、時にユーモアをまじえながらの楽しいものでした。ところで、今年の総会がユニークであったのは、この講演の後に、4人の京大オーケストラOBによる生演奏が行われたことです。4人の奏者は、佐佐木佐さん(フルート、京大理学部卒、現在、東京交響楽団首席奏者)、柳生峰人さん(ヴァイオリン、京大工学部卒、キャノン勤務)、石津啓介さん(ヴィオラ、京大工学部卒、横浜市役所勤務、北野高校第91期)、森口真司さん(チェロ、京大文学部卒、東京芸術大学音楽部指揮科在学中、北野高校第95期)で、北野の卒業生2人に、部外からも2人の参加を得てのメンバー編成でした。曲目は、モーツァルトのフルート四重奏曲二番K.285。こちよい音色が会場に響きわたりました。演奏会終了後、会

場をかえて、パーティに移りました。乾杯を出席者中最長者の目黒太郎先輩(第40期)にお願いし、懇談に入りました。いつもながら、会場にあふれんばかりの人々で、移動もままならぬ程でした。約1時間ほどの懇談の後、前年度入会の眼目大一さんから、新人歓迎の辞が述べられ、新人37人の自己紹介がありました。ここで当期幹事の役割は終了し、次期幹事となる第71期生出席者が挨拶して、次期総会に向けての決意が表明されました。毎回、総会の最後をかざるのは校歌の大合唱ですが、本年度は、総会の際、生演奏をしてくれた4人の方々が残ってくださり、初の伴奏つき、門さんの指揮までついた合唱となりました。一度一番から五番まで歌いましたが、それでは終わらず、アンコール、アンコールを重ねるといふ盛り上がりを見せました。そして最後に、母校の繁栄と参会者の多幸を祈って、万才を三唱し、無事、本年度の総会を終えました。

第70期幹事 松本邦宏

## 第33回

平成2年6月8日(1990年)

■於：日本工業倶楽部

平成2年度東京六稜会総会が6月8日丸の内・工業倶楽部に於て開催された。毎年この時期は梅雨入りも近く天候には恵まれないことが多く、幹事は天を仰いで出席人数を心配するのが常であったが、今年は珍しく快晴に恵まれ出足も上々であった。

総会司会63期岩木俊氏の開会の辞で幕を開け、東京六稜会河崎晃夫会長、六稜会名誉会長藤枝榮母校校長の挨拶に続き71期黒沢清治君(国際花と緑の博覧会協会広報報道部長)が「国際花と緑の博覧会」— 関西の新しい潮流を読む — と題してスライドを交えながら博覧会会場の模様を詳しく紹介され、時機を得た講演で興味深く聞かせていただいた。

続いてのパーティは今年度当番の71期勝村義和君の司会で和やかに開かれ、恒例の新人紹介の後、花博リトグラフポスター・航空券・ホテル宿泊券・バイオ缶詰(花・トマト)の抽選会が行われ好評を博した。商品の提供者、花博協・黒沢清治君、全日空・鈴木八郎君、住友林業・小林紀之君(71期)には改めて御礼を申し上げます。

最後に72期西野敏克君が来年度当番の抱負を述べられ、校歌斉唱で暮を閉じた。

第71期幹事 酒井 昭

## 第34回

平成3年6月7日(1991年)

■於：日本工業倶楽部

平成3年度東京六稜会総会が6月7日、丸の内、工業倶楽部に於て開催された。

総合司会63期岩木俊氏の開会の辞で幕を開け、東京六稜会河崎晃夫会長の挨拶に続き、大阪から総会のために上京された六稜会名誉会長足立堯母校校長、72期肥塚敏彰母校教頭が挨拶された。

卓話者として、72期佐藤勝昭君(東京農工大学教授、工学博士、専攻電子情報工学)が「スケッチで綴る世界の旅」と題して、学会等でヨーロッパ、アメリカ、中国など世界各国を訪ずれた時に描いたスケッチ1000枚の中から100枚を選んでスライドで写し、旅の印象を話された。特に、スケッチと写真の違いスケッチは自分の見たいものを中心にしたズームになること、1枚のスケッチを描くために20分間凝視した風景は決して忘れないこと一を話され、佐藤君の素敵な絵心に感心しつつ、興味深く聞かせていただいた。

続いてのパーティは、今年度当番の72期西野敏克と63期岩木俊氏の司会で、和やかに開かれた。恒例の新人紹介も行われ、最後に73期竹村二郎君が来年度当番の抱負を述べ、校歌斉唱で幕を閉じた。

第72期幹事 西野敏克

## 第35回

平成4年6月12日(1992年)

■於：日本工業倶楽部

6月12日(金)日本工業倶楽部に於て開催された。

(会場の都合により昨年より第二金曜日に変更)

岩木幹事(63期)の司会で始まり、河崎東京六稜会会長(49期)の叙勲の紹介では大きな拍手がわいた。肥塚教頭(72期)より母校の報告を聞き「北野健在なり!」を喜んだ後、奥村康日本免疫学会会長(73期)の老化ガン・エイズをテーマにした講演では、パーティ会場での講師のもてかたを見ると、皆さん相当興味を持たれたのではないかと。

懇親会では各テーブル間の交流も活発に行われていたから総会の持つ縦のつながりの意義も充分達せられたと思う。

盛り上がった後、福引(73期景品提供)、新入会員20数名が紹介され、次期学年幹事74期代表深山氏に引継がれた。

最後に40期~104期迄が肩を組んで元気に校歌、応援歌を歌い最高潮の内に解散。

余韻醒めやらぬ中、二次会に向われた方が多かった。

校歌は良かったが、応援歌は二つとも歌った事が無いという若い人が多かった。若い人も全員入れ、北野を謳歌できる学生歌、応援歌、逍遙歌等を是非制定してほしい。

最後に協力いただいた73期生、特に女性陣にお礼を申し上げます。

第73期幹事 竹村(泉)二郎

## 第36回

平成5年6月11日(1993年)

■於：日本工業倶楽部

平成5年度東京六稜会総会が、38期~105期の会員165名が参加して、6月の第2金曜日、11日午後6時から丸の内の日本工業倶楽部で開催された。

総合司会63期岩木俊氏の開会の辞で幕を開け、東京六稜会河崎晃夫会長、六稜同窓会名誉会長足立堯母校校長、同常任理事67期神宅寿昭氏の挨拶に続き、74期和太守卑良(わだもりひろ)君(陶芸家)が「時代劇の中の陶器たち」と題して、染織品の藍染からの連想でその名が付いた染付(そめつけ)を中国では青華と呼び、元の時代に世界の最先端技術として始められたこと、わが国における磁器の制作は文禄慶長の役の後、朝鮮からの帰化人李参平が有田で初めて成功したこと、染付の中で祥瑞(しょうずい)と呼ばれるものは16世紀、日本風にデザインして中国の景德鎮で焼かせたらしく、現代の貿易形態をも連想させること、加賀の九谷焼と有田焼との間には当時の産業スパイの攻防戦が推測されることなど黒板を使って熱のこもった講演をされ、興味深く聞かせていただいた。

続いてのパーティでは、陶芸写真集「陶・和太守卑良」、カメラバッグ、手造りロースハム等の抽選会が74期深山欣秀君、田中保子君、大橋由利恵君の進行で行われ好評を博した。賞品を提供された方々に改めて御礼申し上げます。宴は、58期森田穰二氏の音頭による校歌、49期中村典美氏による応援歌、18名の新人(大学新入生)紹介と最高潮のうちに幕を閉じた。

第74期幹事 飯田 裕

## 第37回

平成6年6月2日(1994年)

■於：日本工業倶楽部

春は曙。風薫る平成6年6月2日、東京六稜会(会長河崎晃夫・49期)第37回総会が、日本工業倶楽部にて催されました。

会の運営は、今年50才の誕生日を迎える昭和38年卒業の75期一同がその任に当りました。又、総会に先立つ講演会演者も幹事期の誰かがそれを務めることになっております。

当日参会者総数は155名(一般133名、学生18名)ご来賓として下記4名の方にご上京賜りました。

母校校長 山崎浩和先生

母校教員 鎌田俊一先生

同窓会事務局長 新原知廣(72期)

同窓会事務局 鴨脚 佐(74期)

会は総合司会を岩木俊氏(63期)、進行係を中村大二郎氏(75期)のもと行なわれました。

PM6:00よりの講演は、大阪信愛女学院短期大学教授児童心理学者馬場桂一郎氏(75期)により「子供の心」と題した講演が行なわれました。子育て真っ盛りの方は勿論、とっくに終えた女性聴衆(こちらの方が多かったかな?)にも興味津々の話題を、硬軟まじえての熱弁で、年度幹事が意図した「講師の魅力でOGの多数参加を!!」との目論みを十二分に果たしていただきました。

アサヒ・スーパードライご寄贈で7時よりのパーティも盛り上り、時代を越えた交歓の輪が繰り広げられました。

終りに近く恒例の抽選会では北野の誇り、佐伯祐三の額付複製画やTシャツ等、幹事が苦心して収集した品々が当選者に手渡され、失意と歓喜の渦に会場は包まれました。

フィナーレでは、竹井泰二様(59期)のリードで校歌放吟し、同窓会ご惠贈の母校手ぬぐいを手に来年の再会を約した次第です。

付け加えて一言……………

本年幹事学年(昭和35年入学)が母校入学の年は60年安保の年で、学内外騒然の世に、自から政治を語るにはまだ少し幼な過ぎ、卒業(昭和38年)の時代は、ビートルズには時間差有り……………という何となくエアポケットに入り込んだような北野の3年間だったように思えます。

何しろこの世に現われたのが昭和19年4月~20年3月の間で、戦中と云えど戦争は知らず、まして戦後でもない中途半端な時代なのでありますから。

男子300人、女子150人の構成にも係はらず、女性上位の状況は高校時代のみならず、今だにその残滓を引きずり続ける学年であったとの感概は私一人が持つ心持ちではなさそうです。(博本先生も田上先生もいっお逢いしてもそうおっしゃっておられました。)

因みに本37回東京六稜会への75期参会者はおおむね女性2に対し男性1の割合で、ひ弱ではないが優しさ一杯の男子と、したたかさとは一味違う力強さを維持し続ける女子との融和により会を無事終える事が出来ました。

第75期幹事 簗島紘一

## 第38回

平成7年6月7日(1995年)

■於：日本工業倶楽部

東京六稜会第38回総会が緑濃き6月7日(水)午後6時より丸の内の日本工業倶楽部で開催されました。当日の参加者は181名。岩木俊氏(63期)の総合司会で幕を開け、東京六稜会河崎晃夫会長の挨拶に続き六稜同窓会名誉会長山崎浩和校長先生より母校の近況報告がありました。進行中の校舎建て替え計画のお話もありました。引き続いて76期上野昭彦氏(東京工業大学生命理工学部教授)より講演がありました。「超分子」という普段聞きなれない物質が、日常生活の場で夢の添加剤として大いに活躍していることを興味深く聴くことができました。7時よりのパーティでは時の過ぎるのも忘れ、年代をこえた交流の輪が広がりました。また、恒例の抽選会が行われ、昨年に引き続いて佐伯祐三をはじめとする額付複製画やいろいろな景品が当選者に手渡され好評を博しました。賞品提供者には改めて感謝いたします。校歌、応援歌合唱と続き、会は最高潮のうちに幕を閉じました。最後に協力いただいた76期生、特に多大な労力を提供された女性陣にお礼申し上げます。

第76期幹事 伊藤要一

## 第39回

平成8年6月6日(1996年)

■於：日本工業倶楽部

東京六稜会第39回総会が6月6日(木)午後6時より丸の内の日本工業倶楽部で開催されました。当日の参加者は例年より少し少ない156名。岩木俊氏(63期)

の総合司会で幕を開け、東京六稜会河崎晃夫会長の挨拶に続き六稜同窓会名誉会長山崎浩和校長先生より母校の近況報告がありました。校舎の建て替え計画も実現に向けて進行中とのことでした。120周年のビデオの上映に引き続いて、77期山本まゆみさん(エコロジーヘルスラボ代表取締役)より講演がありました。女性だけで会社を設立したいきさつや事業内容、会社での女性の活かし方等の内容でした。7時からのパーティでは年代を超えた交流の輪が広がりました。また、恒例の抽選会が行われ、一昨年から引き続いて佐伯祐三をはじめとする額付複製画や今年の目玉であるシンガポール往復航空券、岡村隆久画伯の絵等々の景品が全員に当たり好評を博しました。賞品提供者にはここで改めて感謝いたします。校歌斉唱で会は最高潮の内に幕を閉じました。最後にご協力いただいた77期生、特に女性陣に感謝いたします。

第77期幹事 前川清行

## 第40回

平成9年6月5日(1997年)  
■於：日本工業倶楽部

例年6月第1週木曜日に開催の東京六稜会総会は、本年も6月5日(木)午後6時より、東京丸の内の日本工業倶楽部にて盛大に開催された(出席者138名)。

総会はまず河崎晃夫会長の挨拶で始まった。河崎会長より会長を辞任し後任として大山利雄氏(56期)を推挙するとの申し出があり、総会で了承された。常任幹事より会計報告の後、秋田典昭校長より北野高校の現況、即ち校舎改築スケジュール・部活動・大学入学者・国際交流等について報告があった。続いて山崎浩和前校長が校舎改築に至るまでの経緯説明と退任の挨拶、六稜同窓会の菅正徳常任理事(69期)が同窓会館建設および六稜同窓会のホームページ開設についての説明を行なった。

当番期より講演者を選ぶという前例にならって、本年は78期の西本豊広氏(国立歴史民俗博物館助教授)が「イヌとネコと日本人」と題し、縄文時代から現代までのようにつきあってきたかを動物考古学の立場から講演した。

講演終了後、3階パーティ会場に移り、中馬弘毅氏(67期)の乾杯の音頭でパーティが始まった。懇談、78期によるアトラクション(景品の抽選…なお抽選は秋田校長にお願いした)の後、新会員(3名)の挨拶、次

期総会の当番期の79期の挨拶があった。校歌斉唱は例年の元応援団員のリードとは異なり、新会員の岡田早代子さん(109期、東京芸大・声楽)のリードで、当番期78期生も全員が前に出て歌った。岡田さんの美声の際だった校歌斉唱であった。最後に丸山裕子78期東京同期会会長より閉会の挨拶があり、8時40分、盛会の内に終わった。

【追記】総会の準備、司会をされた常任幹事の岩木俊(63期)、名簿の準備、会計をされた黒岩(75期)・清水(75期)・藤田(90期)の各氏、また景品を提供してくださった同期生、並びに諸先輩に厚く御礼申し上げます。  
第78期幹事 坂本徹夫

## 第41回

平成10年6月4日(1998年)  
■於：於日本工業倶楽部

1998年6月4日。丸の内の日本工業倶楽部において、200人におよぶ出席のもと開催された。第一部の総会は大山利雄会長(56期)の開会の辞で始まり、次に秋田典昭北野高等学校校長が挨拶。校舎改築の現況や他校の追従を許さない北野同窓生の文化活動の紹介、ケントウッド高校との国際交流の報告があった。続いて岸田知子常任理事(78期)が同窓会館を六稜文化の発信基地とすべく会館機能検討委員会が発足したこと、六稜ホームページは質・量ともに内外に誇れるものであり、各世代の会員の自発的参加により運営されていること、同窓会活動の変革が進みつつあることを述べ、最後に男女共学となって半世紀、もはや女性のない同窓会は成立しないと締めくくった。

第二部は村井章介東京大学教授(79期)による「足利尊氏一激動の時代を生きた政治家」と題する講演。かつて足利尊氏を逆賊とする歴史教育があったが、村井さんは、あまり政治家向きの人格ではなかった尊氏がなぜ政治の渦の中心となったかを軸に、尊氏の人物像を平易な言葉で語った。

第三部の懇親パーティは当番期の79期が演出。目玉は新進気鋭のヴァイオリニスト高木和弘さん(103期)の演奏。イザイ「無伴奏ヴァイオリンソナタ第2番」とエルンスト「“庭の千草”による変奏曲」の見事な演奏を披露してくれた。この後、全員で校歌を斉唱し、総合司会の岩木俊さん(63期)の閉宴の辞でお開きとなった。

参加者の声を拾ってみると「毎年楽しみにしている。

今年も大変おもしろく勉強になった。六稜人からのビッグバンなどのなまなましい話も聞きたい」(60期代男性)。「ヴァイオリンは収穫だった。これからも魅力あるものを用意すべきだ」(80期代男性)。「はじめて総会に出てきたが、先輩の人たちに人生を語ってもらった」(109期女性)。

参加世代に偏りがあるものの、学んだ時代や社会での活動領域を異にする人たちが一堂に会する同窓会ならではの光景が見られた。パーティで初めての人に話かけ会話を楽しむことのできる若い世代のパワーが次の同窓会の柱となってゆくことを期待したい。

第79期幹事

## 第42回 平成11年6月3日(1999年) ■於：日本工業倶楽部

1999年6月3日(木)、東京丸の内の日本工業倶楽部で約190名の出席のもとに開催された。総会は大山利雄東京六稜会会長の開会の辞で始まり、秋田校長ならびに山本次郎六稜同窓会副会長が挨拶した。講演は国立天文台教授・家正則さん(80期)の「8m望遠鏡で見る宇宙」。遠くを観れば観るほど宇宙の歴史が明らかになっていくという話が印象的であったとは一参加者の声。その後の懇親会は総合司会石垣具子さん(69期)と当番期80期の進行によって進められ、来賓挨拶、新会員紹介、次回担当期の81期の紹介があり、最後に校歌斉唱、盛会裏に閉幕となった。

第80期幹事

## 第43回 平成12年6月1日(2000年) ■於：東商スカイルーム

今回は「東商スカイルーム」で開催。出席者は約170人。大阪から秋田校長(名誉会長)、稲畑会長、山本副会長、新原事務局長、菅常任理事、鎌田先生が出席した。総合司会は石垣具子さん(69期)、当番期は81期。

第一部ではまず大山利雄(56期)東京六稜会会長が挨拶し、同窓会館建設募金への協力を呼びかけた。秋田校長は新同窓会館は知識だけでなく知恵を育て、魂を育てる場にしたいと述べられた。稲畑会長は新同窓会館は幅広い分野に開かれたものにしたい。また、明治以来の古い資料の保存展示や情報発信のベース

基地の役割を果たしてゆきたい。この同窓会館建設を創立130周年記念事業として成功させ、後輩に残していきたいと述べ、絶大な支援を賜りたいと結んだ。

第二部では「宝塚よもやま話」と題した沖見陽二郎(81期)氏の講演。宝塚歌劇団専属カメラマンとしての経験からの興味深い話に会場は大いに沸いた。第三部の懇親パーティではご来賓・出席会員によるスピーチ、幹事期の企画によるアトラクション、新会員歓迎紹介、次期当番期の82期の紹介が行われた。「今までの中で一番盛り上がった。来年はもっと大きな会場が必要かもしれない」という声も。全員で肩を組んで校歌を斉唱し閉会となった。次期総会は平成13年6月1日(金)。

第81期幹事

## 第44回 平成13年6月1日(2001年) ■於：東商スカイルーム

6月1日 午後6時より皇居端の日比谷通りに面した東京商工会議所ビル8階「東商スカイルーム」にて、約180名の出席を得て開催された。

総会の第一部は大山利雄会長(56期)の開会の辞で始まり、第44回総会に先立ち東京地区の新六稜会館の募金委員会が開かれた旨も報告された。

次に、ご来賓の秋田典昭名誉会長(北野高校校長)から母校の近況についてのお話をいただいた。「昨年から大学の先生をお招きして各専門分野毎にセミナーを開いていて、今年は『知的世界への冒険』と題した講座を7つ用意した。大阪大学の講座を受講して高校の単位として認定する高大連携を始めている」など…久方振りに聞く母校の活発な活動に一同、興味深く聞き入った。

引き続き大阪よりご来賓の山本次郎六稜同窓会副会長(62期)から活発な新六稜会館募金活動のご報告があり、一段の協力を要請された。

第二部は、木村良樹さん(82期)による『知事の日々』と題するご講演。ご自身がおもいがけず和歌山県知事になられるまでのお話、知事になられてからの苦労話など日々の様子を気さくにお話いただいた。また今回の上京で扇千景大臣などの関係閣僚と対話されたお話を披露され、生々しい興味あることなので皆引き込まれて聞き入った。

第三部の懇親パーティに移る前に新六稜会館設計者の竹山聖さん(85期)より会館の概要とコンセプトに



ついてわかりやすく説明があった。懇親会場には会館模型とイメージパネルが飾られ新六稜会館への理解がより深まった。

その後は、参加者お待ちかねの懇親パーティとなり、当番期の荻原新太郎氏(82期)らの元気な司会のもとに進行した。当日の出席者の最長老で剣道八段の大柰一郎氏(40期)の乾杯の音頭で開始され、たちまちそこかしこで幾つも談笑の輪ができるいつもの賑わいの会となった。ご来賓としてご出席いただいた母校教員の岡田拓史先生、六稜WEBの『われら六稜人』にも取り上げられたテレビCMでもおなじみの日産自動車デザイン部長中村史郎氏(81期)や、映画『ろうしん(老親)』で全国的に有名になった女性映画監督・槇坪多鶴子さん(71期)の姿も見られた。

懐かしく楽しい語らいのうちにお開きの時間がせまり、恒例の新会員紹介に続き、最後は全員で校歌をたからかに歌い、次の総会での再会を楽しみとしてお開きとなった。

なお、第45回東京六稜会総会は2002年6月7日(金)午後6時より同会場(東商スカイルーム)の予定。

第82期幹事

## 第45回 平成14年6月7日(2002年) ■於：東商スカイルーム

東京六稜会の第45回総会が6月7日(金)千代田区丸の内の皇居お堀端にある東京商工会議所8F「東商スカイルーム」にて開催された。

出席者は190名にのぼり、大阪からも中垣校長(六稜同窓会名誉会長)、稲畑六稜同窓会長、山本六稜会副会長、新原事務局長、鎌田先生、福田先生ほか多数ご出席いただいた。

### 第一部総会

午後6時から第一部総会が開始された。司会は83期の小林英雄氏(在校当時応援団長)が担当した。なお、司会は今回から当番期が担当することとなった。

冒頭、事務局から13年度会計報告と東京六稜会役員改選が諮られた。黒岩事務局長(75期)から提案内容の説明があり、原案どおり承認された。

大山利雄東京六稜会会長(56期)の開会挨拶に続き、中垣芳隆北野高等学校校長(東京六稜会名誉会長)にご挨拶いただいた。中垣校長は着任の挨拶のあと、北野高校の現状を校舎改築状況と教育事情の二

面から報告。

続いて稲畑勝雄六稜同窓会会長(56期)が挨拶され、同窓会館募金へのさらなるご協力をお願いする旨述べられた。

次に、山本次郎六稜同窓会副委員長・同窓会館建設委員長(62期)からご挨拶があり、同窓会館の建設経過について詳細なご説明をいただいた。

### 第二部講演

#### 「建築の気・品」

83期吉羽(真銅)裕子さん

建築物は、技術的に・性能的に満たされればいいというわけではなく、感動をもたらすものであったり、驚きをもたらすものであったり、心地よさを求めるものでもあり、自分の住まいに洗練さを求める人もいる。商業的施設であれば目立つことも必要となってくる。こうしたことを総合したところで、「気」と「品」の2つが融合したところに建築があるという意味で、タイトルを「建築の気・品」として述べ始められ、建築と環境の関りの視点から建築物の歴史をスライドを使って説明。そのあと、吉羽さんご自身の携わった建築物の紹介を通して、これからの建築物に課せられた問題について論じられた。

第三部は懇親パーティで、当番期代表の挨拶、来賓出席会員のご挨拶があり当番期83期の主導でビンゴゲームで老若男女大いに盛り上がった。

最後は、新会員紹介、新会員代表の挨拶、次期当番期84期の紹介と続き、校歌「六稜の星」を全員で高らかに歌い上げ散会した。

第83期幹事

## 第46回 平成15年6月6日(2003年) ■於：東商スカイルーム

6月6日 千代田区丸の内の皇居お堀端にある東京商工会議所ビル8階「東商スカイルーム」にて開催された。

出席者は180名にのぼり、大阪からご来賓として母校校長・中垣芳隆先生、母校教頭・鎌田俊一先生(81期)、下村孝夫先生(81期)、六稜同窓会副会長・山本次郎氏(62期)、六稜同窓会事務局長・新原章弘氏(65期)の方々にご出席頂いた。

全体進行は当番期である84期生(昭和47年・1972年卒業)が担当した。

## 第一部 総会

午後6時から第一部総会が開始された。司会は84期の藤村吉男氏が担当した。

大山利雄・東京六稜会会長(56期)の開会挨拶に続き、中垣芳隆・北野高等学校校長にご挨拶頂いた。中垣校長からは母校近況と大学進学状況を含めた教育事情についてお話を頂いた。

続いて山本次郎・六稜会副会長にご挨拶頂き、同窓会館の建設状況のご報告と同窓会館募金のお礼を述べられた。

その後、黒岩暎一・東京六稜会事務局長(75期)から平成14年度会計報告原案が提示され、原案通り満場一致で承認された。

## 第二部 記念講演

「変貌する大学とナノテク研究」

辻 康之・北海道大学教授(84期)

司会の山崎吉朗氏(84期)より辻康之教授の北野時代が紹介され、引き続き、辻教授ご本人にご講演いただいた。

独立法人化を中心に大学教育の抱えている現状の課題と問題認識に引き続き、ご専門のナノテク(nano technology)についてお話頂いた。

ナノテクと言う難解な概念を「日本列島を1mとすると、ナノはゴマツブ」という表現と、美しいシメトリカルな分子モデルのスライドにより判り易く説明頂き大変好評であった。

## 第三部 懇親パーティ

森治久氏と和田登志子さん(ともに84期)の開会の辞で懇親パーティが始まった。

最初に当番期代表・藤村吉男氏の挨拶に続き、大阪から駆けつけて頂いたご来賓として、これまで母校での同窓会ご担当でこの4月に母校教頭へご昇格された鎌田俊一先生(81期)、その後任として同窓会ご担当になられた下村孝夫先生(81期)、六稜同窓会事務局長新原章弘(65期)、事務局員久保田静(73期)さんよりご挨拶をいただいた。

来賓ご挨拶のあとは母校の池田雅文先生(84期)の出題された北野高校クイズで会場中盛り上がった。

最後は、この4月に東京地区の大学等に入学された新会員紹介、新会員代表の挨拶、次期当番期85期の紹介と続き、元母校応援団長・早瀬隆昌(84期)の指

導の元、校歌「六稜の星」を全員で高らかに謳い上げ散会した。

次回総会は、平成16年6月3日(木)午後6時より同会場の東商スカイルームで開催の予定。

第84期幹事 中村紳一

## 第47回 平成16年6月3日(2004年) ■於：東商スカイルーム

東京六稜会第47回総会が6月3日(木)、千代田区丸の内、皇居お堀端にある東京商工会議所ビル8階「東商スカイルーム」で開催された。

出席者は150名にのぼり、大阪から、ご来賓として母校校長(六稜同窓会名誉会長)の中垣芳隆先生、加藤悦子先生(85期)、六稜同窓会会長の山本次郎氏(62期)、六稜同窓会事務局長の岡田一彦氏(65期)、総務委員長の木村市三氏(73期)、広報委員長の富田昌宏氏(78期)、そして事務局の久保田静さま(73期)にご出席いただいた。

全体進行は、当番期である85期生(昭和48年・1973年卒業)が担当した。

## 第一部 総会

午後6時、定刻どおりに第一部総会が開始された。

まず、大山利雄東京六稜会会長(56期)による開会ご挨拶および東京六稜会役員改選についてのご説明があり、新会長に志甫溥氏(66期)が推挙され承認された。新会長に就任された志甫氏のご挨拶の後、中垣芳隆北野高等学校校長に、ご祝辞と北野高校の近況について次のようなお話をいただいた。

「今、北野高校では、週5日授業に移行しており、年間の授業日数を調整するため、夏休みを今までよりも10日短縮したり、4月20日の創立記念日を登校日に変えたりして対応している。また、北野生の学力については何の心配もしていないが、「大人になりたくない」と思う生徒が6割近くいる現状に鑑み、生徒達にとって身近な大人であるOBの方々との関係をより緊密にしておくことで、この問題を解決したい。そのためにもOB会の皆さまには、物心両面に亘るご支援、ご協力をお願いしたい」とのお話があった。

続いて山本次郎六稜同窓会会長からご祝辞と、新会長としての抱負を力強く語っていただいた。

その後、黒岩暎一事務局長(75期)から、平成15年度会計報告原案ならびに顧問および常任幹事の改選について説明があり、原案通り満場一致で承認された。なお、司会は85期の谷藤慶一氏が担当した。

## 第二部 記念講演

「歌とともに」と題して、作曲家としてご活躍中の大谷明裕氏(85期)にギターの弾き語りと講演をしていただいた。

冒頭、小林旭さんのために曲を作られたという「からす」をギターを弾きながら歌われ、「昔のカラスは七つの子などで歌われたように子供にも親しみやすい鳥であったのに、今では町の嫌われ者の代名詞になっている」、と世相の変遷について歌を通してお話いただいた。「一口に流行歌といっても、ニューミュージック、ポップス、演歌、邦楽等その幅は広い。演歌の「えん」も艶歌、宴歌、縁歌といった漢字で表わされるようにいろんな場面で歌われている。今後とも歌の原点を求めて作曲活動を続けていきたい。」と熱い口調で話された。講演の締めくくりには、「風来流れ歌」を熱唱され、会場から盛大な拍手が送られた。

## 第三部 懇親パーティ

85期の古平真氏と安原(旧姓佐藤)富美子さんの司会進行でにぎやかに催された。

まず、参加最年長の佐藤弘氏(49期)のご挨拶と乾杯の発声で幕が開き、しばし歓談の後、母校で教鞭をとられている加藤悦子先生(85期)、六稜同窓会事務局長の岡田一彦氏(65期)にご挨拶をいただいた。

また、この4月に東京方面の大学に入学された新会員にも、自己紹介と今後の抱負を語ってもらった。

その後、受付で配布された校歌の歌詞カードの番号による「くじ引き大会」が行われ、最新のゲーム機や高級シャンパン等、多数の賞品が当選者に贈られた。当選者には一言スピーチをしていただき、そのスピーチにちなんでまた賞品が当たるなど、先輩、後輩入り混じって、会場中大いに盛り上がった。

最後は、母校元応援部団長・竹村二郎氏(73期)の指揮の下、校歌「六稜の星」を全員で5番まで謳い上げ、長く東京六稜会の会長を務めていただいた大山氏に感謝のメール、新会長に就任された志甫氏に激励のメールが送られ、幕を閉じた。

第85期幹事

東京六稜会第48回総会が6月2日(木)、千代田区丸の内、東京駅から指呼の距離にある日本工業倶楽部で開催された。平成12年から行われていた改装が終わり、平成11年の総会から6年ぶりに日本工業倶楽部での開催となった。外観だけではなく、内装も古風で天井が高く趣きのある建物で、ほぼ改装前の雰囲気が残っている。

出席者は148名にのぼり、大阪から、ご来賓として母校校長(六稜同窓会名誉会長)の中垣芳隆先生、的場(旧姓高橋)栄子先生(86期)、六稜同窓会会長の山本次郎氏(62期)、六稜同窓会総務委員長の木村市三氏(73期)、広報委員長の富田昌宏氏(78期)、そして事務局の久保田静さん(73期)にご出席いただいた。

全体進行は、当番期である86期生(昭和49年・1974年卒業)が担当した。

## 第一部【総会】

午後6時、定刻どおりに第一部総会が開始された。

まず、志甫溥東京六稜会会長(66期)から同窓の皆が集うことを心から喜ぶとの主旨で開会ご挨拶があった。次に、中垣芳隆北野高等学校校長に、ご祝辞と北野高校の近況について資料を使って次のようなお話をしていただいた。

「年1回の出席で4回目になるが、定年なので今回は最後になる。全国に5000の高校があるが、北野高校は仕事に前向きの人ばかりであり、教える側と教えられる側の息が合っている。今年は論より証拠ということで資料を持ってきた。平成13年と平成16年の比較になるが、学校教育診断票でみると肯定的意見が増えている。また、京大・阪大・神大の合格者数が増えている。」

続いて、山本次郎六稜同窓会会長からご祝辞と、戦後60年ということで、ご自身の体験を交えて、大阪に残っている戦争の痕跡の話、同窓会館の活発な利用状況、同窓会活動の状況(フレッシュ六稜委員会など)の紹介をしていただいた。

その後、黒岩暎一事務局長(75期)から、平成16年度会計報告原案について説明があり、原案通り満場一致で承認された。なお、司会は86期の渡辺(旧姓

青木)邦子さんが担当した。

## 第二部【記念講演】

「Suica 開発物語」と題して、(財)鉄道総合技術研究所でご活躍中の後藤浩一氏(86期)にプロジェクター映像を使って講演をしていただいた。当事者だから語れる裏話を交え、技術的な内容が素人にも分かり易いよう動画をうまく使った講演で、上野駅での試験に若い頃のご本人が登場している場面やタッチ式の試験機がコミカルな動きをする場面では会場内に爆笑が起こった。いまや日常生活になくはならないものとも言える「Suica」がどういう経緯で生まれ、関係者の努力により成長(進化)し、世の中に出るまでの様子がよく分かるものであった。また、鉄道総合技術研究所の活動の紹介では、地下鉄日比谷線の脱線メカニズムの研究や新潟中越地震での新幹線脱線の話もあり、出席者は熱心に聞き入っていた。鉄道への熱意がひしひしと伝わってくる講演で、終了時に会場から盛大な拍手が贈られた。

## 第三部【懇親パーティ】

会場を2階から3階に移し、86期の加藤望氏の司会進行でにぎやかに催された。

まず、参加最年長の野田隆一氏(45期)のご挨拶と乾杯の発声で幕が開き、しばし歓談の後、10年前に当番期であった伊藤要一氏(76期)に当時を振り返ってのお話をしていただいた。また、この4月に東京方面の大学に入学された新会員にも自己紹介と今後の抱負を語ってもらった。

その後、受付で配布された校歌の歌詞カードの番号による「くじ引き大会」が行われ、高級ワインやプロ野球観戦券等、多数の賞品が当選者に贈られた。豪華賞品の当選者には一言スピーチをしていただいた。先輩、後輩入り混じって、会場中大いに盛り上がった。次回当番期(87期)の出席者全員の自己紹介があり、来年の総会に向けての抱負を語っていただいた。

最後は、母校元応援部団長・竹村二郎氏(73期)の指揮の下、校歌「六稜の星のしるしを」を全員で5番まで謳い上げ、東京六稜会の会長の志甫氏に激励のエールが送られ、幕を閉じた。

第86期幹事 神田 誠

## 第49回

平成18年6月1日(2006年)

■於：日本工業倶楽部

東京六稜同窓会第49回総会が6月1日(木曜日)、東京駅前の日本工業倶楽部で盛大に行われました。連日の雨で天候が懸念されましたが当日は快晴に恵まれ、125名に出席いただきました。ご来賓として大阪から北野高校校長石本正明先生、前校長中垣芳隆先生、六稜同窓会会長山本次郎氏など計6名の学校並びに同窓会関係者のご臨席を賜りました。

本年度の第49回総会は、87期(昭和50年卒)が当番期として全体運営を行いました。従来から慣れ親しんできた総会の運営方針を踏襲しながらも、明るく楽しく思い出に残る総会にしようと、当番期一同は様々な企画を試みました。総会の運営は厳かな中にもできるだけテンポよく、記念講演は87期の誇るエース松島みどり衆議院議員を起用し印象に残る話を、懇親会は六稜生が一体感を持つ事ができるような企画をと、当番期ならではの緊張感と高揚感のなかで、何度も同期会を開催し、事前準備を進めてきました。

## 【第一部総会】

第一部の総会は、日本工業倶楽部2階で、午後6時から行われました。総会は、東京六稜会志甫湊会長(66期)の開会の挨拶から始まりました。志甫会長は、挨拶の冒頭で遠路大阪よりお越し頂いたご来賓の方々への御礼を述べたあと、「来年は東京六稜会発足50周年で節目の年になります。これを機に総会の場所や運営方法も見直し、新たな総会にしていく所存です。」との同窓会の活性化へむけた意気込みを語りました。また「30周年で出席者だけに配られた記念誌に相当する冊子を50周年でも作りたい。」との構想を語りました。

続いて、名誉会長の石本正明北野高校校長からのご挨拶がありました。今年四月から前中垣校長の後任として着任された石本校長は、これまでの北野高校の路線を踏襲しながらも、新たな北野像を作り上げていくことを静かな語り口ながら、しっかりと宣言されました。続いて、六稜同窓会の山本次郎会長(62期)から丁寧なご挨拶がありました。

ご来賓の挨拶の後、東京六稜会事務局の黒岩暎一氏(75期)より、東京六稜会および東京六稜倶楽部の会計報告と第49回決議事項ならびに報告事項の説明がありました。決議事項では、東京六稜会役員の改選

で、15名の再任と3名の常任幹事辞任および4名の新任が報告されました。会計報告は、出席者の多数の賛成で承認されました。

### 【第二部記念講演】

総会に引き続き、衆議院議員松島みどり氏(87期)による記念講演会がありました。連日の重要法案審議の疲れも見せず、「落下傘候補、代議士歴6年に」と題した、衆議院議員になるまでの豊富なエピソードを、軽妙な語り口で語る姿は、北野高校時代に、大手前戦の歓迎の挨拶を大勢の前で堂々と語っていた姿を思い起こさせました。

### 【第三部懇親パーティ】

第三部の懇親パーティは、場所を三階のホールに移して行いました。当日出席中の最高齢の中太郎兵衛氏(46期)の乾杯のご発声により、懇親パーティが開始されました。

田上(岡)妙子さん、田中和明の87期コンビの司会進行で、ご来賓の方々のご挨拶を頂きました。中垣芳隆前校長のご挨拶は、4年間の北野高校で取り組まれた教育と着実な大学合格者の増加、スーパーサイエンスハイスクールとしての実績などを踏まえた素晴らしいものでした。引き続き鎌田俊一教頭(81期)、同窓会担当の出口学先生(94期)および六稜同窓会事務局長の木村市三氏(73期)からのご挨拶がありました。

しばしの歓談の後、87期の総力を結集したアトラクションが始まりました。加幡(山崎)多賀子さんと田中の関西弁コンビが掛け合いで、景品争奪クイズを始めました。題して「北野カルトクイズ2006」です。当日出席の六稜生ならば、誰でも知っているあの逸話やこの話、聞いた事があるが何だったっけ、という北野に関わるクイズです。「北野の歴代の校長先生は何人?」「断郊競走についてお聞きします。」「87期の我々が、在学中に何故百周年記念式典があったのでしょうか?」等等、珍問奇問が三問択一形式で次々と出題され、参加者は、各期の仲間と激論を繰り広げながら、自分がこれだと思うものを選んでいきます。「校舎の壁にあったグラマンの掃射跡の数はいくつ?」には、「俺は、自分で数えた」と正解を自己申告する方も現れるなど、出席者全員が、久しぶりに北野生の気分に戻って頂けたようでした。断郊競走の十位以内の方には、正解のボーナス点が与えられるなどにより、早々と4問正解で

景品を獲得する人や、「俺は最近、北野の歴史を全て調べ直したのだが、その答えは・・・」などの抗議がでるなど、和気合い合いの内にアトラクションは終了しました。

引き続き、新たな学生会員(117期と118期)一同の自己紹介と抱負の紹介がありました。ついで、当番期の87期全員が登場し、吉村正直くんから挨拶をしました。87期の記念撮影の後、88期が集合し、楠本佳子氏より来年度総会担当への決意表明がありました。

最後の挨拶は、出席者の最次年長の中村典美氏(49期)による、東京六稜倶楽部への出席のお誘いと最後の乾杯でした。中村氏は、「六稜の星のしるしを」を歌い出され、全員でフルコーラスを歌いました。そして最後のトリは、毎年恒例の応援団の竹村(泉)二郎氏(73期)の登場です。竹村氏の音頭で、もう一度「六稜の星のしるしを」を、全員が肩を組んで歌いました。こうして、出席した六稜生全員の暖かいご協力とご理解で、司会進行で様々なハプニングを起しながらも、懇親パーティはお開きとなりました。

第87期幹事 田中和明

## 第50回

平成19年6月9日(2007年)

■於：学生会館

第50回という節目の総会でもあり、少しでも多くの方にご参加いただき、総会をきっかけに同期会やクラブの交流が図れるようにと、これまでの平日夕刻の開催から土曜日のお昼の開催に変更し、同時に会費も気軽に参加できる価格帯に収めるなど、東京六稜会として新たな一歩を踏み出した総会でした。

当番期である88期は、1年半前から開催日時・会場の変更を企画し、本総会についての「よくある質問集」を公開したりネットを利用して早くから広報したりと準備を整え、記念総会に臨みました。

### 【第一部 総会】

司会進行は88期の楠本圭子さんが担当。まずは東京六稜会・志甫博会長から司会者との軽妙なやりとりも交えて、第50回総会の新しい試みと主旨に触れ、記念品の手拭いと小冊子「東京六稜会50年のあゆみ」についてのご説明や、懇親会で用意されている樽酒は大阪の六稜同窓会からの寄贈であることなどお礼とご挨拶がありました。来賓としてご出席いただいた六稜同

窓会名誉会長でもある石本正明校長、山本次郎六稜同窓会会長からもそれぞれお祝いの言葉を頂戴しました。

## 【第二部 記念講演とビデオ上映】

記念講演は、定藤規弘さん(88期・器械体操部)による「こころのふれあいと脳科学」と題した脳科学の最先端の話題です。「怪しげな視線」を人はどのように認知しているのかという問いかけから始まり、人間の脳が相手の感情を読み取るメカニズム、人間の行動特性が物質レベルで解明されてきたこと、“超血液型”ともいえる遺伝子レベルの類型と気質の研究などなど、興味深い話が続きます。参加者が皆うなずきながら聞いていると、最後のスライドが映され、「こころのふれあう場として同窓会を大事にしよう」と大きな文字が現れたときには会場が爆笑の渦に包まれ、笑いと盛大な拍手の中で講演は時間どおりに終了しました。

講演のあとは、北野高校が中学生向けに制作したプロモーションビデオ『六稜魂』を約10分に編集して上映し、母校を訪れる機会の少ない在京の皆さんから大好評をいただきました。

## 【第三部 懇親会】

講堂に隣接する会場に場所を移して開催された懇親会は、大阪の同窓会から贈られた清酒『六稜』の鏡開きで幕開けです。続いて最高齢の高山捷一さん(45期)より、ご挨拶と乾杯の発声をいただきました。

会場は300名の出席者にとってほどよい広さで、各期に振り分けられたテーブルでの歓談もいつしか渾然一体となって盛り上がります。お料理もおいしく、予想以上にバラエティと量があり、皆さん堪能していただけたようです。

歓談の合間には「脳トレ体操」や50周年の「50にちなんだプレゼント」などのアトラクションも準備。「名前に『五十』の字が入っている人」、「今年結婚50年を迎える人」「卒業50年目となる69期」の皆さん、そして「我々は北野に入学してから50年だ」という自己申告のあった72期の皆さんを壇上にお招きし、六稜グッズをお渡ししました。

いよいよ懇親会も終盤になり、次期当番期となる89期22名が集合し、代表の白石俊己さんから来年に向け、より会員が出席したくなるように取り組みたいとの決意表明がされました。最後に学ラン姿で登場した元応援団長の片山信浩さん(88期)のリードで校歌斉唱

が行われ、会場が一体に。「フレーエ～、フレーエ～、きっ・たっ・のおっ!」のエールとともに高揚感のあるフィナーレを迎えます。

総会終了後は、同期やクラブの集まりへと、参加者は三々五々闇が迫る都心の街へ。賑やかな中にも実り多い総会は、無事にお開きとなりました。

第88期幹事 五十君興

### 「東京六稜会の50回記念総会を迎えて」

東京六稜会長 志甫溥(66期)

2007年(平成19年)6月9日(土)の東京六稜会50回記念総会を迎えて、一言ご挨拶を申し上げます。

まずは、50回目の総会を迎えました事を東京六稜会員の皆様と一緒に喜びたいと思います。同時に情熱をもって東京六稜会を創設された諸先輩、心を込めて総会の準備・運営にあたってこられた歴代の幹事団の方々に感謝し敬意を表したいと思います。そして、いつの時代にも変わることなくこの東京六稜会をご支援いただきました母校北野高校の歴代の校長先生を始め関係者の皆様、六稜同窓会の会長、常任理事、事務局の方々に感謝するとともに厚く御礼を申し上げたいと思います。多くの方々の熱いご努力とご支援があって、50回の今まで続けてこられたことは申すまでもございません。

東京六稜会員は現在、首都圏(東京、千葉、埼玉、神奈川)を中心に4000名の規模にあります。首都圏に在住し地方へ単身赴任などで離れてもこの総会には出席したい、会員として案内をして欲しい等と希望される方には広く門戸を開放した運営をしてまいりました。実際に単身赴任者で大阪等から毎回のように参加される方もおられます。六稜同窓会員の総数は4万名とお聞きしておりますので、凡そ10人にひとりが大阪を離れてここの首都圏に在住されている事になります。

諸先輩に東京六稜会の発足の経緯などお聞きしますと、大阪・北野時代の良き仲間、良き先輩、後輩と会いたいとの純粋な懐かしい思い、あるいは六稜精神の確認のために集い始め、六稜を愛する大勢の人の熱い想いが東京六稜会という立派な組織をつくりあげ今まで継続して来られたのだと改めて感ずる次第です。

50回を記念して作成された本誌で、東京六稜会スタートのころから、毎年の総会の模様などを是非お読みいただいて、東京六稜の歴史を振り返っていただければ幸いに存じます。

この間、2003年1月15日(水)より毎月第3水曜日の昼食時に開催するようになりました東京六稜倶楽部は、今年の2月21日(水)に一足先に50回記念を迎えました。ここにも六稜を愛する大勢の人々を実感する事ができます。同時に毎回お願いしております北野の卒業生による卓話に、多士済々の人材を輩出し続けている母校の実力、凄さを感じざるを得ません。

他方、東京六稜会長を拝命して今後の100回記念総会を展望してみると、大きな課題にも気付かざるを得ません。それは東京六稜会、東京六稜倶楽部に参加いただく方々が年々高齢化している事と参加者が伸びない事です。そこで、この50回を節目にして、若い層にも

## 座談会

### 「東京六稜会50年を振り返って」

出席者：大山利雄(56期)・顧問、前会長

千田 稔(57期)・発足時幹事のメンバー、  
元常任幹事

竹井泰二(58期)・発足時幹事のメンバー、  
元常任幹事、前顧問

黒岩暎一(75期)・事務局

司 会：黒岩暎一(75期)・事務局

2006年11月15日 東京六稜会事務所(愛宕)にて

**司会：**本日は、わざわざお集まり頂きありがとうございます。ご存知の様に昭和33年に発足し第一回目の開催された東京六稜会総会は今度、50周年の記念総会に当たります。そこで、これまでの50年を振り返ることの出来る時代の証人とも言える方々にお越しいただきました。どのように東京六稜会は誕生し、継続し、50年という歴史を刻むことができたのか、根っ子の東京六稜会の原点みたいなお話をいただければと思います。また、次代にこの会を引き継いでもらうためのメッセージをお願いできればと思います。最初に、長く東京六稜会のお世話をいただき前会長をも務められた大山顧問から口火をきっていただけないでしょうか。

### 東京六稜会の発足

**大山：**私が東京六稜会に関与したのは地方の勤務から東京に戻った昭和44年当時からで、残念ながら発足当時は知らないのです。私が参加した時にはもう立派な幹事団ができていました。その幹事の中心人物の一人であった奥田義郎氏(44期)が偶々、同じ野村グループの役員をやっておられて「手伝ってくれないか」と誘われて会の世話をする一人に加わったのです。したがって、これは私より前から幹事団におられた千田さんや、竹井さんからまずお話をさせて頂きたい。

**竹井：**私が初めて東京に来たのが昭和29年。そのころからグループを作っていた訳ではないが、仲間が集まり出した。確か32年のころだと思うか同じ学年が集まって、別に集まっていたヴァイオリニストの辻久子のいとこの吉田君がいてそれと合体して皆で会う様になった。有楽町のエーワンという所で17名くらい集まっていたと思う。そうやって集まっているうちに、先輩から声がかかった。

積極的に参加して頂ける東京六稜会にして行く事を最重要施策として取り組んで参りたいと思っております。そのような問題意識があった所に、50回記念総会の当番幹事期より、従来の平日夕方からの総会開催から、若い皆さんが少しでも参加しやすい土曜の昼間に変えましょう、というご提案を頂きました。同時に、運営の改善に努めるために開催場所も学士会館に変更するという案を常任幹事会に諮り、ご賛同を得て今回の開催を迎えました。

土曜日の昼間に開催することによって、たとえば、総会閉会のあとで同期会を開くこともできるようになります。同期交歓の機会と日を同じくして、先輩、後輩とも交流できる・・・即ち、タテとヨコの出会いがいつでも持てる、そのような場ができるから、次回もまた集まる、いつでもそんな場があることを皆が知っている、「それが東京六稜会そのものです」と言えるような東京六稜会にしたいと願っております。より多くの若い会員の方々に喜んで気軽に参加していただく第一歩が、この50回記念総会となりますよう切望しております。

どうか、素晴らしい六稜魂、素晴らしい六稜精神に触れる場、先輩から後輩まで年齢を超えて楽しく集える場としての東京六稜会に今後ともご参集いただきますようお願いいたします。皆様のますますのご健康とご活躍をもとに、東京六稜会の60回・100回をめざして、この大事な和の絆を一層広め、強めて参ろうではありませんか。

平成19年6月9日



＜日本工業倶楽部での総会風景＞

左より、森繁久弥(45期)、松島みどり(87期)  
大山利雄(56期)、高垣仟二郎(39期)



森繁久弥(45期)の筆による「六稜」のお酒があり、東京の総会でも鏡割りをしていました。小瓶で楽しんだ方もおられたと思います。残念ながら神戸の震災の影響で、同窓の灘酒造は閉鎖され、幻の六稜となっています。



立派なお酒が出来上がりました。わがごどのようにうれしかったです。北中の連中も、又自慢が出来て大変でしょう。深く感謝します。早速神棚に供えました。私は、六稜の・・・どうたいました。久弥

東京六稜会を作ろうと最初に言い出したのは、たまたま僕の吹田第一小学校の先輩であった亀山仁郎(47期)さんである。そこで彼の勤務先である十六銀行なんかに集まっていた。そうこうする内に高垣(39期)先輩、奥田(44期)先輩が登場して一気に熱心な活動が開始された。そういう意味で、東京六稜会を提唱されたのは、確かに亀山氏なのだが、具体的な形を作るべく実際に引っ張っていかれたのが高垣さんで、それを奥田さんがいろいろと補佐されていた。

**千田:**とにかく高垣さんは一途な人で心底、北野を愛されていた。大げさでなく北野命と言うような人だった。だから周りの誰もがごく自然に彼にしたがって東京六稜会のかたちが出ていったのだと思う。

**竹井:**アサヒビール社長の山本為三郎(25期)氏が会長になられてからは、工場見学と称して吾妻橋工場の屋上でビアパーティをしたり、大森工場が新設になるとそこが東京六稜会会場になったりした。何しろビールを提供してもらえるので、皆ありがたかった。おつまみは第一ホテルから届けられたりしたものです。今でもありますが銀座1丁目の小さなビアホールで集まったときには、ひょっこり森繁久弥(45期)なんかもち同窓生として参加していた。そんな風に自然に同期の会ではなく縦糸の集まりができていったという事だったと思います。

**大山:**アサヒビールにはそれ以来ずうっとお世話になり、毎回、ビールを寄贈頂いている。山本会長が亡くなられてからも、専務になられた中小路茂次氏(58期)の計らいで続いている。また、サッポロビールの常務、サッポロライオンの社長を歴任された山根義夫(65期)氏が常任幹事に加わっていただいてから、これも毎回、ビール、ジュース、ウーロン茶などの寄贈をいただいている。毎月、第3水曜日に開催している東京六稜倶楽部の方も今年(2007年)2月に同じく50回目を迎えますが、会場の提供、料理の手配などで格段のご配慮をいただいているので立ち上げる事ができたし、継続する事ができている。有難い事です。

アサヒビールに話を戻せば、一方で高垣さんが毎年、秘書室に手土産を持って挨拶に行かれていた。そんな気配りを高垣さんはきちんとやられていた。

**黒岩:**そのことを聞いていましたので、私も事務局をやるようになって暫らくは、秘書室長を訪問し手土産に虎屋の羊羹なんぞを持ってお願いにっていました。しかし、何年か続けると先方から「山本為三郎と東京六稜会のことは、担当者が代わってもきちんと引き継いでい

ますので毎年わざわざおいでいただくだけでも大丈夫です」と言われ、最近担当の秘書嬢にFAXだけでお願いしている。

#### 常任幹事団

**司会:**高垣さんを支えられた人たちのことをご紹介します。

**大山:**私が来た時は、すでに東京六稜会イコール高垣さんのような状況であった。彼を中心に、軌道にのせ、継続するレールを敷かれたのが当時の幹事団だったと思う。その幹事団のメンバーがまた凄かった。母校北野の100周年を記念して、初めての東京六稜会員名簿をつくる事になり1973年4月付けで出来あがった。そこに当時の常任幹事方々のお名前が出ている。第3代の前田和三郎(25期)会長のもとに中学卒19名、高校卒8名合計27名。その常任幹事の最初に高垣任二郎(39期)氏の名前があり、以下、奥田義郎(44期)、南部博(45期)、丹部節雄(47期)、山田善二郎(48期)、吉田益雄(49期)、片岡誠(50期)、根岸要(51期)、竹原友吉(52期)、酒井秀郎(53期)、川瀬禎一(54期)、福井澄男(55期)、大山利雄(56期)、藤田田(57期)、千田稔(57期)、森田穰二(58期)、竹井泰二(59期)、今中祝雄(60期)、川口善三(60期)氏など、企業人も警察官僚も職業は様々であったが何れも北野のことについては一家言もつ々で、総会のうち合わせにあつまっても準備はそっちのけで、「アイツは今どうしている、母校の誰それ先生はどうだった・・・」などなど賑やかに楽しくやっていた。私もいつの間にかそれに染まってワイワイとやっていた。

**竹井:**当時は私も先輩からみたら下っ端ですから、もっぱら受付などの裏方を担当していた。今のようパソコンなどが無い時代だったので、何でも手作りで、名札も事前に用意してあるわけではなく、用意したりボンに受付時に名前を書いてもらったりした。

**千田:**案内状を出した後に出席の勧誘を皆で手分けしてやったもんです。何しろ、高垣さんが今回は200名、250名、最低300名などとノルマのように皆の尻を叩いたり、「お前の期は少ない。森繁が来るといって集めてくれ」などとハツパがかかった。

**大山:**私はそのころ事務局を担当していたので、東京六稜会の開催される3週間くらい前から、それこそ毎日自宅に電話が掛かって来て「今、出席予定者は何人になった」と聞く。毎日ですよ。私も電話が掛かってくる



時に必ず自宅にいるわけじゃない。そんなワケで代わって電話に出るオヤジと高垣さんがすっかり仲良くなったこともありました。

### 会を盛り上げた面々

**司会**：当時は幹事団の同期に有名人が多数おられて総会が随分と賑やかでしたな。

**竹井**：59期には手塚治虫がいて、彼はスケジュールの許す限り出席してくれた。イベントがある時には色紙に鉄腕アトムを描いて寄贈してくれた。会場でも頼まれると、気軽にサインもやってくれたので人気者であった。

**千田**：森繁さんと家が近かったこともあり家族ぐるみの付き合いをしていた。北野の卒業生で森繁さんファンクラブを作って「ポプラ会」と称して彼の公演を皆でしょちゅう見に行った。丁度、「屋根の上のヴァイオリン弾き」が人気の時代で、その時に開催された東京六稜会では幕間を利用して駆けつけてくれるものだから、ヴァイオリン弾きのメイクのまま登場して皆の喝采をあびてもう盛り上がりましたな。高垣さんは森繁さんの長兄と同期生でそのため「しげ、しげ」と呼び捨てでした。また、私の同期には日本マクドナルドの社長の藤田田がいて、彼は話がオモロイもんだから会場が爆笑に包まれる事が何度もありました。手塚さんと3人がそろった時はそれはそれは大賑わいでしたな。

**大山**：お陰で20回記念の時には参加者が歴代1位の350名になり日本工業倶楽部の会場の中はギュウギュウだし、廊下にも溢れていた。「料理が無い、酒が無い…」など大騒ぎでしたな。

### 東京六稜会の会場

**司会**：私か初めて参加した時の会場が光輪閣(当時の高松宮邸)でなんて凄い場所でやるのだろうかと思いました。会場については随分とこだわって決められていたようですが。

**大山**：光輪閣、日本工業倶楽部も高垣さんが段取りをされた。いずれも普通の人では使えない場所です。この辺りにも高垣さんの東京六稜会についての思いやこだわりが一番現れています。「同窓会だから場所はどこでもいいというのは普通の中学・高校であればそれで良いかもしれない。しかし北野の同窓会をやるのではそうは行かない。場所についても北野らしい品格が感じられる場所ではいけない。その事は言わなくても出席する人には判るものだ」と言っておられた。そのため

高垣氏が亡くなられてからも彼の意志を継いで場所を選んできています。

### ボランティアによる運営

**竹井**：会場だけではなく高垣さんは、「同窓会の運営はボランティアによる運営でなくてはならない。そして会費はできるだけ安くしなくてはならない。」とよく言われていました。実際、当時は500円の会費でした。

**千田**：打ち合わせの幹事会がおわると、よく銀座のスタンドバー「ヒロ」へ皆を連れていって来て、かれ独特のしゃがり声で同窓会のあり方をきかされましたな。その店の女将とは大阪時代からの懇意とかで高垣さんのことを「センマン、元気やったんか」と大阪弁でやりとりし、お陰で大阪弁が飛び交っていましたな。

**黒岩**：私もお相伴で一緒させていただいたことが何度かあります。なにしろ若くて初めて銀座にいったのが「ヒロ」でした。その折にいろいろと教わったなかで今でも印象深い事がふたつあります。一つは4代目の会長を玉置敬三(38期、当時東芝会長)氏にお願いに行かれた時に「会長の常として就職や仕事や寄付を頼まれる、それが困る」と最初は断られた。それについては高垣がガードして迷惑をかけないようにしますと約束して受けてもらった。「同窓会がそんな場になるとまともな人は来ないように。皆で注意しなくてはならない」ということ。もう一つは「同窓会の仕事は得になることなんて一つもない。だからやる価値があるのだ」ということです。

### 次世代の人達へのメッセージ

**竹井**：これまでの総会で350名も参加した時代は、森繁久弥、手塚治虫、藤田田など有名人がいて、またスピーチも賑やかだった。正直、それを目当てに参加していた人達もたくさんおられた。ところが、何年もそれが続くと、「賑やかな連中もいいが、普通の同窓会(旧友との懇親)をやって欲しい」との声も多く出た。最近、森繁に匹敵するような有名人の参加がなくそれだけのせいではないが、参加者が150名-180名と当時に比べて減少している。本来の普通の同窓会で尚且つ、多数あつまる。そんな東京六稜会を作っていて欲しいですね。50回を節目に土曜日、昼間の開催など若い人のアイデアで運営が変わる様なので期待しているし、応援したいと思っています。

**千田**：今は80歳をこえましたので出かけるのが大変に

なりましたが、出かけると「やっぱり北野の集まりは何時来ても心が和むし、オモロイな。来てよかった」と思います。そんな風に思える会として継続してもらいたいですね

**大山：**北野には六稜精神というものがありますね。よく「六稜魂」と表現して、対抗戦の応援時に大書して表現したりしますね。また、六稜同窓会でも「六稜魂」の手拭いにして配ったりします。それは北野を卒業したということはこの「六稜魂」を知ったという事だと思うの



左から高垣仟二郎(39期)、森繁久弥(45期)  
千田稔(57期)

です。「六稜魂」を一言で説明するのは難しい。自分の心の求めに応じて、高さを求めて生きていこうとする精神。自分をごまかさない精神、厚い友情を大事にする精神、悪しきものと戦う良心のとりで、そして誇り高い孤高の精神などいくつものことが含まれていると思います。50年前に東京六稜会を作られた先輩や高垣さん達を突き動かしたのはこの「六稜魂」であったのではないのでしょうか。損得や単なる懐かしさではなく「六稜魂」を確認し年代を超えた友人達とこの「六稜魂」に触れるために今日まで続いてきたし、続く努力をしてきたのではないのでしょうか。次代の皆さんにもこの素晴らしい「六稜魂」を是非伝える場として東京六稜会を続けていただきたいと想います。最後に、これまで東京六稜会にご支援いただいた皆様に厚く御礼を申し上げます。

**司会：**東京六稜会の原点としての「六稜魂」についてのメッセージをありがとうございました。

次の節目の東京六稜会100年が変わらずに迎えられるように祈念して座談会をお開きにしたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。 以上

### 東京六稜会60年のあゆみ

発行 2017(平成29)年10月31日

発行者 東京六稜会

tokyo@rikuryo.or.jp

編集 東京六稜会会報委員会

委員長

永井 司(77期)

委員

橋本 操(73期)

藤村 吉男(84期)

三條場洋子(84期)

伊藤 朋(94期)

村井 正親(96期)

平田 倫子(96期)

杉本 哲人(97期)

印刷 (株)橋本印刷 048-887-6464